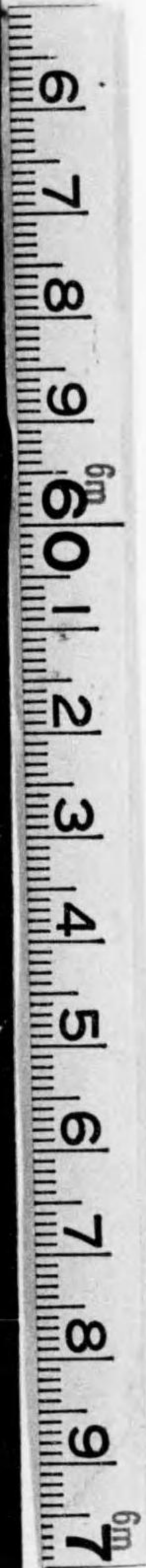


氣學入門 全

特257

95



始



特 257
95

田中胎東編

氣學入門 全

京都 氣學講堂發行



前書

本書は氣學結縁の士の參道の一助として編せるものなり。されど講堂の口傳に接し之と相俟たざれば斯學を知るを得ざるべし。

世に摩訶と謂ひ、南無と謂ひ、大乘と謂ひ、精靈と謂ひ、金神と謂ひ、御陽氣と謂ひ十柱神と謂ひ守護神と謂ひ三位一體と謂ひカシナガラ惟神之道と謂ふも氣學を知らずして之を正解する能はず。

氣學の幽妙至玄なる哲理の解説は之を氣學玄義に委ね本書は單に之が般若の根を養ふ而已。

昭和己巳雨水

編者識

氣學入門

目次

- 氣 一丁
- 性靈とは空氣也 一
- 吉凶は動より生ず 二
- 吉凶とは得失を謂ふ 三
- 天干地支と九氣 四
- 五氣生々の順逆 七
- 本命の撰知 七
- 九氣の祐尅と神殺 八
- 孟母三遷の教 十一
- 遁甲 十一
- 運 十三

- 曆の概念 十四
- 地球上の時刻と方位 十七
- 先天之圖 十九
- 後天定位 二十
- 盤 二十
- 三元 二十一
- 四盤表 二十二
- 三合 四十三
- 線路 四十四
- 四淨土 四十五

附

月及時の十二支配別表
 月の十幹撰知表

氣

- 氣とは無形の質を指す。
- 地球を包み六合に彌る空氣を總稱して大氣と謂ふ。
- 大氣は大氣原子と稱する八角立法體極微粒子の密集より成り天と地との間に介在充滿し日夜太陽と地球の爲す作用を接受化通して止まず。
- 一切の生類は皆
 - 大氣の底に生れ
 - 大氣の底に棲み
 - 大氣の底に死す。
- 大氣と人生の有縁豈重大深長ならずや。

性靈とは空氣也

- 氣を保つ之を性と謂ふ。
- 吾等人類は皆
其性を天より稟け
其質を地より稟く。
- 乾道男を爲し
坤道女を爲す。
- 乾坤交つて胎生す。
- 心を養ふは氣を以てし
體を養ふは食を以てす。
- 生とは大氣の保有持續を得るを謂ひ

死とは之を喪ふを謂ふ。

- 性の其生を失へるを靈と稱す。
則ち

性と靈とは

其體同一にして唯其用大氣一極の得失あるのみ。

- 性靈とは空氣也。

吉凶は動より生ず

- 吉凶は動より生ず
- 動とは變化を指す。
- 凡そ
身の安危

家の存亡

國の興敗

を始め

財産の増減

計算の損益

相場の騰落

天候の晴雨 等皆動に據る。

○時は間斷なく動く。

○太陽の公轉と地球の自轉は久遠に止まず。

○人、靜まらんご欲すれども深夜眠りて尙動かざるを得ず。

諸行無常とは之を謂ふ。

○天地自ら動き

大氣之を通ず。

○自己の心氣の靜動と

天地の大氣の靜動と

一致するを順と謂ひ

一致せざるを逆と謂ふ。

○順は健康、幸福を作為し

逆は病苦、災禍を作出す。

○人、天地運行の大營作を順用せば人生の幸慶に悅樂するに至

る可く之を逆用せば人生の困苦に煩惱するに至る可し。

之を

○天に順ふ者は榮へ

天に逆ふ者は滅ぶと謂ふ。

吉凶とは得失を謂ふ

- 吉凶とは得失を謂ふ。
- 得とは收受、入増を指し失とは授與、出減を指す。
- 財産の得失は貧富を爲り健康の得失は息病を別ち名譽の得失は貴賤に關し縁談の得失は良否を作り入學試験の得失は及落を決し就職の得失は難易を定め事業の得失は成敗を劃すべし。

- 得るを陽運、盛運とし失ふを陰運、衰運とす。
- 得る氣を祐氣と稱し失ふ氣を尅氣と稱す。
- 祐氣を稟くる者は益々得、尅氣を稟くる者は愈々失ふ。
- 祐氣を呼吸するを神の加護を稟け大自然の恵みに浴すと謂ひ尅氣を呼吸するを神罰を蒙り大自然の制裁を受くと謂ふ。
- 尅氣の吸入、呼吸を轉じ祐氣に赴くを回向と謂ふ。則ち除禍招慶の方とす。

天干地支と九氣

○三界

天	乾	胎	坤	地
人	子	母		
父	十幹	九氣	十二支	
太陽	大氣	地球		
動	運靜			

○十幹

妊孕の際父を通じて稟くる
天氣の作用に左の十種あり。

甲	乙	丙	丁	戊	己	庚	辛	壬	癸
木氣	火氣	土氣	金氣	水氣					
(酸素)	(水素)	(炭素)	(窒素)	(鹽素)					

○十二支

妊孕の際母を通じて稟くる
地氣の作用に左の十二種あり。

子	卯	午	酉	旺氣
丑	辰	未	戌	(墓氣)
寅	巳	申	亥	(生氣)

○九氣

乾天坤地と交つて生る

○四季の變化は大氣原子内に於ける九氣の作用に據る。

東は木氣旺 春こそ

南は火氣旺 夏こそ

西は金氣旺 秋こそ

北は水氣旺 冬こそ

○一季の終に各々土用あり。

之を四季の土用と謂ふ。

土用の期間は各季末十八日六時間とす。

土用とは墓氣を指す。

○人は天の十幹と地の十二支の氣を稟けて生れる九氣の象と爲れるものにして其體内に保有せる氣を心氣、精神、本命、守護神と稱す。

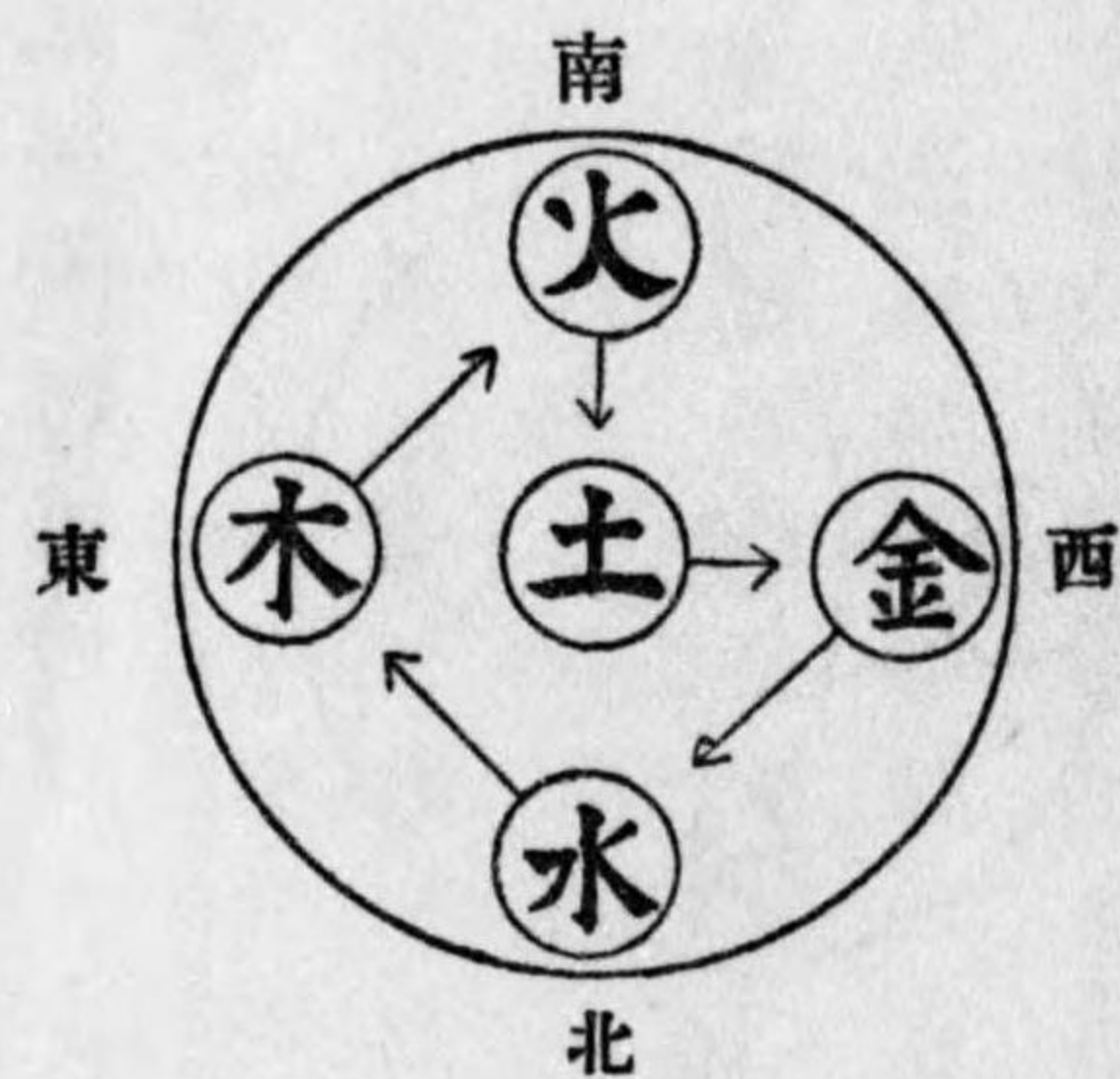
○十幹は木火土金水の五氣に剛柔に據り兄弟を區別せるもの

とす。

○太陽は大氣を通じ地球に對し其光線と熱とを以て五種の作用を與ふ。之を古來五行、五蘊、五常と謂ふ。

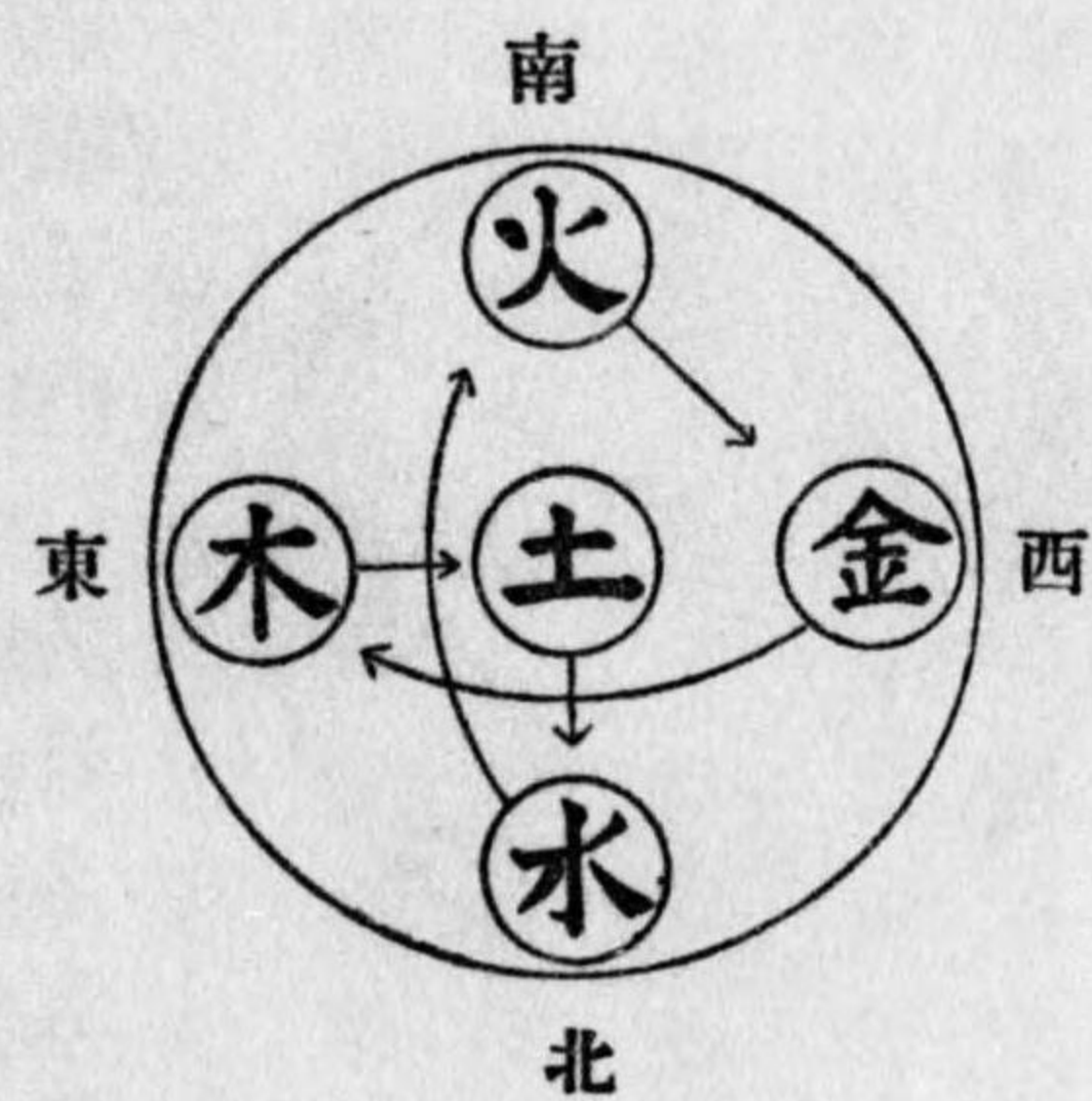
五氣生々の順逆

○大氣原子内に於ける五氣生々の順理左の如し。



水生木	木生火	火生土	土生金	金生水
-----	-----	-----	-----	-----

○大氣原子内に於ける五氣尅殺の逆理左の如し。



土尅水	木尅土	金尅木	火尅金	水尅火
-----	-----	-----	-----	-----

本命の撰知

- 人、出生の際稟くる大氣を本命と謂ふ。
- 本命は出生の年月日時を以て年の本命

月の本命

日の本命

時の本命 さに四別す。

○本命は實に人にまつて其天地との連繫を營む基根たり。されば

○人の處世の要諦は

先づ己が本命を知るに在り

己が天地の徳の稟け方を知るに在り

己が天地の命を知るに在り

則ち約言せば己を知るに在り。

○本命を知らむと欲せば其生年月日時を以て後記四盤表を繰用参照し之を撰出すべし。

但明治六年正月元旦より以前に生れたる人は舊曆に付月

盤二十四節に據り之を定むべく
 尙節替日は年に據り多少の遲速あれば大氣運行過程を以て之を知るべし。

○抑々人の天運の太極は本命に在り。

○滿十八歳以下の未成年者は其月の本命を以て天地連繋の太極とし滿十八歳を超えたる者は其年の本命を以て之が太極とす。

○世に自力本願、大乘、唯我獨尊、獨立自營と説くも其論據皆本命に置くのみ。

子曰 五十而知天命 (論語)

九氣の祐尅と神殺

○自己の本命を次表に参照して其祐氣及尅氣を知るべし。

本命	一白水氣	二黒土氣	三碧木氣	四綠木氣	五黄土氣	六白金氣	七赤金氣	八白土氣
祐氣	生氣 吉大	七六 赤白	九 紫	一 白	一 白	九 紫	八二 白黒	九 紫
	退氣 吉小	四三 綠碧	七六 赤白	九 紫	九 紫	七六 赤白	一 白	七六 赤白
尅氣	和氣 吉中	ナ シ	八 白	四 綠	三 碧	八二 白黒	七 赤	二 黒
	殺氣 凶小	九 紫	一 白	八五二 白黄黒	八五二 白黄黒	一 白	四三 綠碧	一 白
氣	死氣 凶大	八五二 白黄黒	四三 綠碧	七六 赤白	七六 赤白	四三 綠碧	九 紫	四三 綠碧

九紫火氣	四三	綠碧	八二	白黒	ナ	シ	七六	赤白	一	白
------	----	----	----	----	---	---	----	----	---	---

○九氣の祐尅は其體カクチに無く其用ハタラクに有るものにして人の適性、物の應性には之を用ひず。

○祐氣に生氣、退氣、和氣の三別あり。

○尅氣に殺氣、死氣の二別あり。

○生氣は幸慶を受けて與へず、退氣は之を與へて受けず、和氣は之を與へ且受く。

○殺氣は災禍を輕侮し死氣は之に制壓せらる。

○尙、祐氣を助長する吉神左の如し。

天導、天德、天合、
 月德、月合、月空、
 生キョウ、生キョウ、
 而して

○尅氣最も酷烈にして恐る可きは左の六大凶殺とす。

本命氣 的殺氣

暗劔殺氣 五黃殺氣

歲破氣 月破氣

○本命氣の對中を的殺氣と謂ひ
 五黃氣の對中を暗劔殺氣と謂ひ
 大歲氣の對中を歲破氣と謂ひ
 月建氣の對中を月破氣と謂ふ。

○本命の氣を稟くれば其性を失ひ
 的殺の氣を稟くれば其業を破る。
 暗劔殺の氣を稟くれば兇惡交々至り
 五黃殺の氣を稟くれば萬物土に化す。
 歲破の氣を稟くれば障害に惱み

月破の氣を稟くれば歲破の十二分の一の作用を蒙る。

○人の天地の氣を稟くる後天作用

別言せば

人の天地の恵みを稟くる自疆手段

神の加護、佛の慈悲に浴する實行方法は之を二とす。

一は其身體の保氣を以て之を爲し

一は其住家の保氣を以て之を爲す。

○神とは社殿の莊嚴に非ず。

佛とは堂塔の華大に非ず。

神も佛も一に大氣發動の用を指す而已。

○身の進退、家の修造動土、豈輕々に附すべけんや。

孟母三遷の教

○同氣相合ふ。

○祐氣は祐氣の軌のみを走り

尅氣は尅氣の軌のみを追ふ。

○一度び祐氣を用ふれば自ら無意識に二度、三度之を累ね

一度び尅氣を用ふれば自ら無意識に二度、三度之を積む。

○幸運時代は求めずして愈々幸運を生加し

不幸時代は戒慎注意して又々不幸を累招す。

○祐氣より尅氣に赴くは易く

尅氣より祐氣に赴くは難し。

○回向は敬神篤信の士のみ之を能くす。

○回向して尅氣より祐氣に轉向し亦舊の尅氣に斷じて戻らざるを期するには祐氣を用ふる事繼續して三度を要す。

○孟子の母が孟子の爲めに其住居を三度遷せしは之を指す。則ち

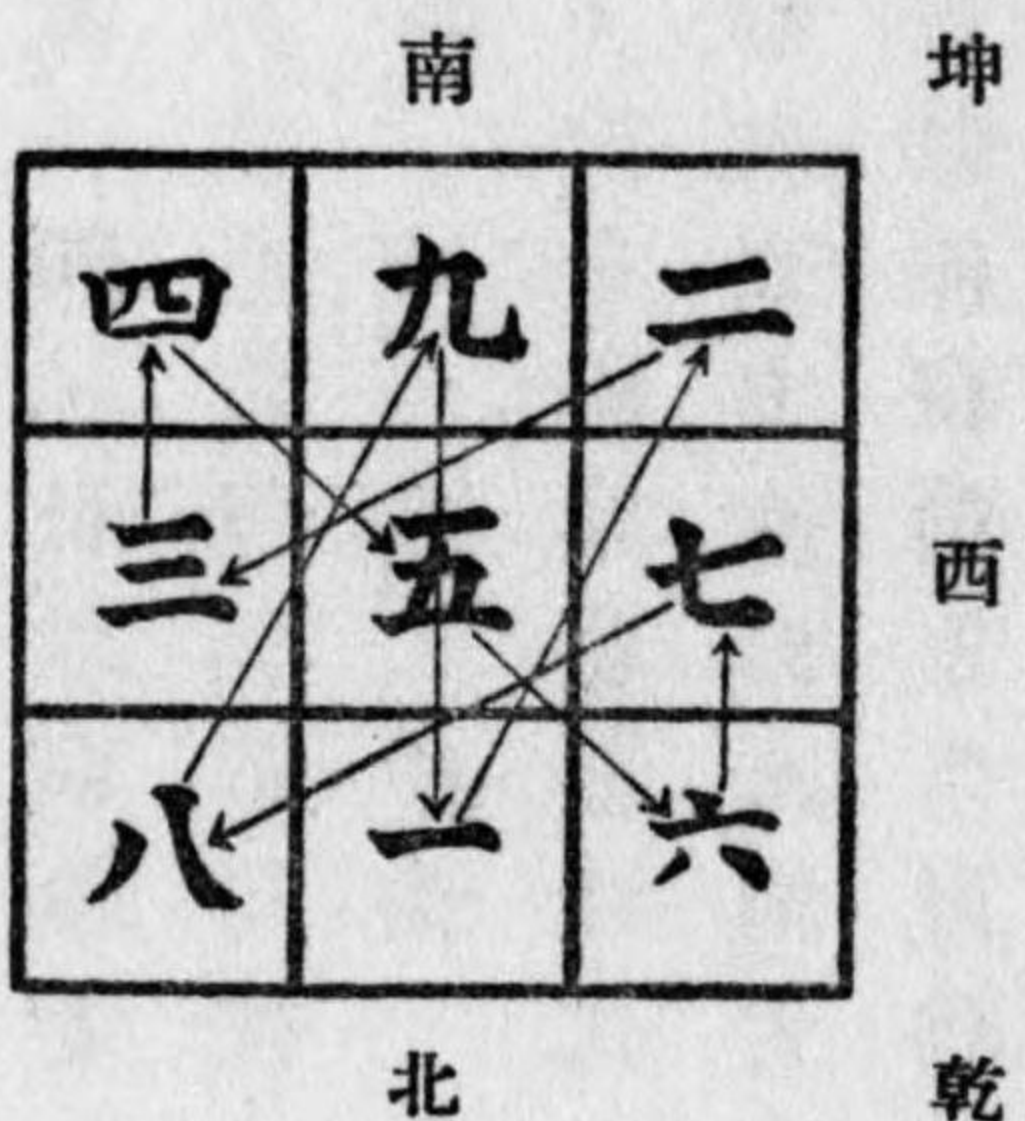
○孟母三遷の教は十九歳以下の幼少時に祐氣三度を用ふる者は自ら尅道に陥る無く生涯處世安易の天尊に歡喜するに至るべきを教示するものぞす。

遁甲

○遁甲は天地自動の大營作を受けて大氣の運行循環する徑路を謂ふ。

○大氣を構成する大氣原子は其一極を定むるや

年月日時に左の如く流動して止まず。



○遁甲の順序

大氣原子内中央より

乾へ

衰運初 (衰初)

同 乾より

西へ

(衰沈)

同 西より

艮へ

(衰變)

同 艮より

南へ

(衰旺)

同	南	より	北	へ	衰運終	(衰極)
同	北	より	坤	へ	盛運初	(盛初)
同	坤	より	東	へ		(盛進)
同	東	より	巽	へ		(盛旺)
同	巽	より	中央	へ	盛運終	(盛極)

○本命の氣の在泊大氣原子内に於ける

乾、西、艮、南、北の

五方位を陰運衰運時代とし

坤、東、巽、中央の

四方位を陽運盛運時代とす。

○本命右五方位に在泊して盛陽と爲り

四方位に在泊して衰陰と爲るを逆運と稱す。

○逆運は尅氣を稟けたるに因由す。

されど

○家の祐氣を稟けたる者は五方位四方位を通じて常に盛陽の運を致し生々止まざるものとす。

運

○自然の成行、自然の廻り合せを運と謂ふ。則ち

運とは自ら動行せずして來るものとす。

○運に陽運陰運の二種あり。

○陽運とは心氣銳進、天地と其歩調を同うして諸事開達、得増する盛勢を指し

陰運とは心氣鈍退、天地と其歩調を同うせず諸事屈縮、失減す

る衰勢を指す。

而して亦

○人の運に

初年の運

中年の運

晩年の運の三別あり。

○初年の運は生涯を通じ左の三度陽運に接す。

二十五歳ヨリ 二十八歳マデの間

三十四歳ヨリ 三十七歳マデの間

四十三歳ヨリ 四十六歳マデの間

○中年の運は生涯を通じ左の三度陽運に接す。

三十四歳ヨリ 三十七歳マデの間

四十三歳ヨリ 四十六歳マデの間

五十二歳ヨリ 五十五歳マデの間

○晩年の運は生涯を通じ左の三度陽運に接す。

四十三歳ヨリ 四十六歳マデの間

五十二歳ヨリ 五十五歳マデの間

六十一歳ヨリ 六十四歳マデの間

○初年の運は三碧四緑とし

中年の運は九紫一白とし

晩年の運は六白七赤二黒五黄八白とし

○家の祐氣を稟くる者は初年中年晩年を通じて天陽の徳を稟受するのみならず實に家の腐滅せざる限り子々孫々之を繼承接受すべし。

曆の概念

○日月星辰運行の態を録し人に時を授くるを曆とす。

○曆に太陰曆、太陽曆の區別あり。

○太陰曆は月を以てし

支那の帝堯、義和に命じて之を造り

太陽曆は日を以てし

ローマのジュリアス、シーザーが埃及の星學者ソシゼニースに命じて之を造れるものとす。

○我國に於て曆の始は

欽明天皇の十五年甲戌年(紀元千二百十四年)百濟より易博士王道良、曆博士王保孫の來朝に端を發し

後約五十年を経て

推古天皇の十年十月

百濟の僧勸勒が曆、天文、地理、遁甲、方術の五書獻貢を爲すや陽胡史の祖玉陳が之に師事して曆を學び大友の村主高惣が天文を學び

推古天皇の十二年甲子正月(紀元千三百六十四年)に至り始めて曆日を用ふ。

○後之が改正を示せば左の如し。

支那曆時代

元嘉曆 七年間

(推古天皇十二年)

儀鳳曆 六十六年間

大衍曆 九十三年間

五紀曆 五年間

宜明曆 八百二十三年間

國曆時代

貞亨曆 七十年間 (保井春海造)

寶曆曆 四十四年間 (安部泰邦造)

寬政曆 四十四年間 (高橋至時造)

天保曆 三十年間 (澁川景佐造)

太陽曆 明治六年より現在

○現在我國に用ふる曆はジュリアス、シーザーがソシゼニースに命じて造らせたる一年を三百六十五日とし四年毎に二月末に一日の閏日を置くこと定めたる曆を紀元千五百八十二年ローマ法皇グレゴリアン十三世が訂正せるものにして

明治五年十二月三日を以て

明治六年一月一日を爲せり。

○當時次の詔書を下し賜ふ。

朕惟ふに我邦通行の曆たる太陰の朔望を以て月を立て太陽の纏度に合す。故に二、三年間必ず閏月を置かざるを得ず。置閏の前後時に季節の早晚あり終に推歩の差を生ずるに至る。特に中、下段に掲ぐる所の如きは率ね妄誕無稽に屬し人知の開達を妨ぐるもの少しとせず。

蓋し太陽曆は太陽の纏度に従つて月を立つ。日子多少の異ありと雖も季節の變なく四歳毎に一日の閏を置き七千年後僅に一日の差を生ずるに過ぎず。

之を太陰曆に比すれば最も精密にして其便不便も固より論を俟たざるなり依つて自今舊曆を廢して太陽曆を用ひ天下永世之を遵行せしむ。

百官有司其れ斯旨を體せよ。

治國莫大於定曆

(靈元天皇御詔)

地球上の時刻と方位

- 地球は其地軸の周圍を一廻轉するに二十三時間五十六分四秒を要す。
 - 正午とは其土地に於ける太陽の南中直射する時刻を指す。
 - 同一子午線上にある土地を除き各地皆其正午を異にするものにして
- 例へば長崎が正午の時は東京は十二時三十八分三十一秒となる。之れ東京は徑度に於て長崎より九度五十二分三十秒丈け東に在り毎日太陽は時間にして三十八分三十一秒丈け長崎より早く其子午線を通過するものとす。
- 則ち之を換言せば

○地球自轉の結果經線一度東に在る地の時刻は其地より四分間進み西に在れば四分間遅くるものごとす。
 ○斯く各地に於ける時間の遅速を時差と稱す。
 ○時差より生ずる不便を除き全國各地の正午を同一ならしむるを標準時と爲す。

○我國の標準時は東經百三十五度の子午線を以てす。
 即ち露領黑龍江地方より日本海に入り丹後の久美港、丹波の福知山の近くを過ぎ兵庫の西方三里の地點を通過し和歌山の西三里餘の所より太平洋に入る子午線を通過する時刻を以て中央標準時と爲せり。

(尙此他西部標準時あり臺灣沖繩に用ふ)

○今中央標準時を本とせる各地の時刻を示せば左の如し。

中央標準時より早く正午となる故左の分秒を減す		中央標準時より遅く正午となる故左の分秒を加ふ	
札幌	二五、三一 ^分 秒	徳島	一、四七 ^分 秒
東京	一九、〇八	廣島	一〇、一二
名古屋	七、三三	山口	一四、一五
京都	三、〇〇	福岡	一八、二七
大阪	一、五五	鹿兒島	二〇、三一
和歌山	、三三	沖繩	二九、一九

○地球上の方位を分界表示せる地圖の正確なるものは未だ之を見ず。

○結縁の士は先づ陸地測量部と海軍水路部との發行せる地圖を採用すべし。

されど之等も正確期し難く東方を見て行き實際作用は巽の作用を稟けたるが如き例證に乏しからず。

蓋し航空機の發達を見ざる時代の測定の結果を信ず。

○されば各地の方位の正確を期するには氣學對中の理を用ふべし。

對中の理の詳説は氣學玄義に載す。

○今東京宮城を中心とせる各地の方位を掲ぐれば左の如し。

東の方 船橋。千葉市。木更津。銚子。

巽の方 御宿。勝浦。小湊。(千葉縣)

南の方 相州金澤。横須賀。浦賀。葉山。逗子。鎌倉。

小笠原島。

坤の方 横濱。静岡。大阪。神戸。四國。臺灣。上海。

西の方 甲府。金澤。名古屋。京都。松江。京城。大

連。門司。青島。天津。

乾の方 高崎。前橋。水上。長野。新潟。奉天。新京。

北の方 赤羽。宇都宮。日光。鹽原。山形。秋田。弘前。

小樽。札幌。函館。樺太。

艮の方 市川。成田。土浦。水戸。仙臺。森岡。根室。

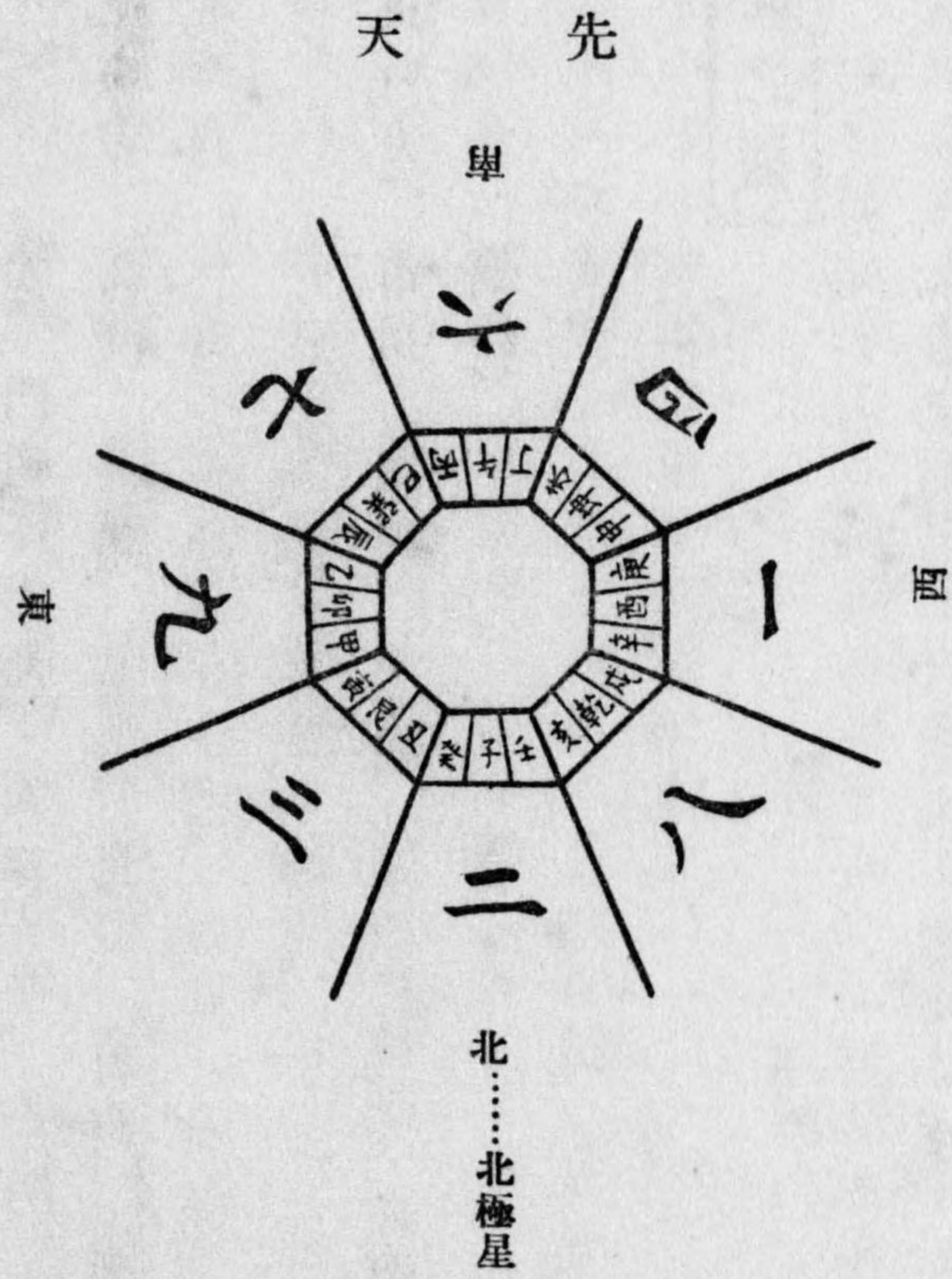
釧路。

先天之圖

○先天の理は太古支那の帝伏羲氏の創見とす。

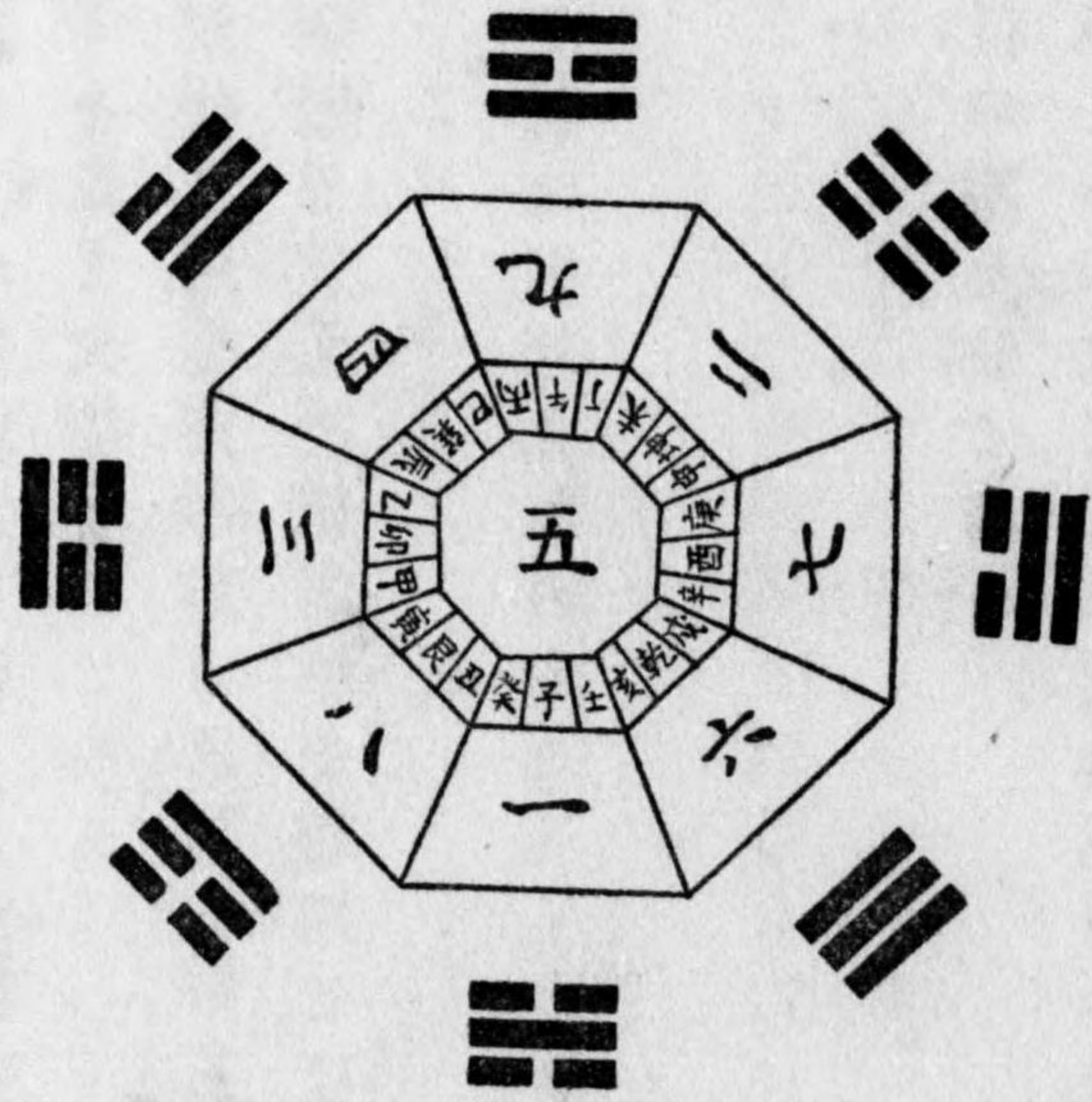
○先天の大氣は九六の祐氣を修齊せざれば人の肉眼に映ぜずと雖も右示の如き色象を呈す。

○先天の理の説述は之を氣學玄義に委ね初學は唯、先天之圖示を記憶せば足る。



後天定位

後天定位



- 後天の理は大禹九年の洪水を治めたる際黄河の流水より神龜を得、其體甲を見て大悟せりと傳ふ。
- 後天定位の盤は天地、後天作用の始初を示す。
- 後天の理を知覺し以て後記四盤を善用せば處世安易の妙法を得べし。

○後天の理の解説は拙著九氣密意として之を別冊に收む。

盤

- 前示後天定位の圖を盤と謂ふ。
- 盤とは大氣原子の示象にして天地運行の表象圖とす。
- 抑々大氣は一極を定むるや。
- 東西南北の四正位及

乾巽坤艮の四隅位の八方を決す。

- 森羅萬象の一切は八方を出でず。則ち

- 盤は天神下降の方

地佛垂跡の法を人に教ゆるものとす。

佛教に於て之を曼荼羅(曼陀羅)と謂ひ宇宙の形相を圖示せるものとす。

- 抑々天地の方則を人に示すを宗と謂ひ盤は即ち宗の核たり。佛教の涅槃も之を指し

神道の常盤堅盤も亦之を指す。畏くも八咫鏡の三種の神器として在す所以也。

- 盤に四種あり年の盤

月の盤

日の盤

時の盤 こそす。

之を四盤と謂ふ。

○人は生誕と共に其本命の氣として四盤の氣を稟く。

○人の天運は四盤の行ふ生路の先導に過ぎず。

三元

○太陽と地球は互に時々刻々其位置を移動變轉して亦元の位置に復歸するに百八十年を要す。

○内、初めの六十年を上元

次の六十年を中元


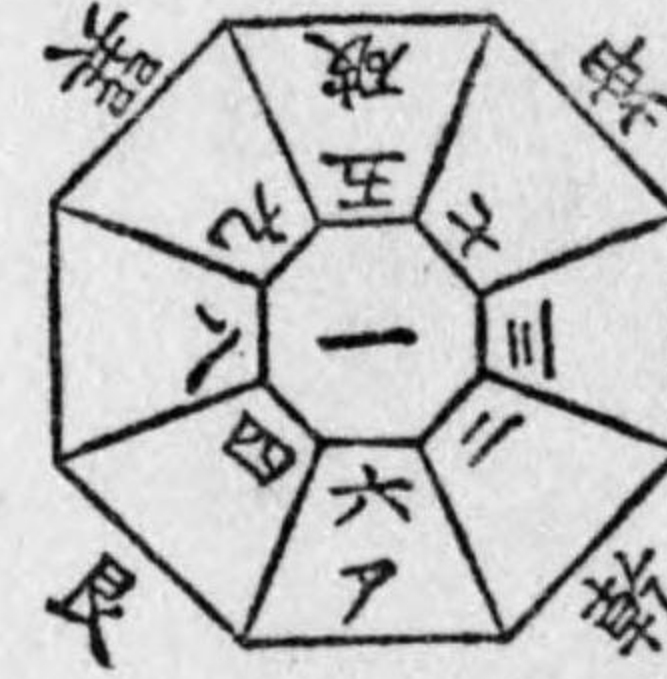
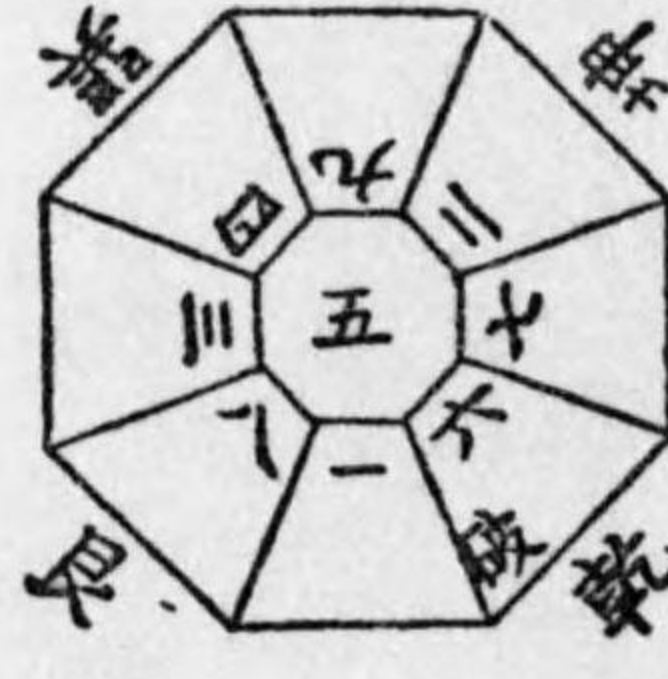

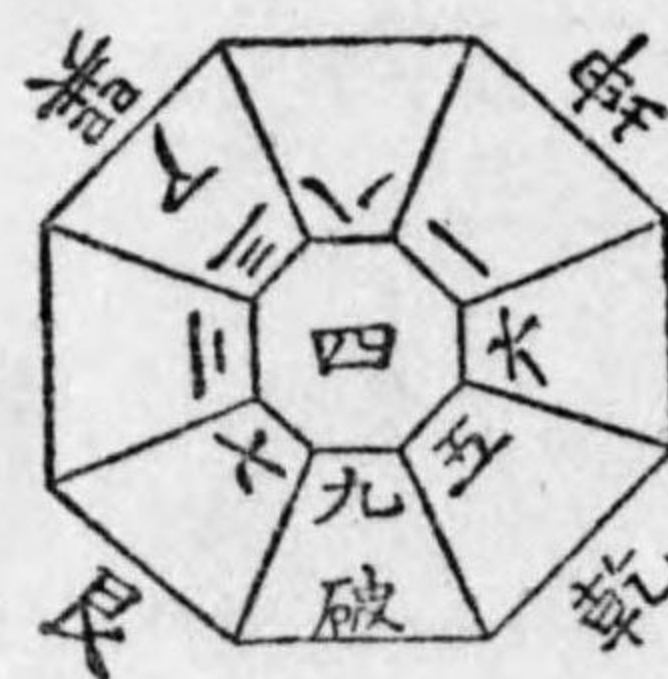
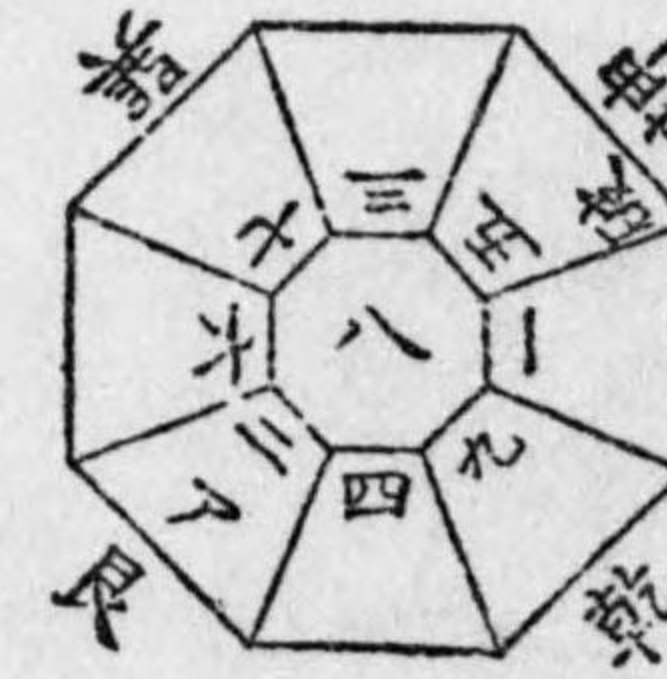
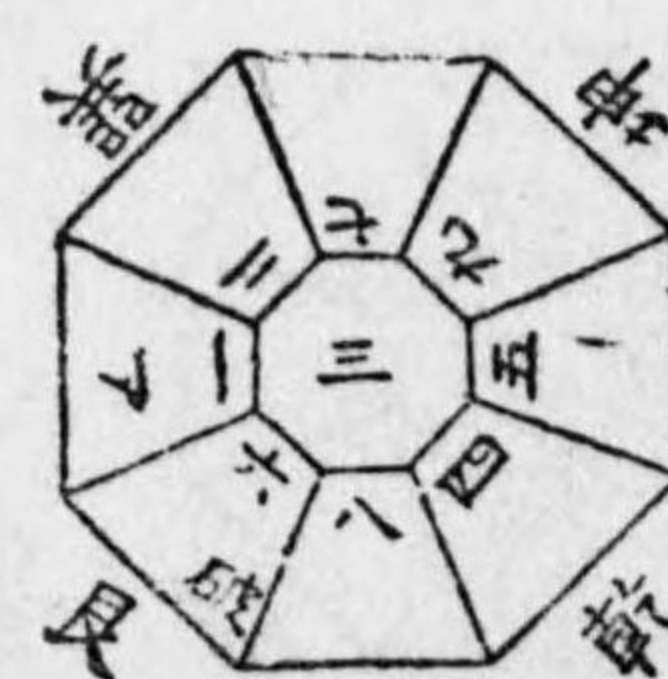

終の六十年を下元 と謂ふ

○一元は天地運行の一期を劃す。

○一元期の初終には必ず天變地異を發生すべし。

○天變地異は時勢の變化を誘起すべし。

始元上

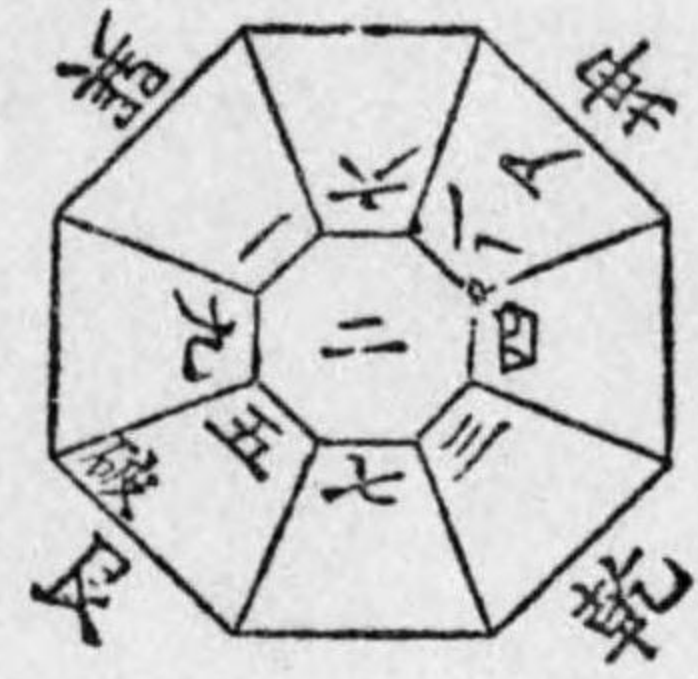
 <p>元祿 明治 元元 戊辰</p>	 <p>貞享 元治 元元 甲子</p>
 <p>同同 二二 己巳</p>	 <p>同應 元二 乙丑</p>
 <p>同同 三三 庚午</p>	 <p>同同 二三 丙寅</p>
 <p>同同 四四 辛未</p>	 <p>同同 三四 丁卯</p>

四盤表

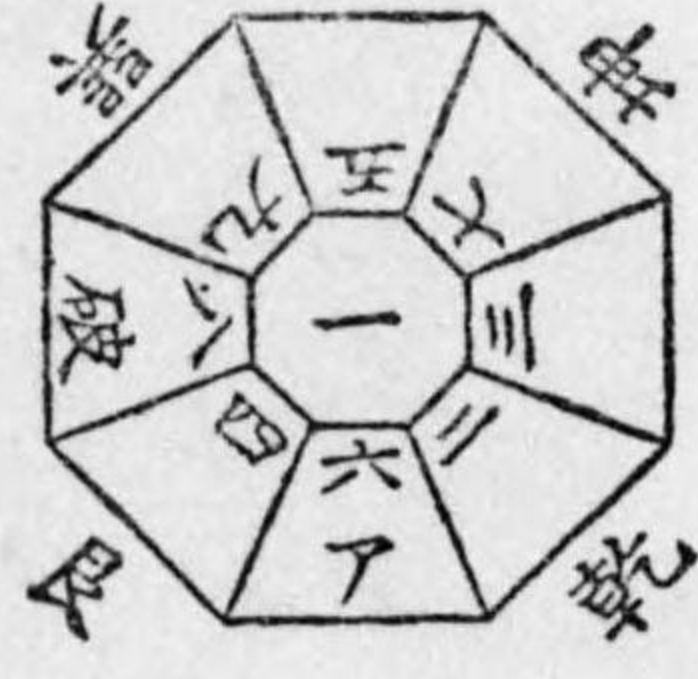
○年盤

略號 (破ア...暗劔殺)

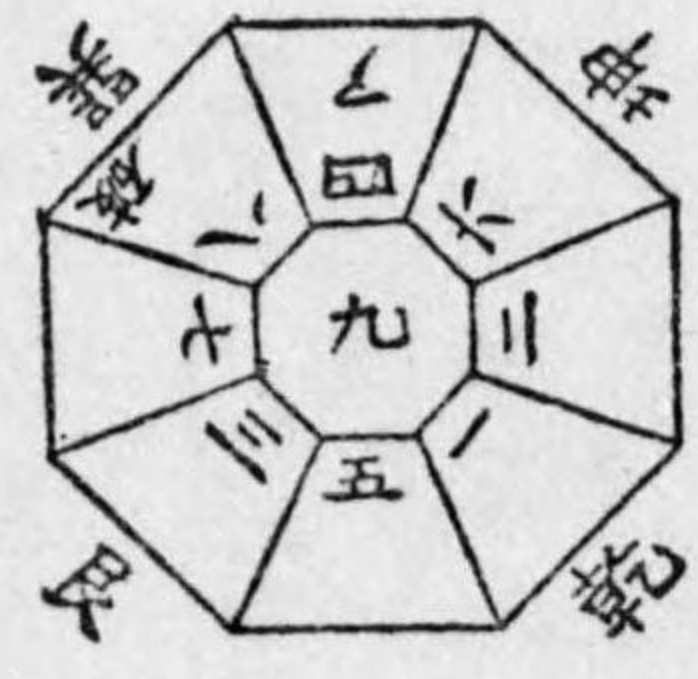
元祿
明治
五五
壬申



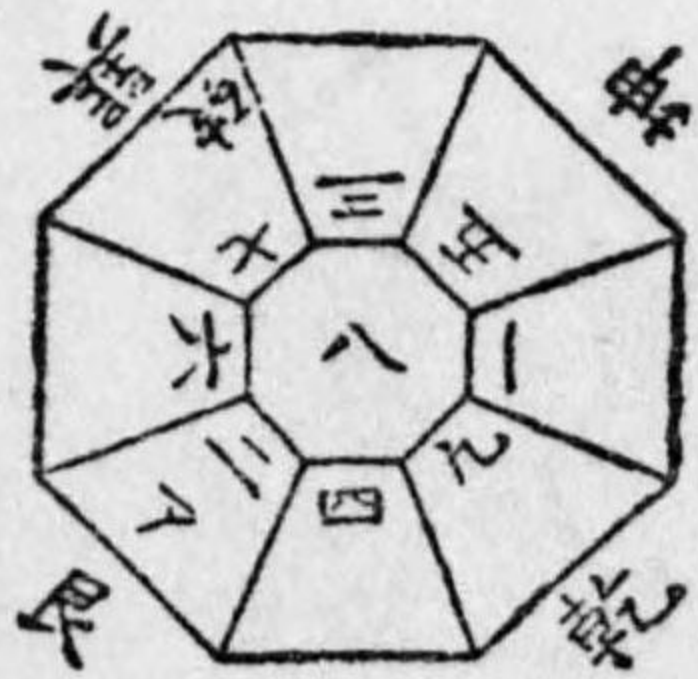
同
六六
癸酉



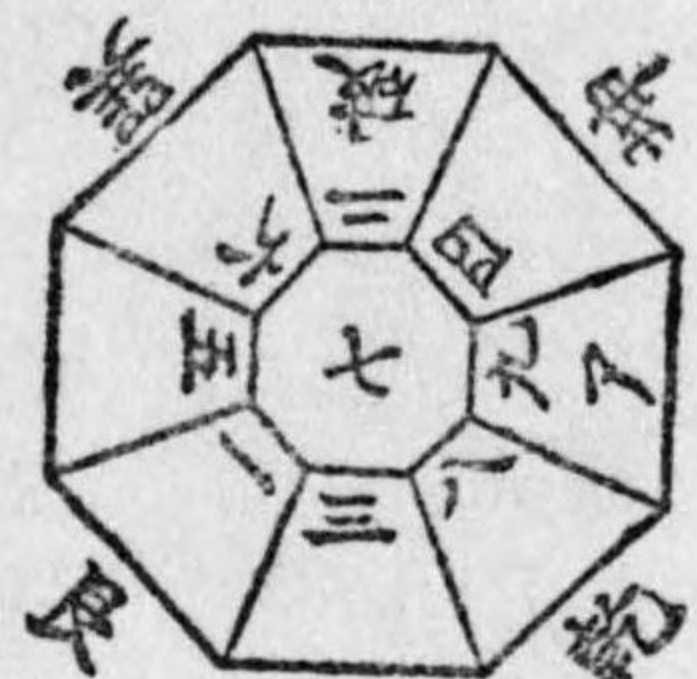
同
七七
甲戌



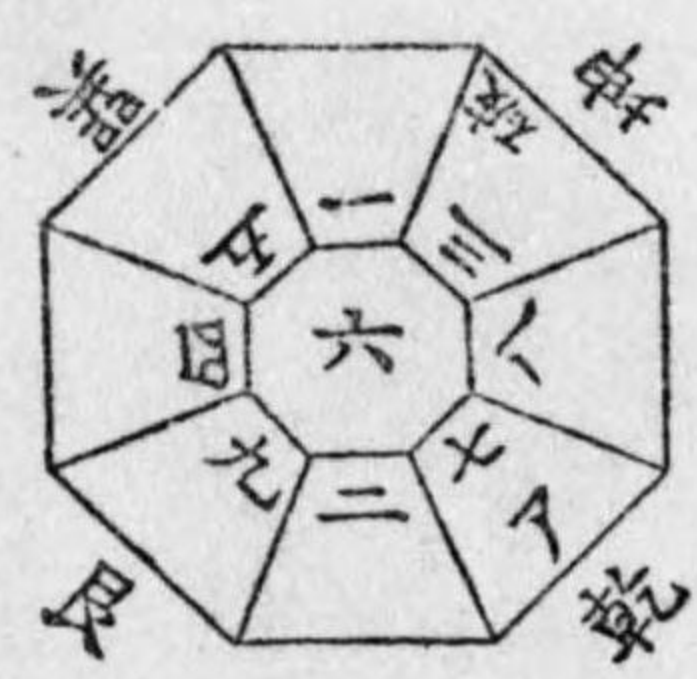
同
八八
乙亥



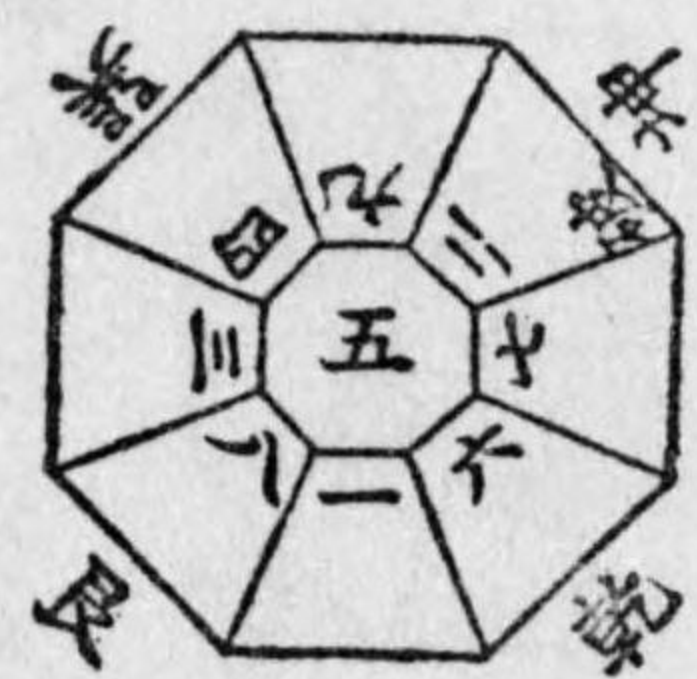
同
九九
丙子



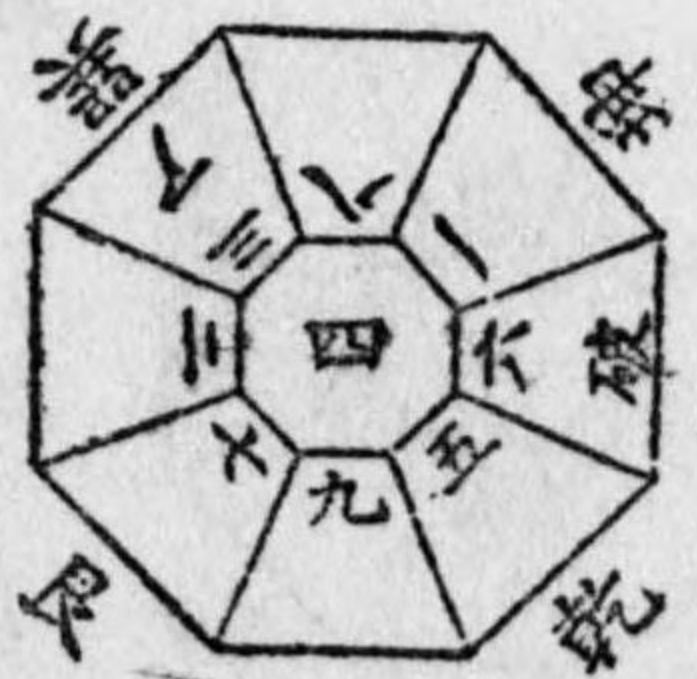
同
十十
丁丑



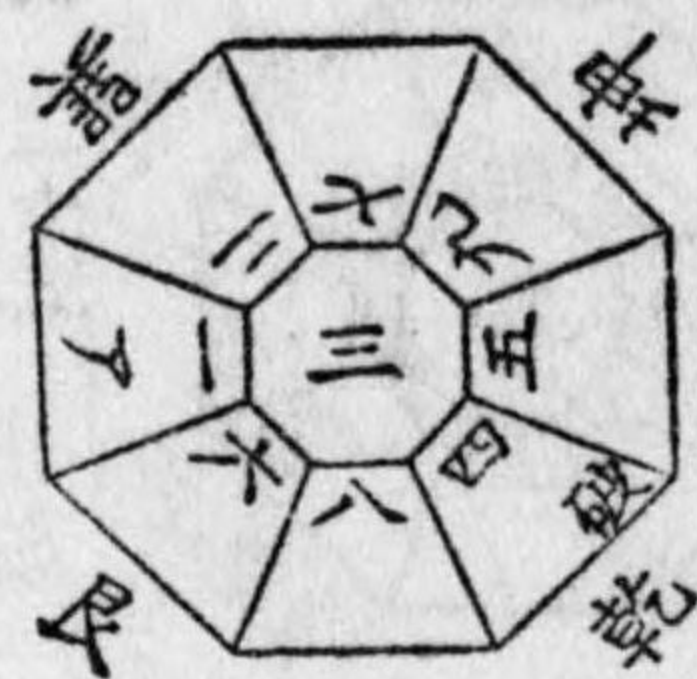
同
十一
戊寅



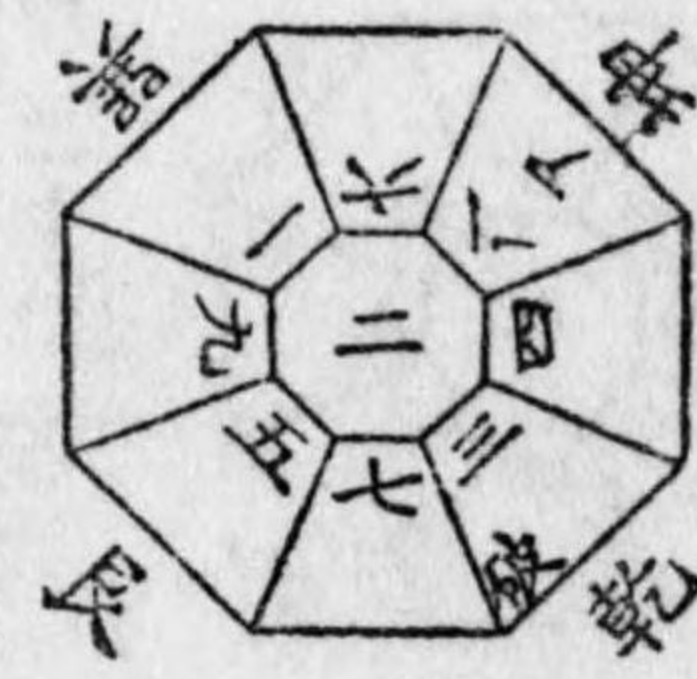
同
十二
己卯



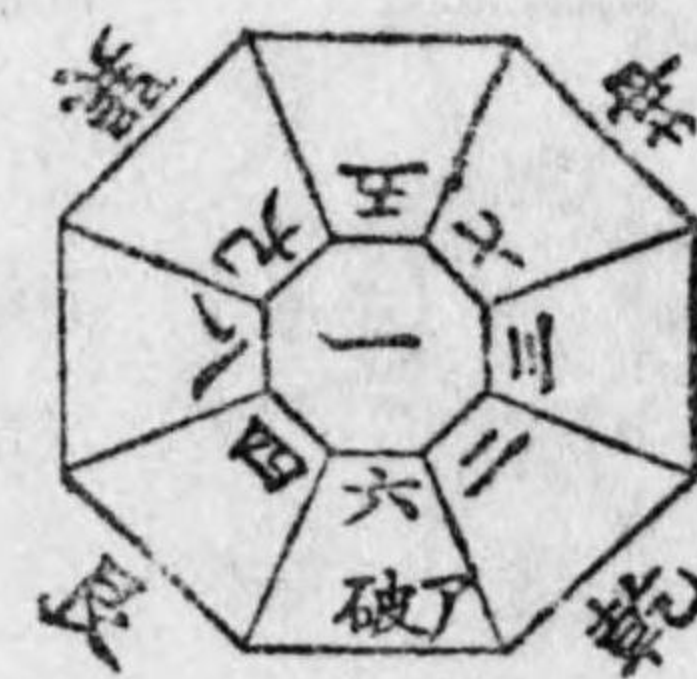
同
十三
庚辰



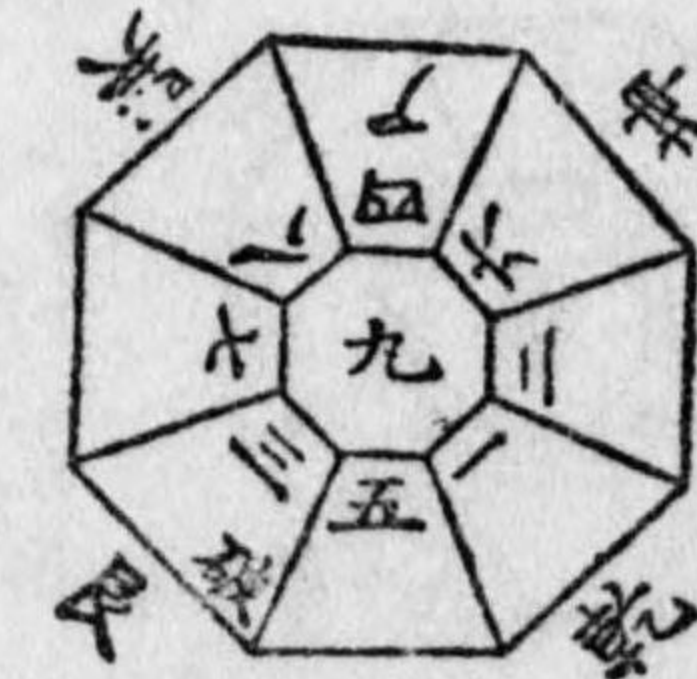
同
十四
辛巳



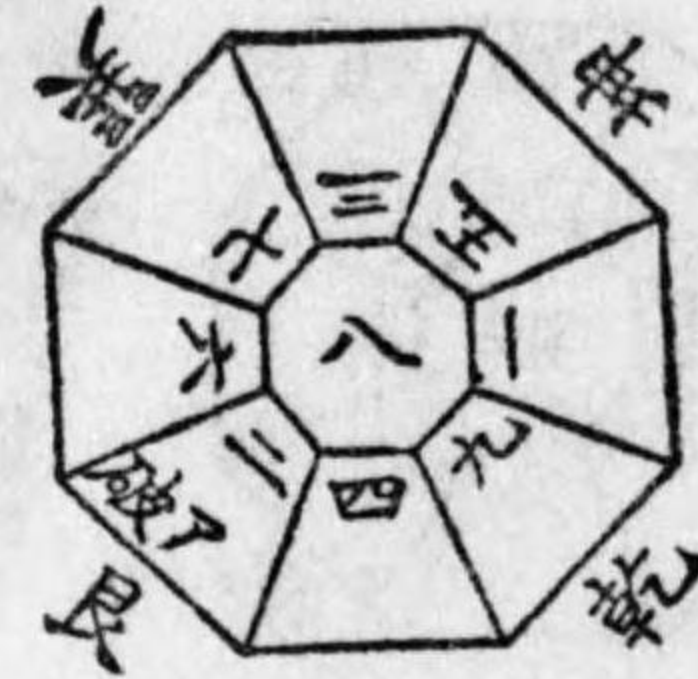
同
十五
壬午



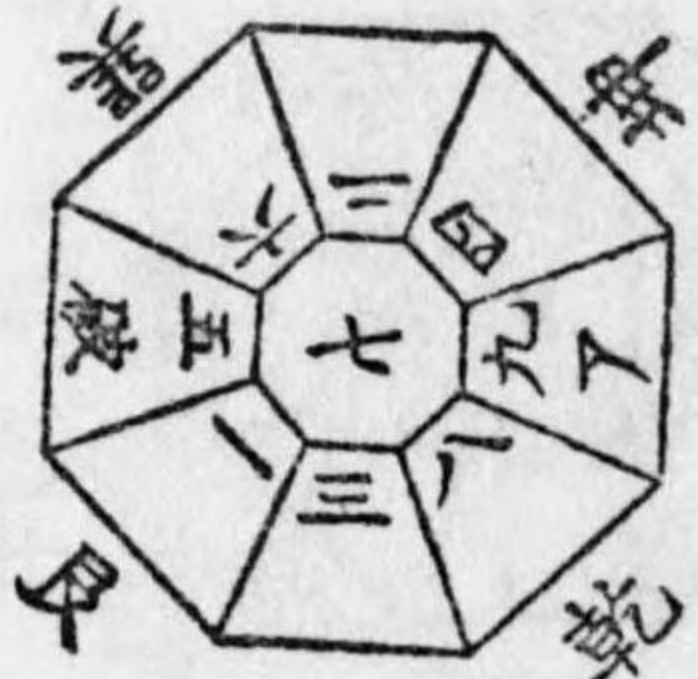
同
十六
癸未



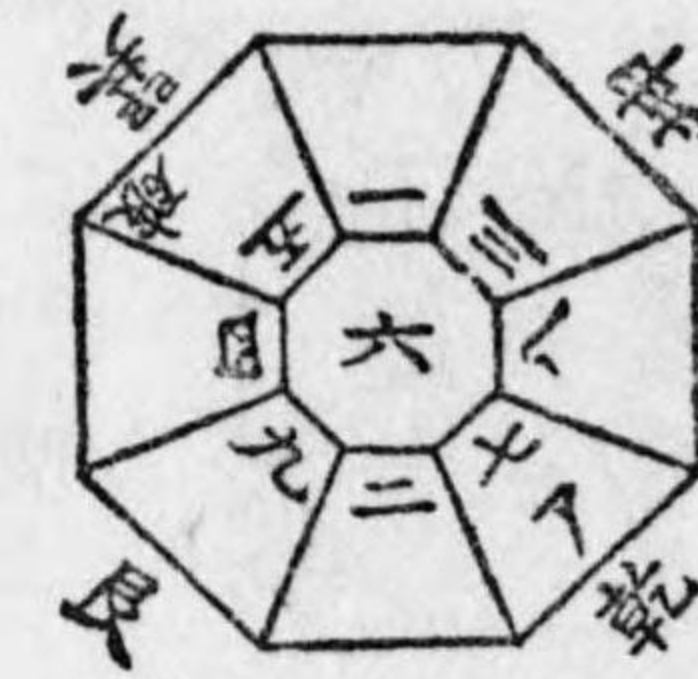
同
寶永
十七
甲申



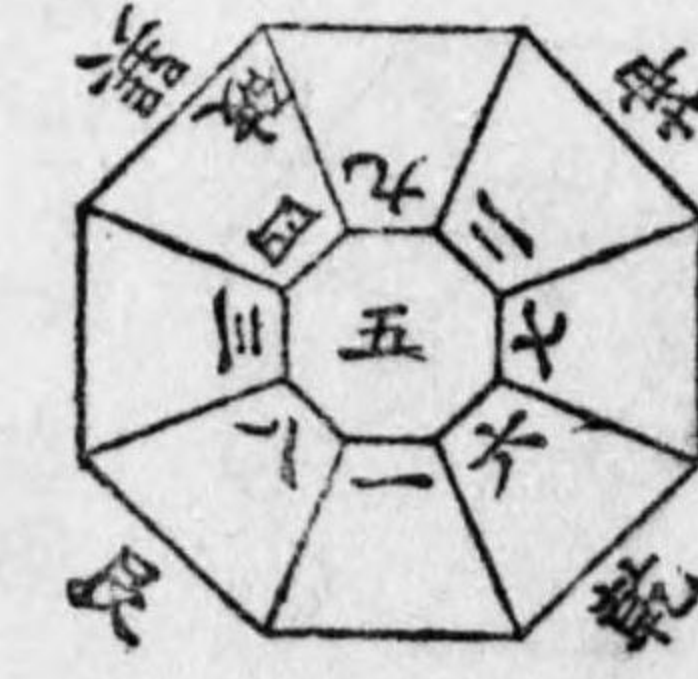
同
十八
乙酉



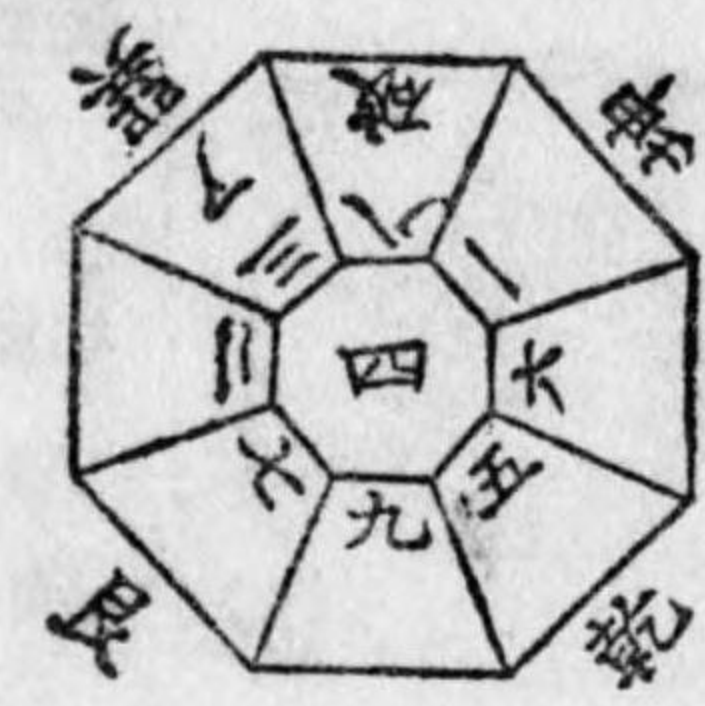
同
十九
丙戌



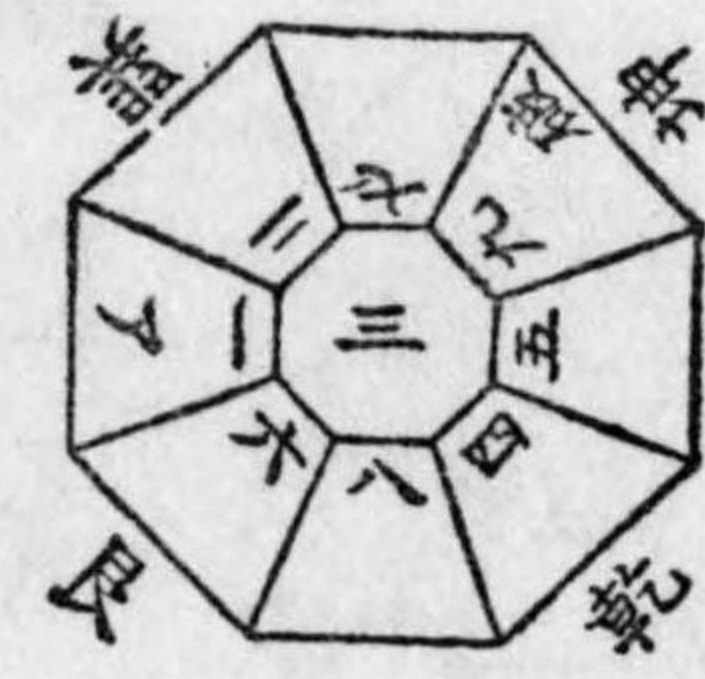
同
二十四
丁亥



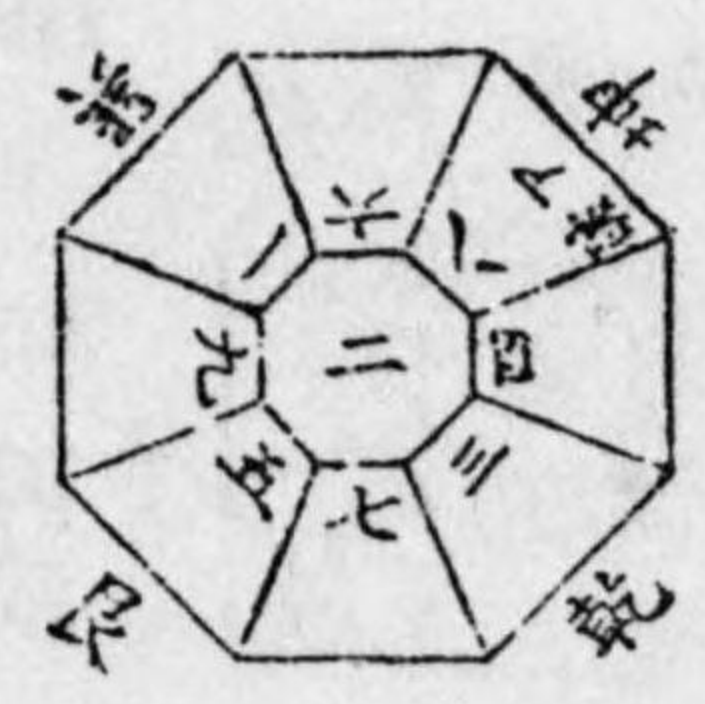
寶永
明治二十一
戊子



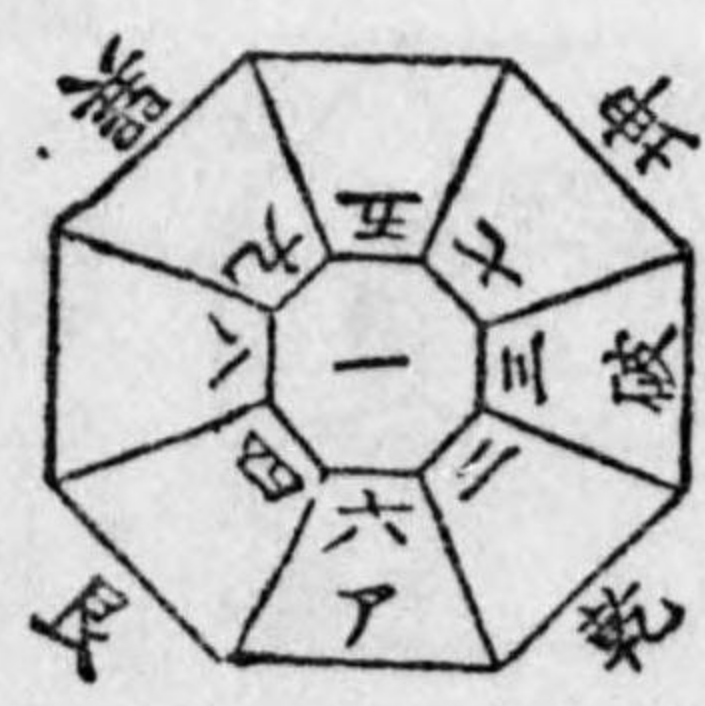
同
同
二十六
己丑



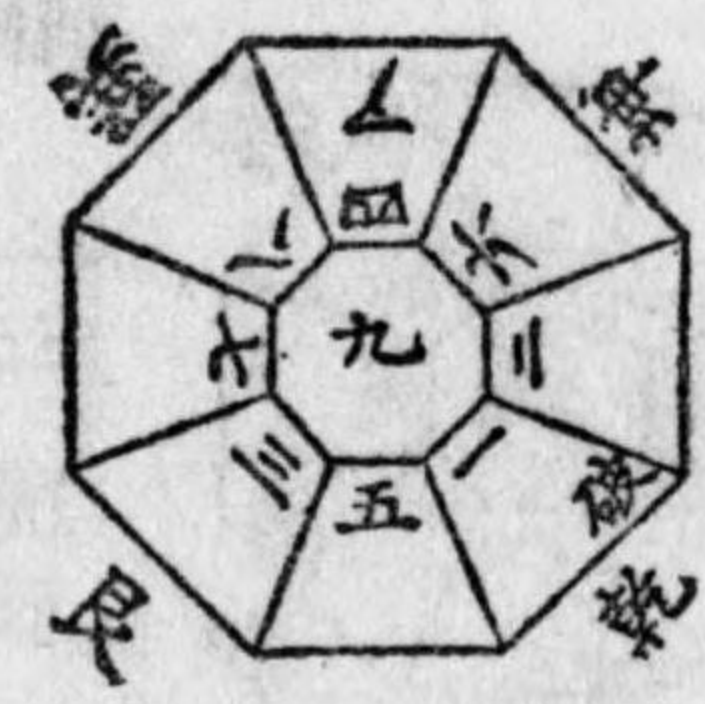
同
同
二十三
庚寅



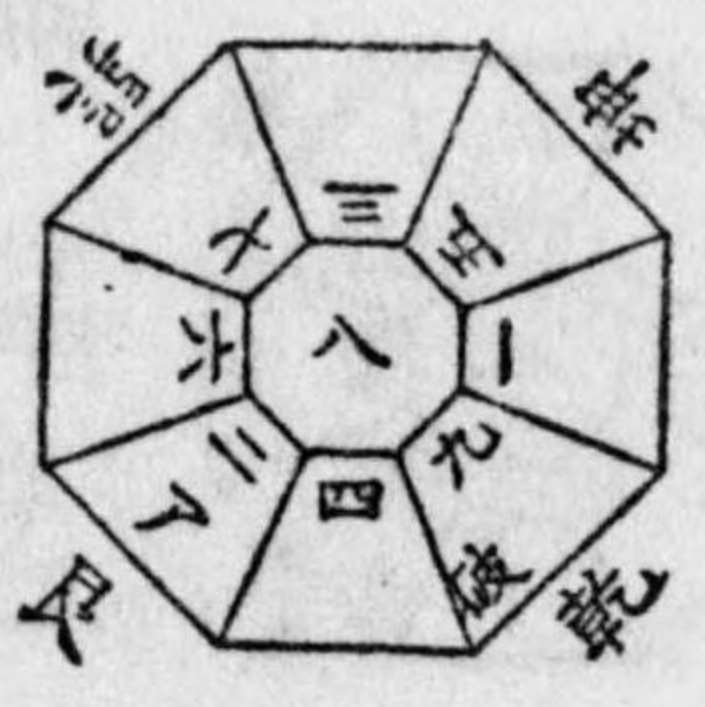
正德
二十四
辛卯



同
同
二十五
壬辰



同
同
二十六
癸巳



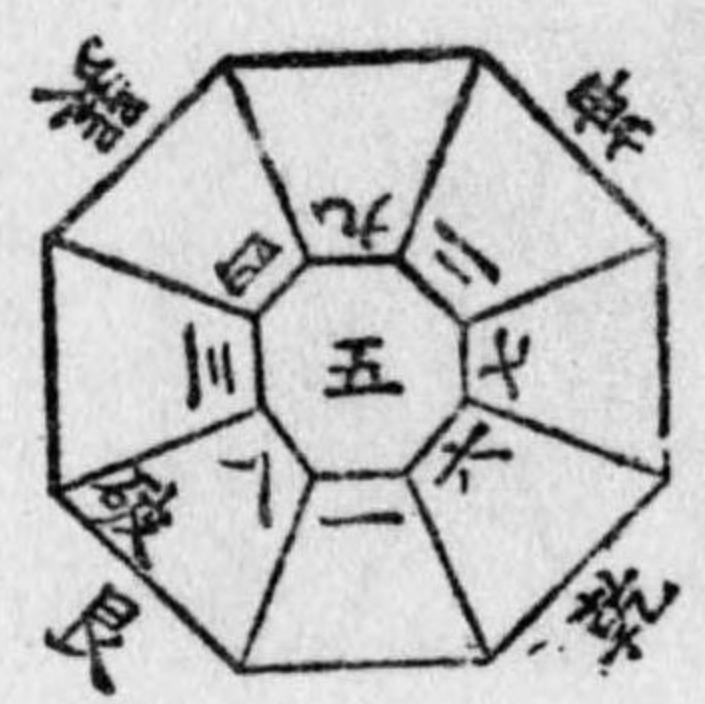
同
同
二十七
甲午



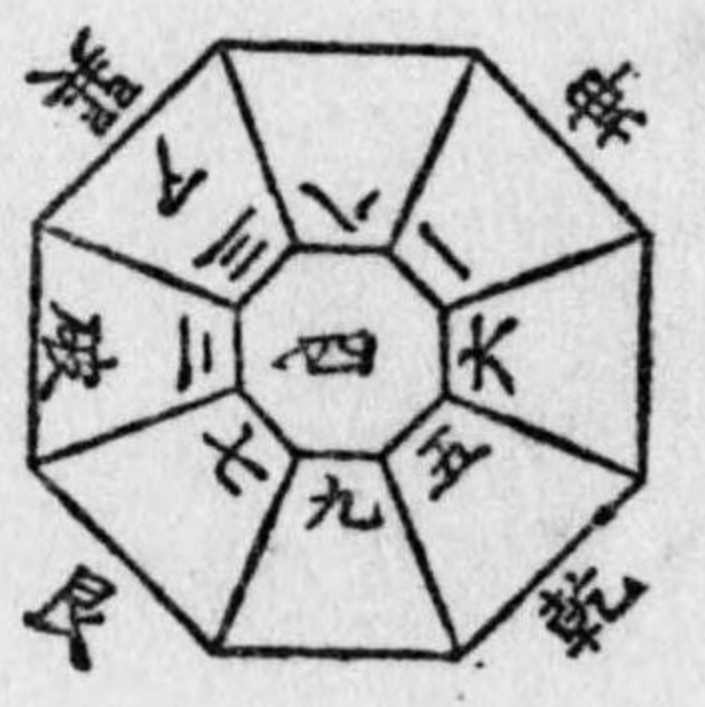
同
同
二十八
乙未



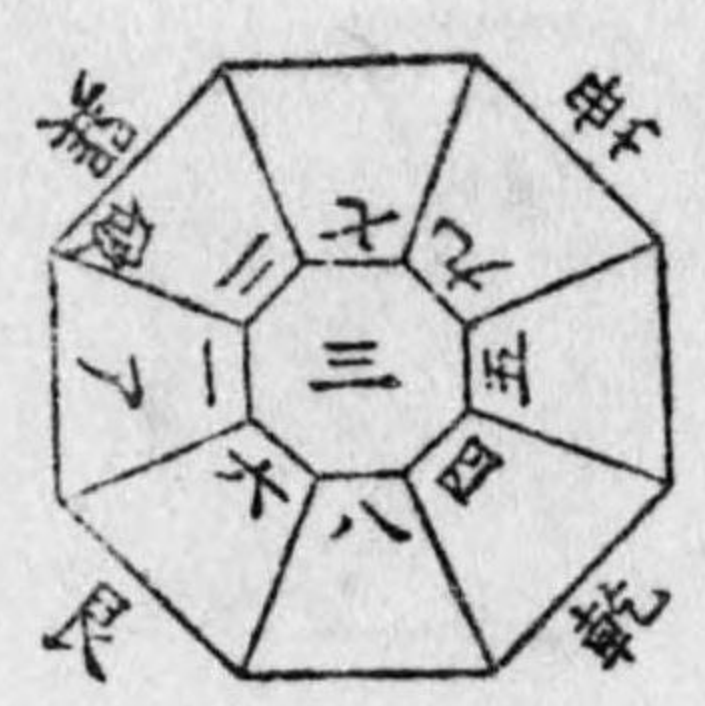
享保
二十九
丙申



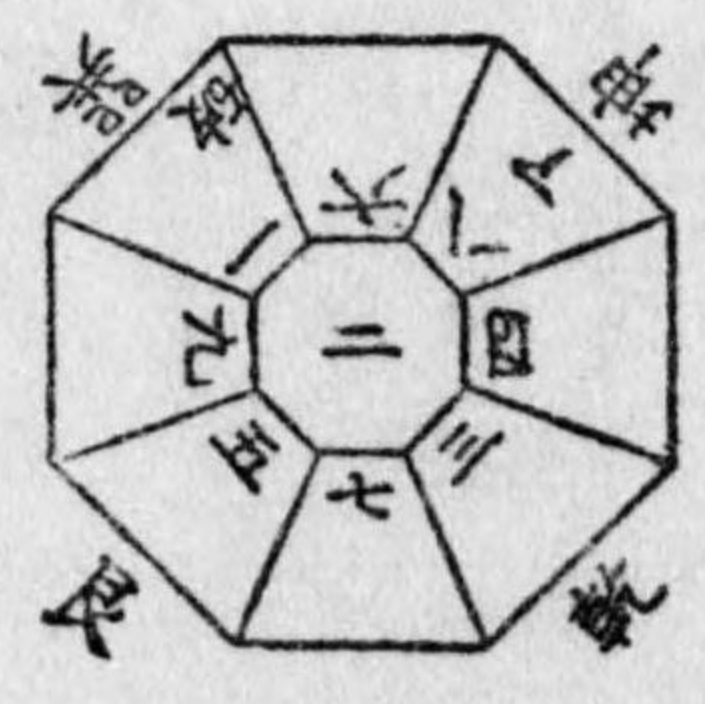
同
同
三十二
丁酉



同
同
三十三
戊戌



同
同
三十二
己亥



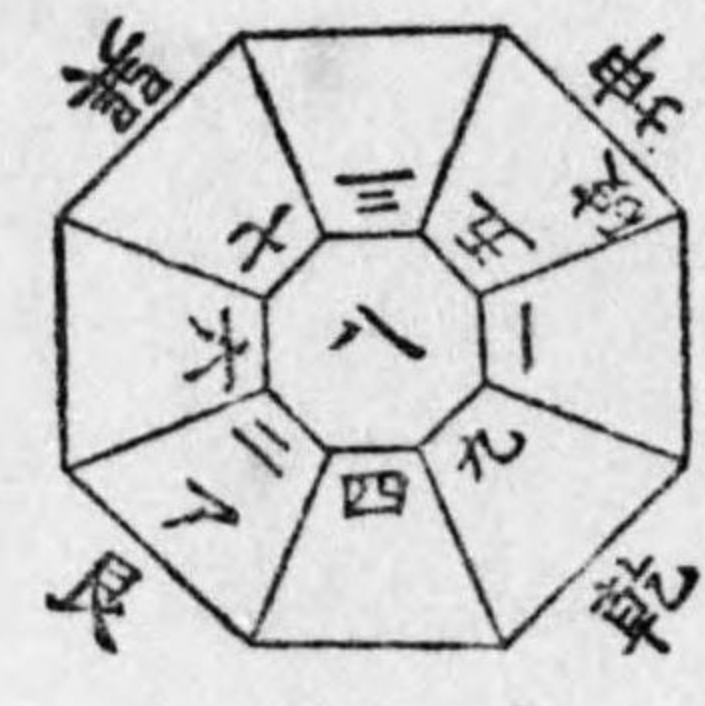
同
同
三十五
庚子



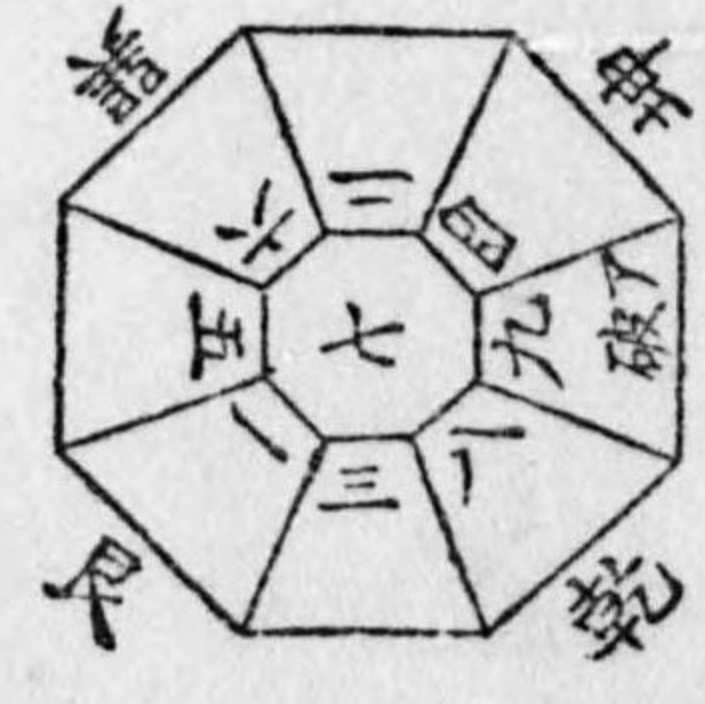
同
同
三十四
辛丑



同
同
三十五
壬寅



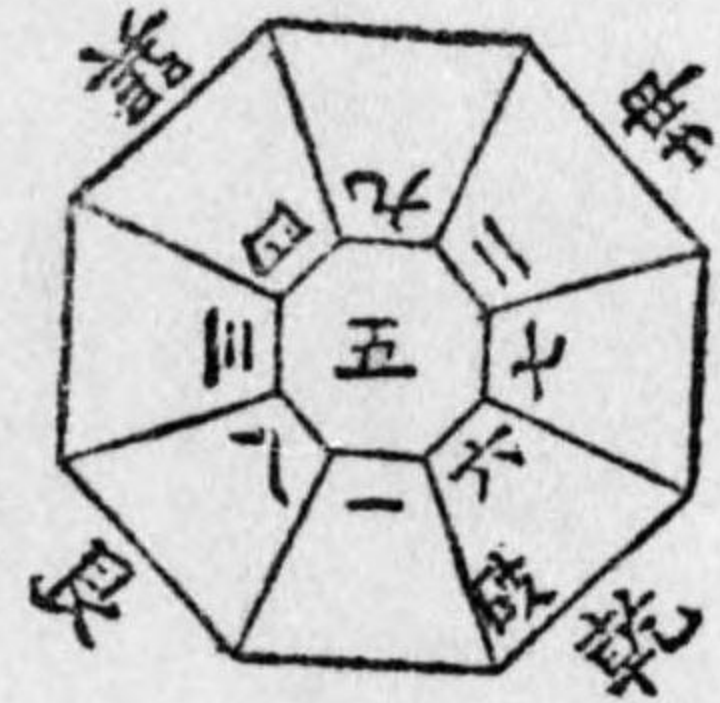
同
同
三十六
癸卯



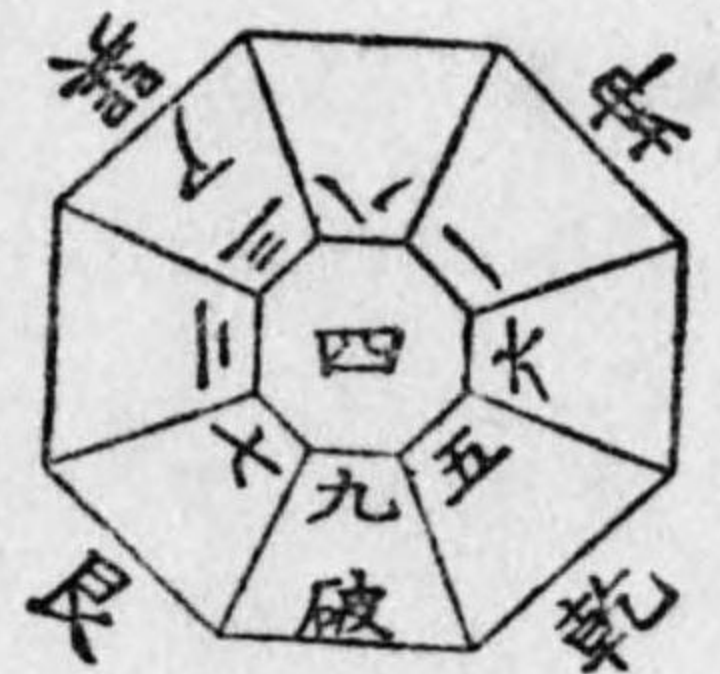
享保
明治三十七
甲辰



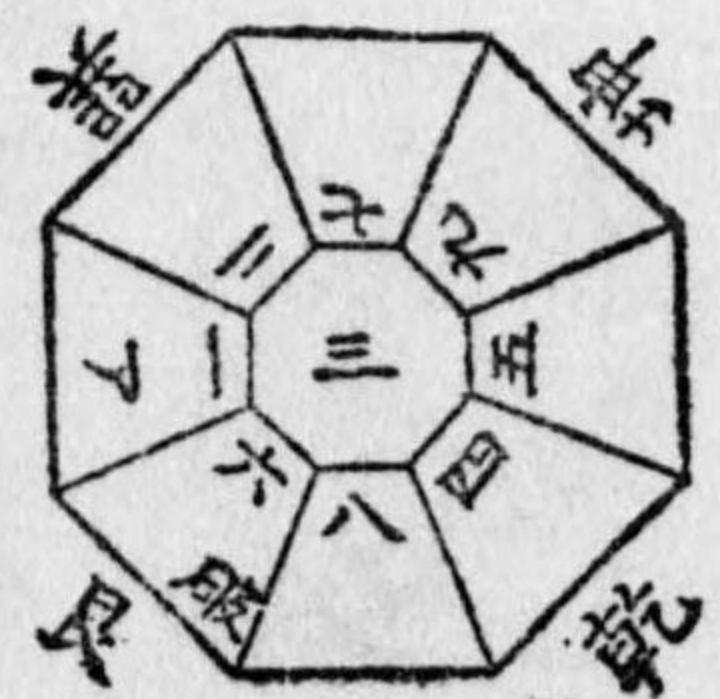
同同
三十八
乙巳



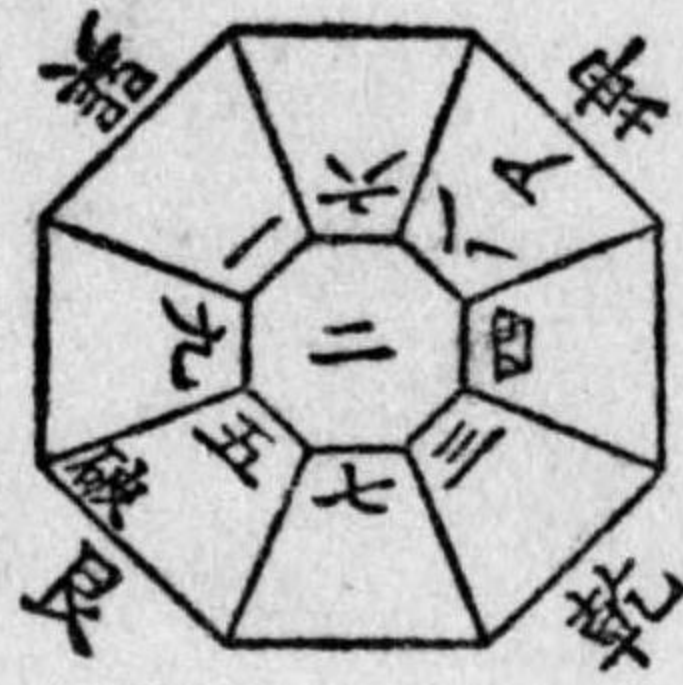
同同
三十九
丙午



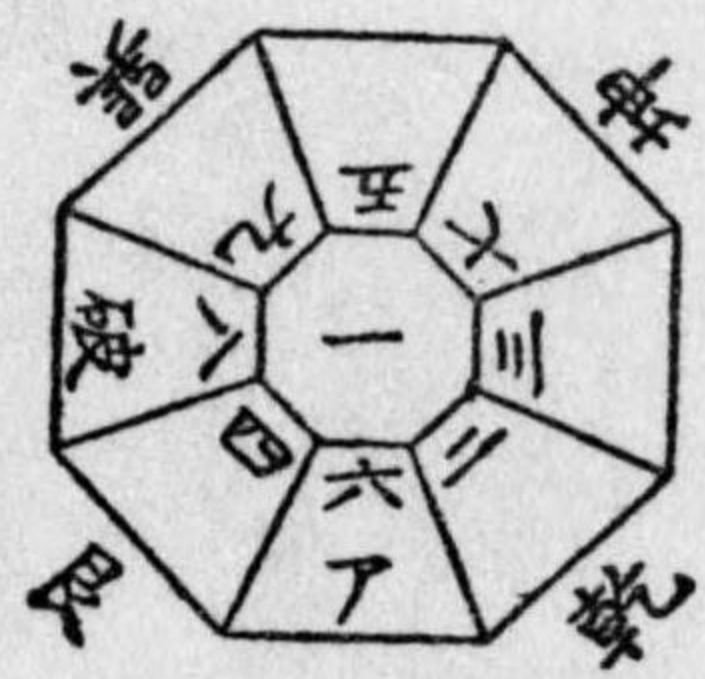
同同
四十二
丁未



同同
四十三
戊申



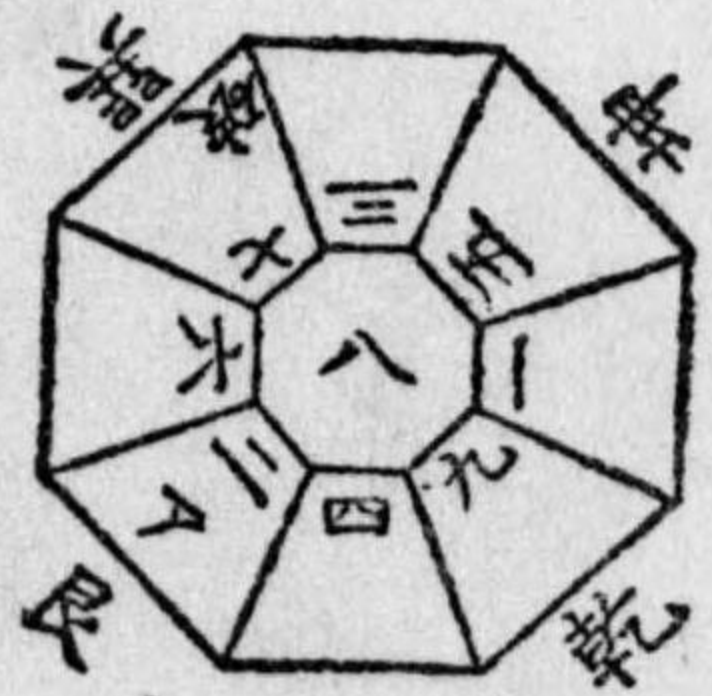
同同
四十四
己酉



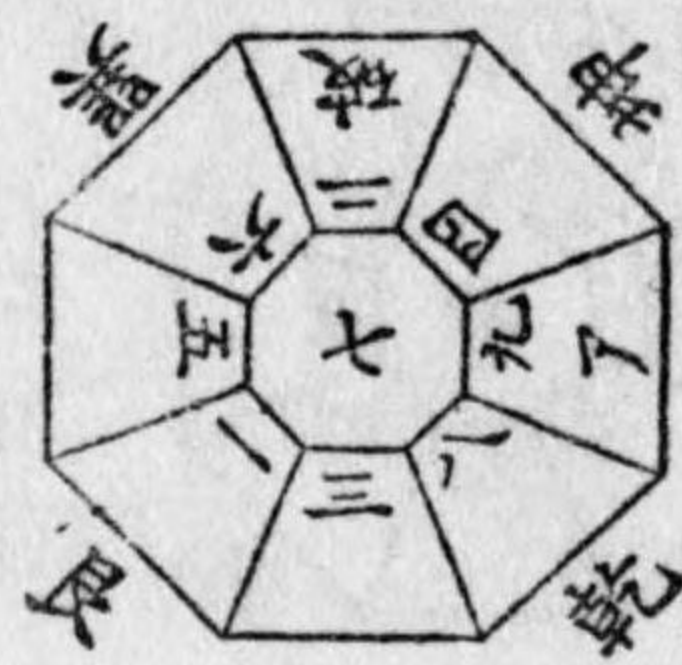
同同
四十五
庚戌



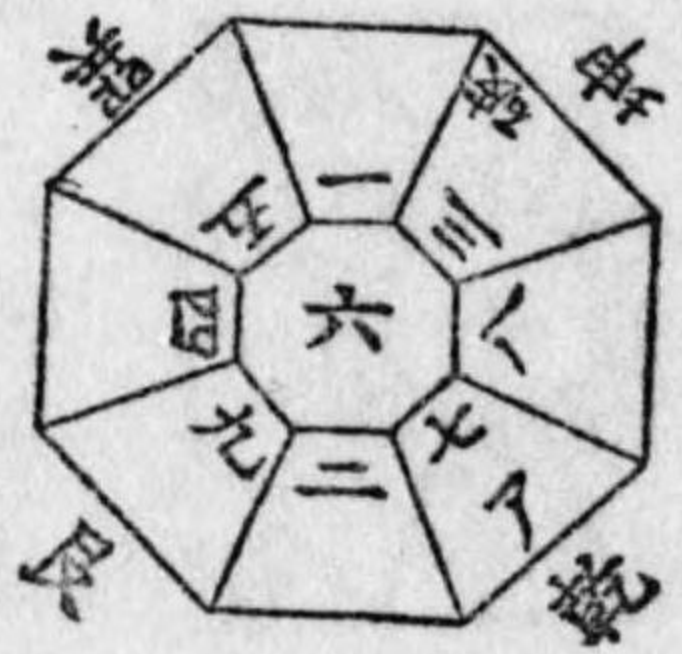
同同
四十六
辛亥



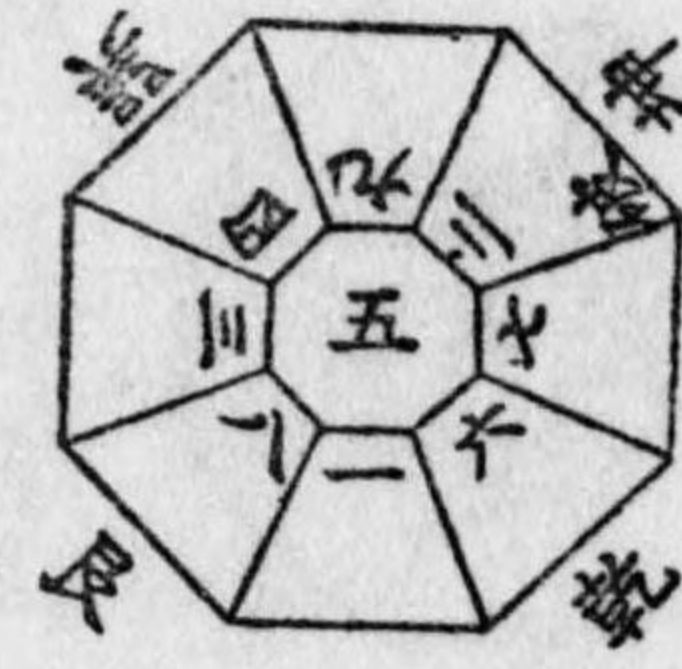
同同
十七
壬子



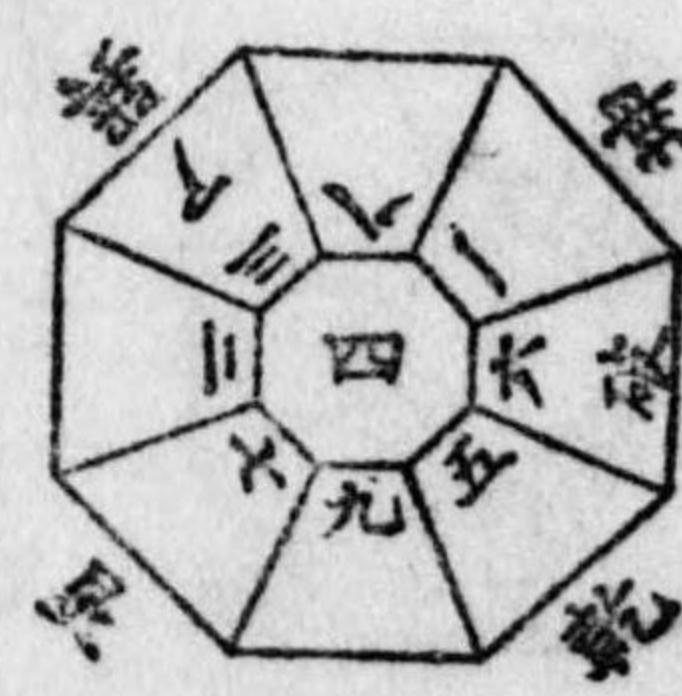
同同
十八
癸丑



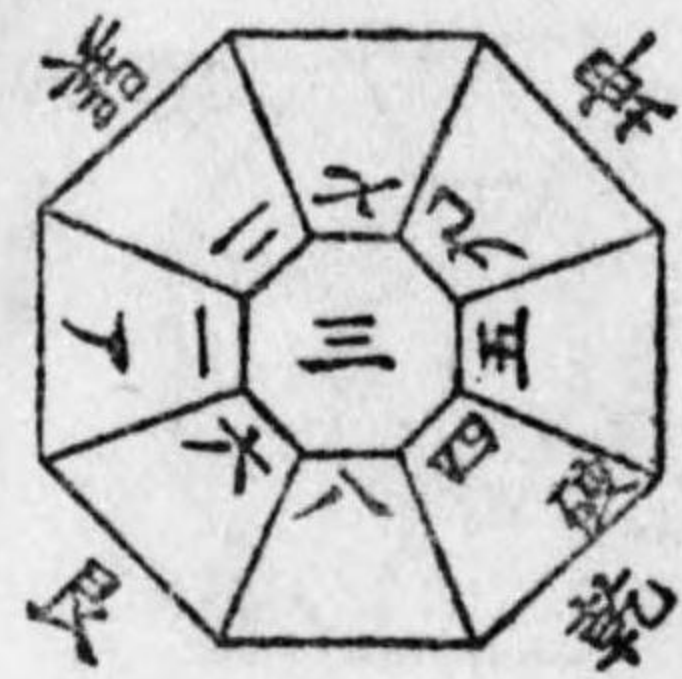
同同
十九
甲寅



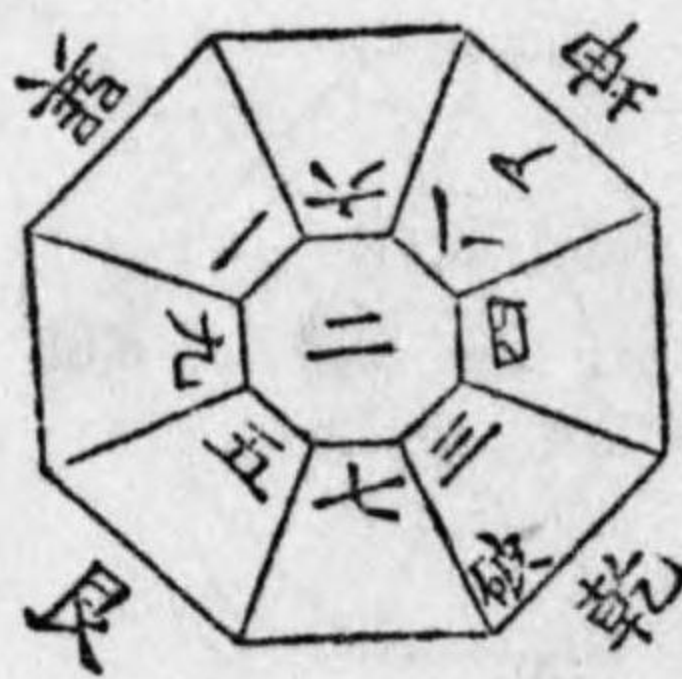
同同
二十
乙卯



同同
五元
丙辰



同同
六元
丁巳

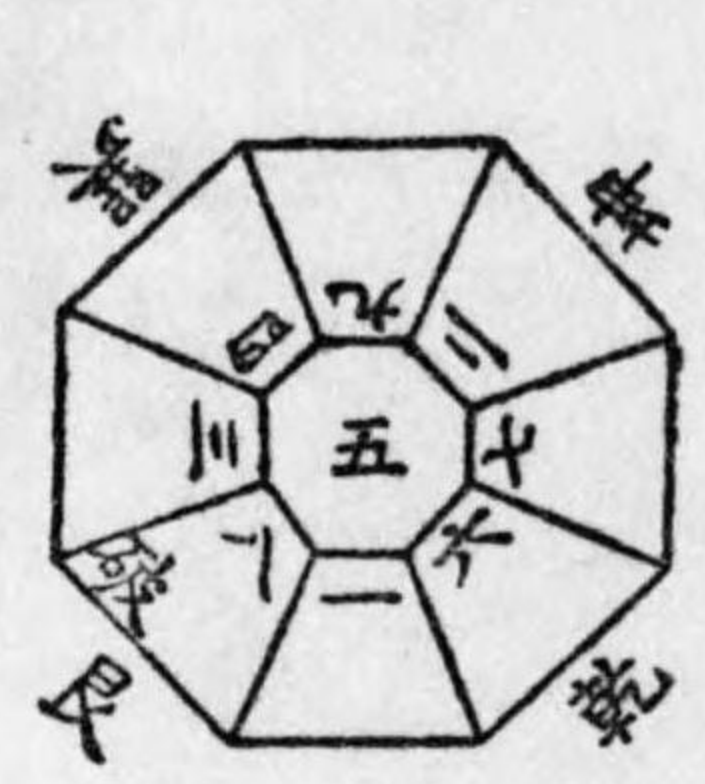


同同
七元
戊午

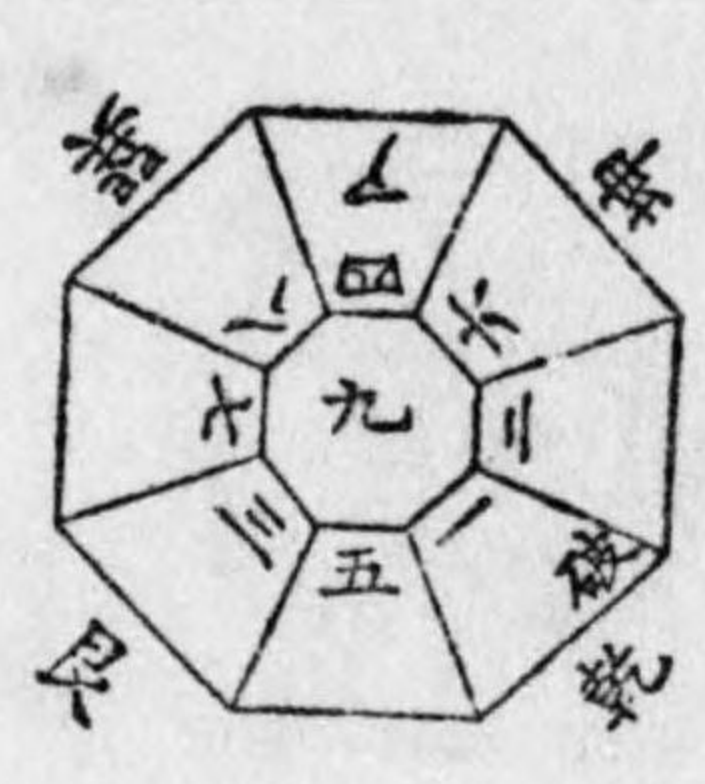


同同
八元
己未





同同
七二 壬申



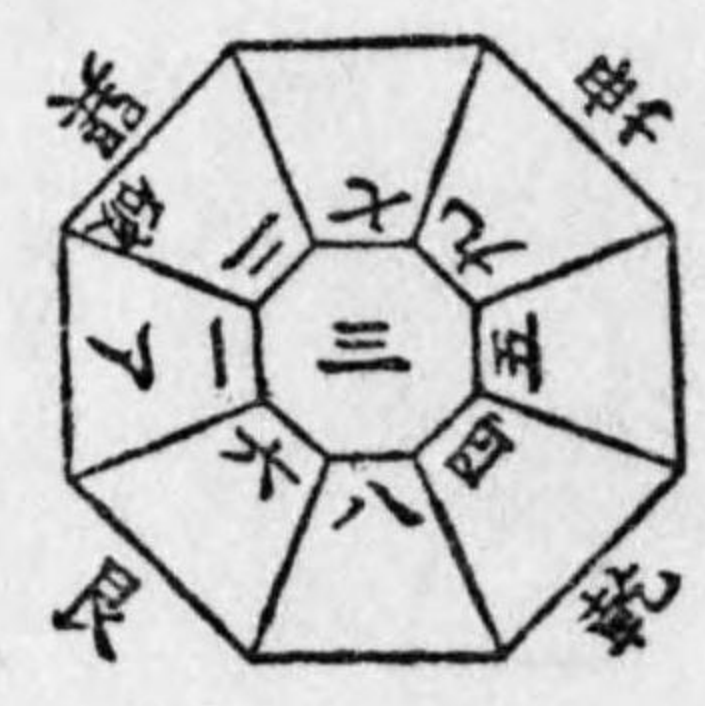
同寬延
三元 戊辰



同同
八三 癸酉



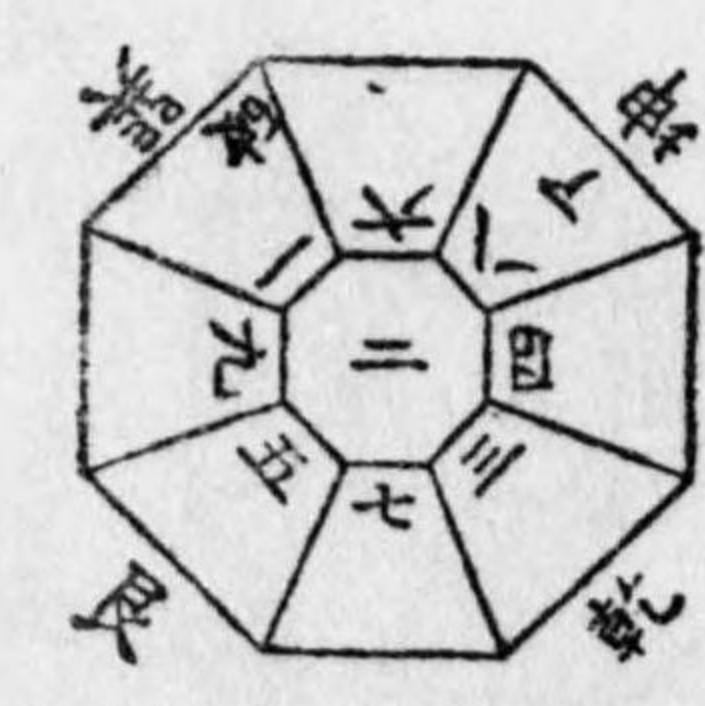
同同
四二 己巳



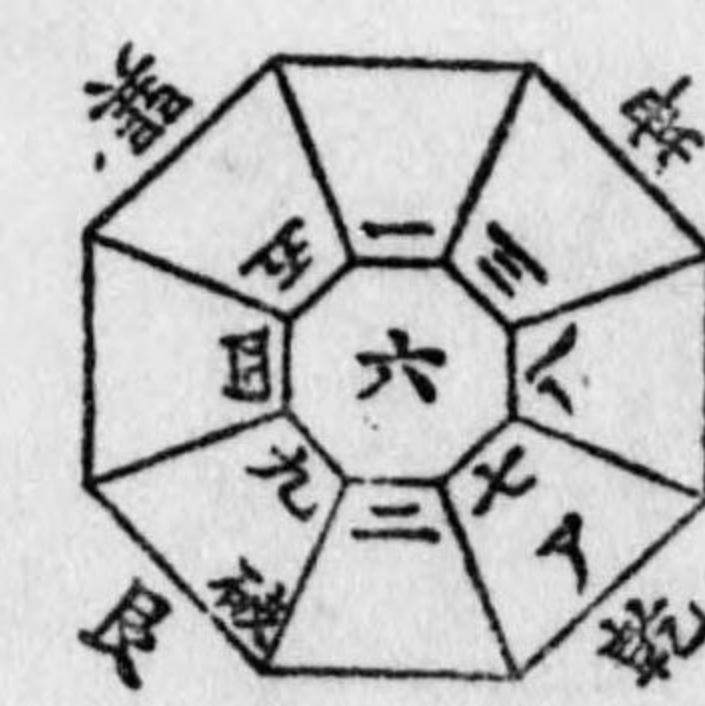
同同
九四 甲戌



同同
五三 庚午

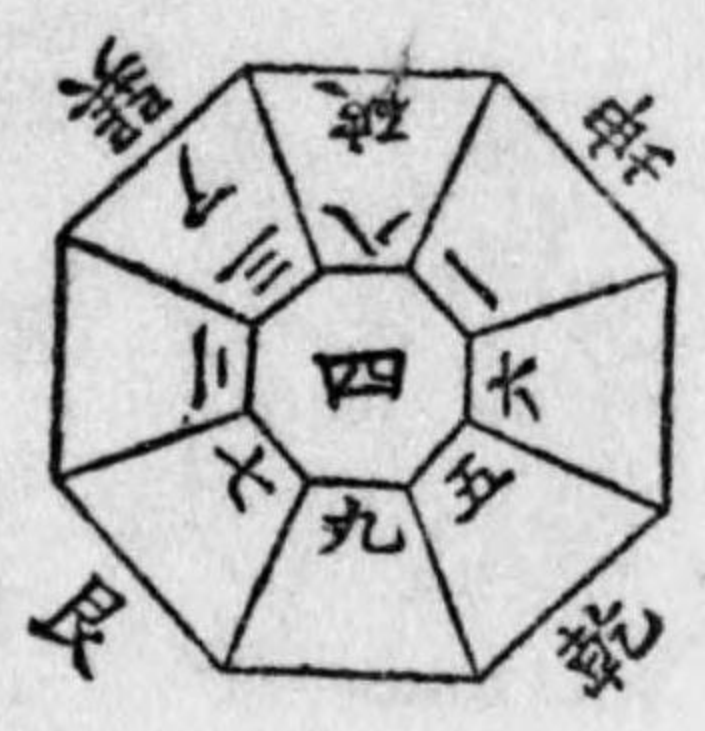


同同
十五 乙亥



同寶曆
六元 辛未

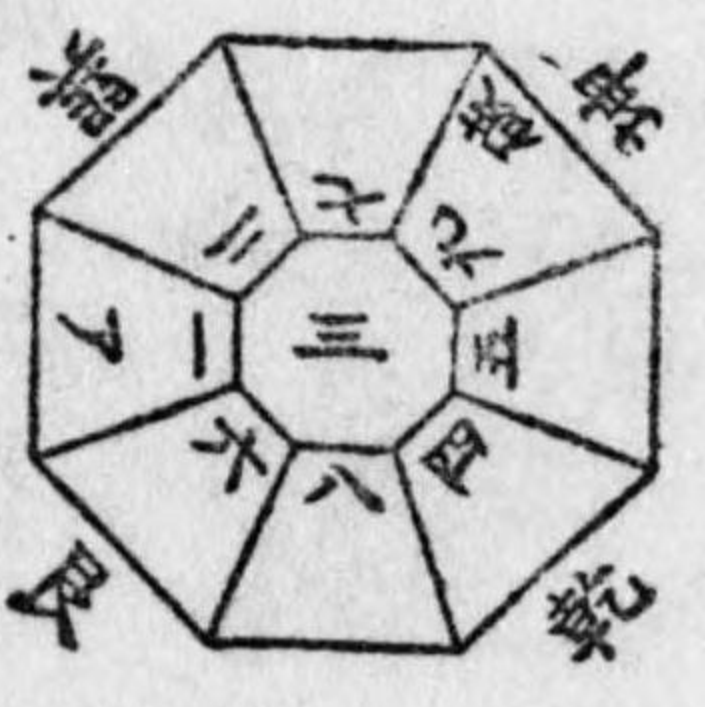
始元中



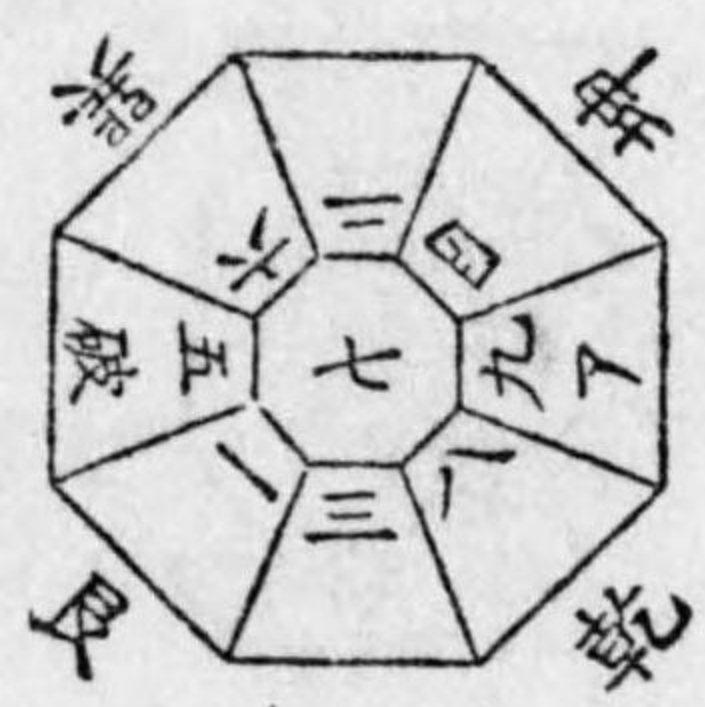
同延享
十三元 甲子



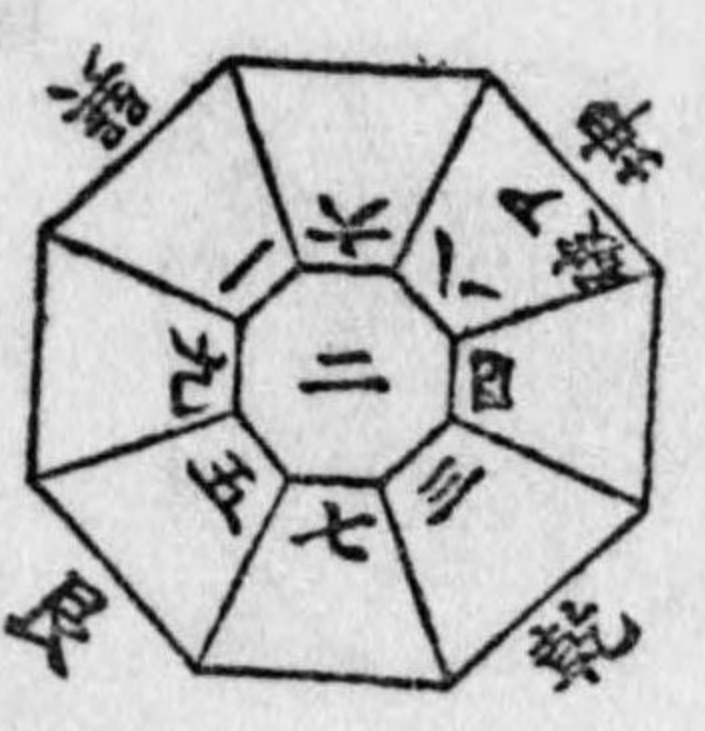
大正文
九五 庚申



同同
十四二 乙丑



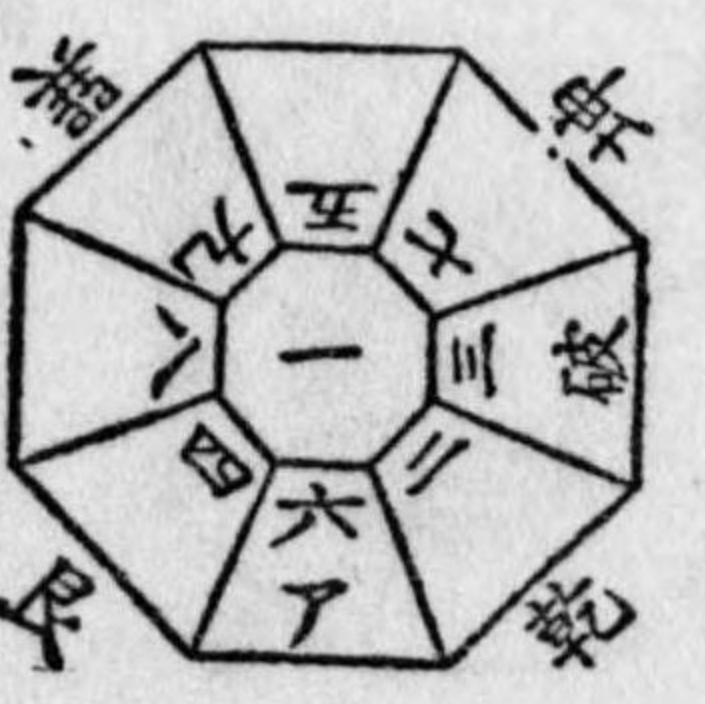
同寬保
十元 辛酉



同同
十五三 丙寅



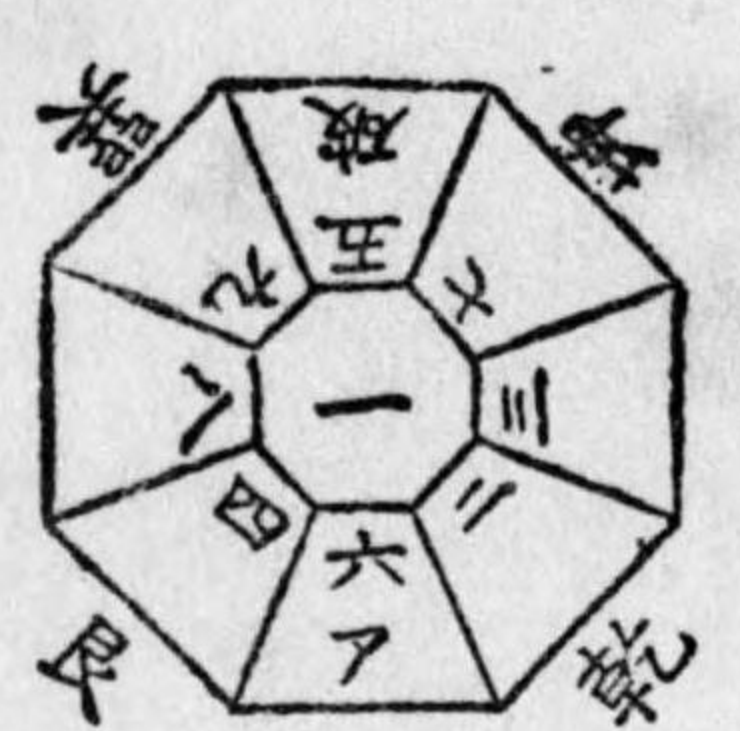
同同
十二 壬戌



同昭
和二四 丁卯



同同
十三 癸亥



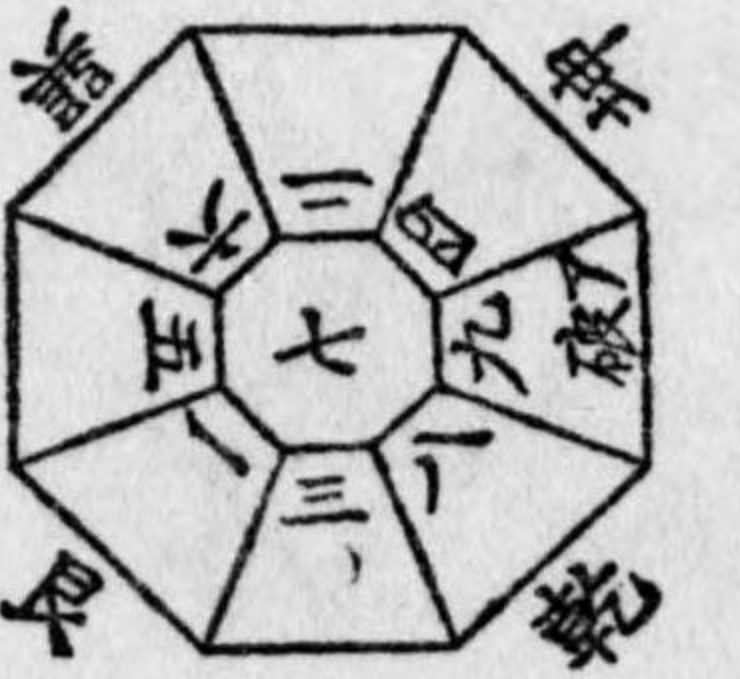
寶曆 同
十一 丙子



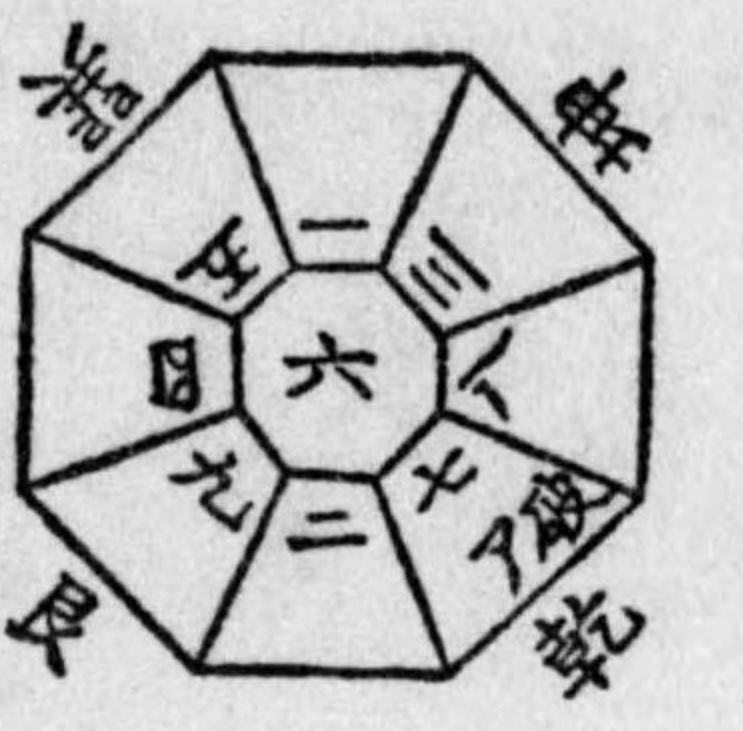
同 同
十二 丁丑



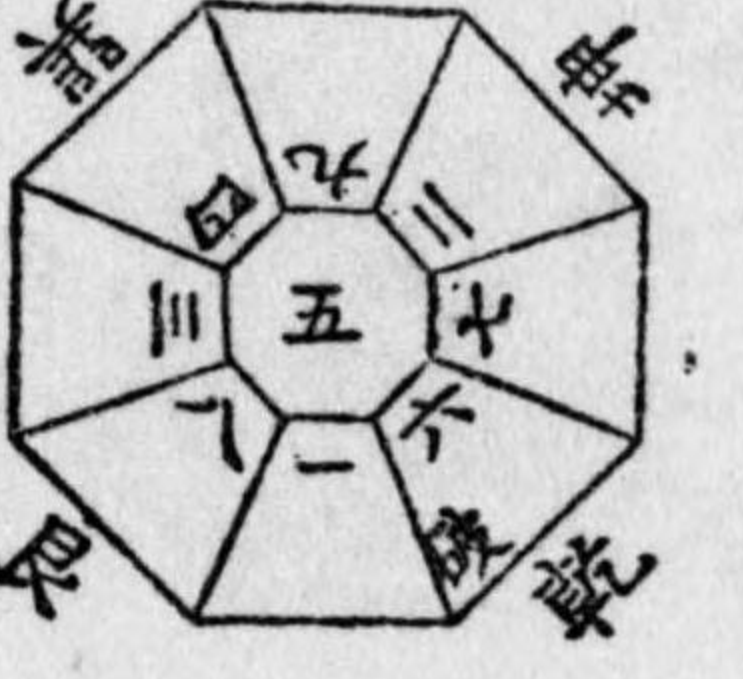
同 同
十三 戊寅



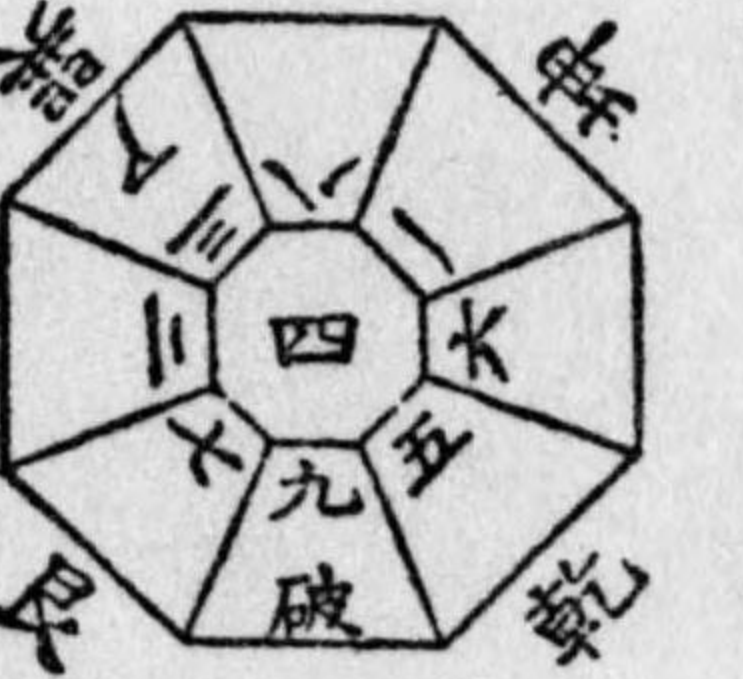
同 同
九 己卯



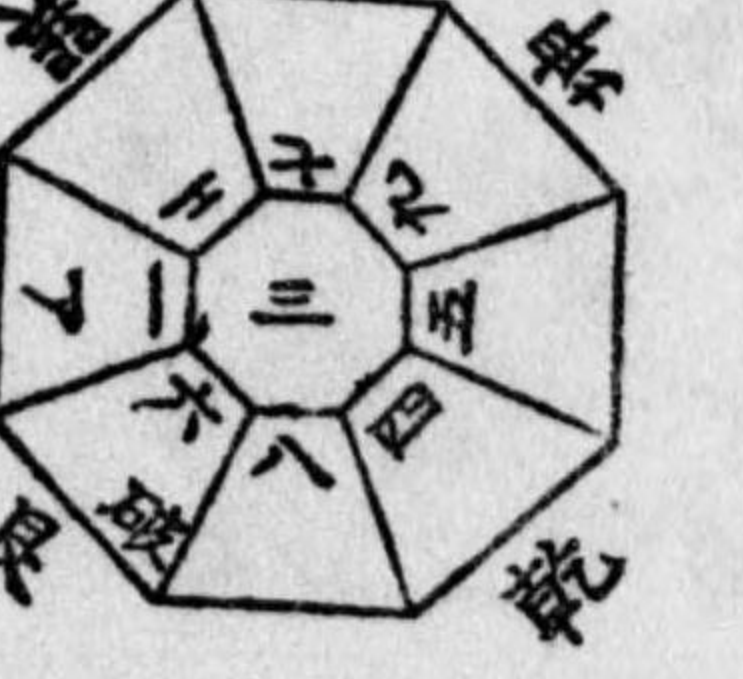
同 同
十 庚辰



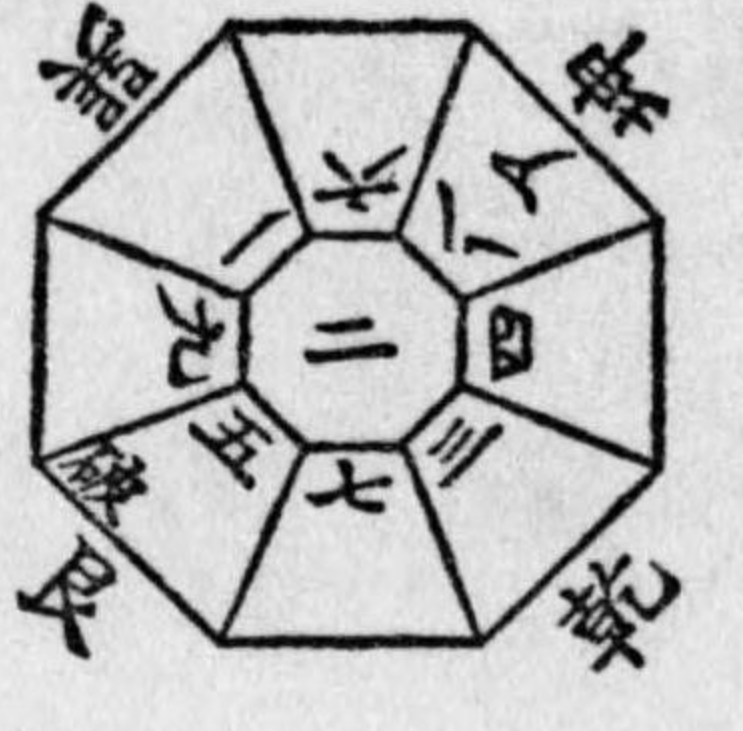
同 同
十一 辛巳



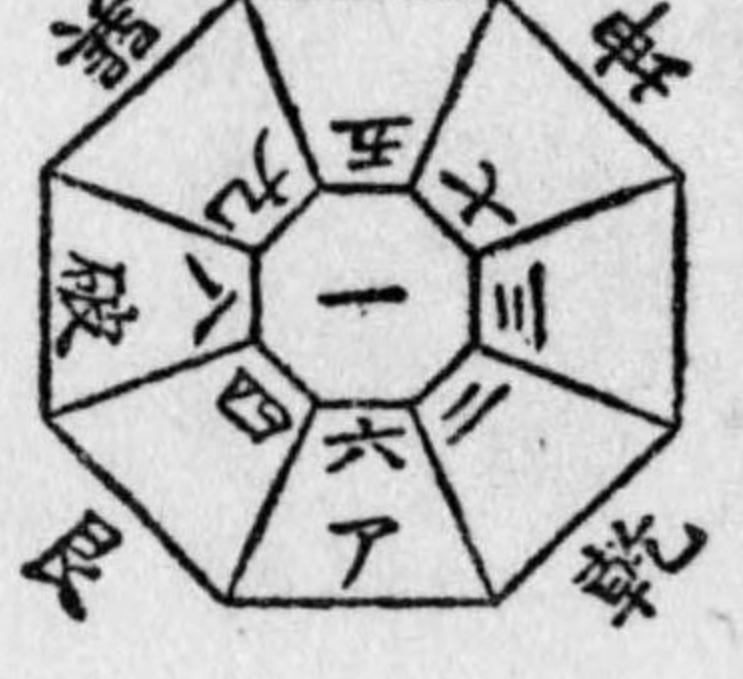
同 同
十二 壬午



同 同
十三 癸未



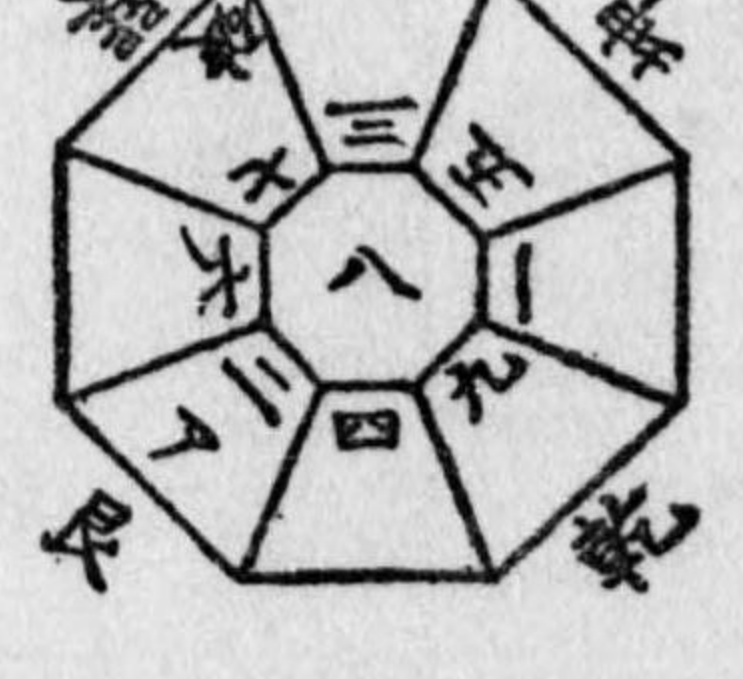
明和 同
元 甲申



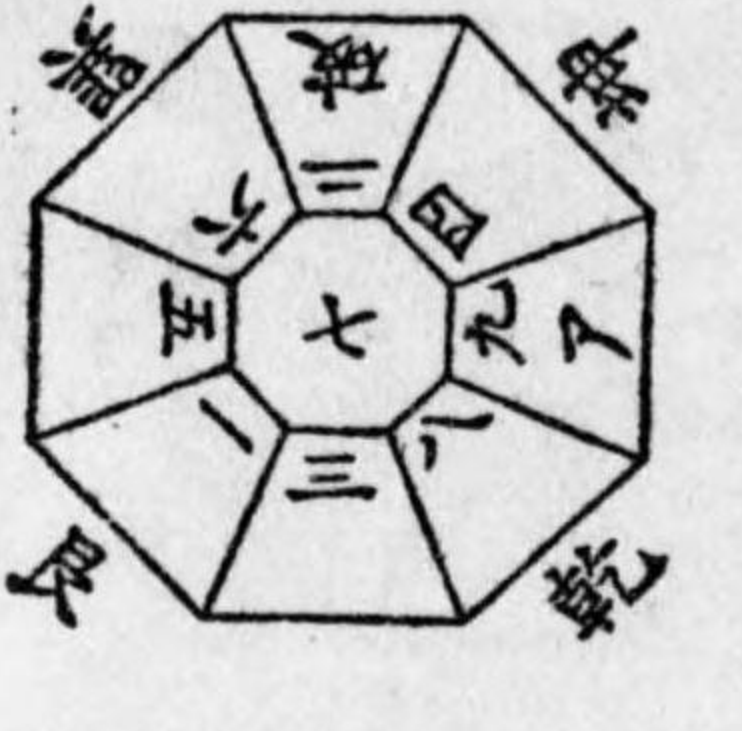
同 同
二 乙酉



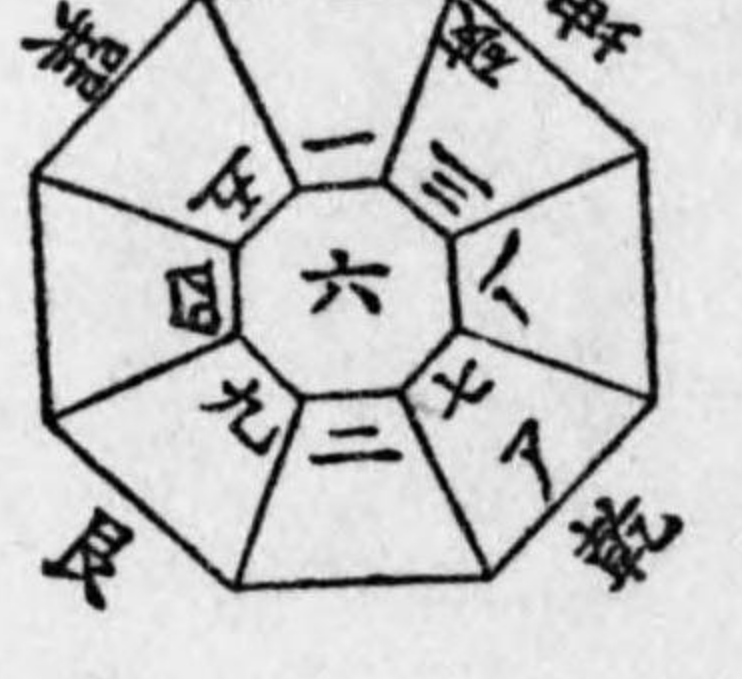
同 同
三 丙戌



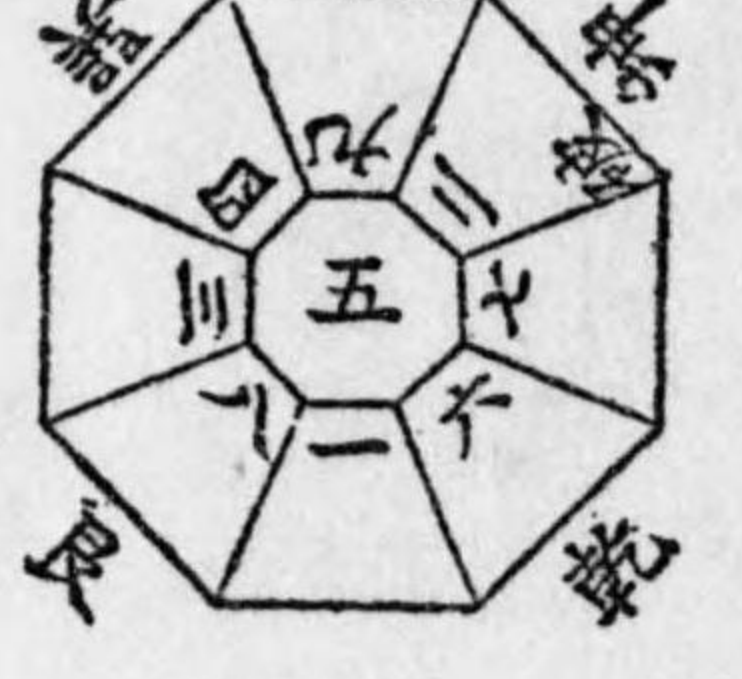
同 同
四 丁亥



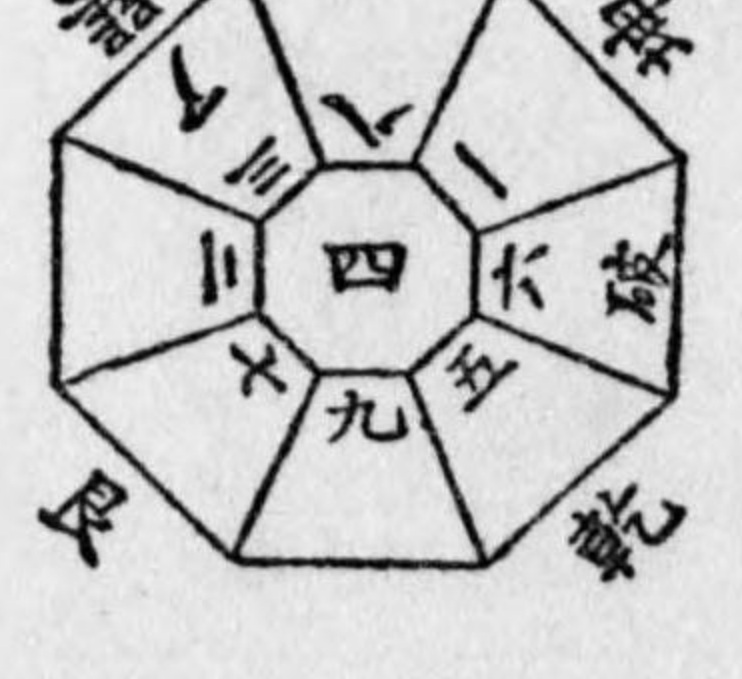
同 同
五 戊子



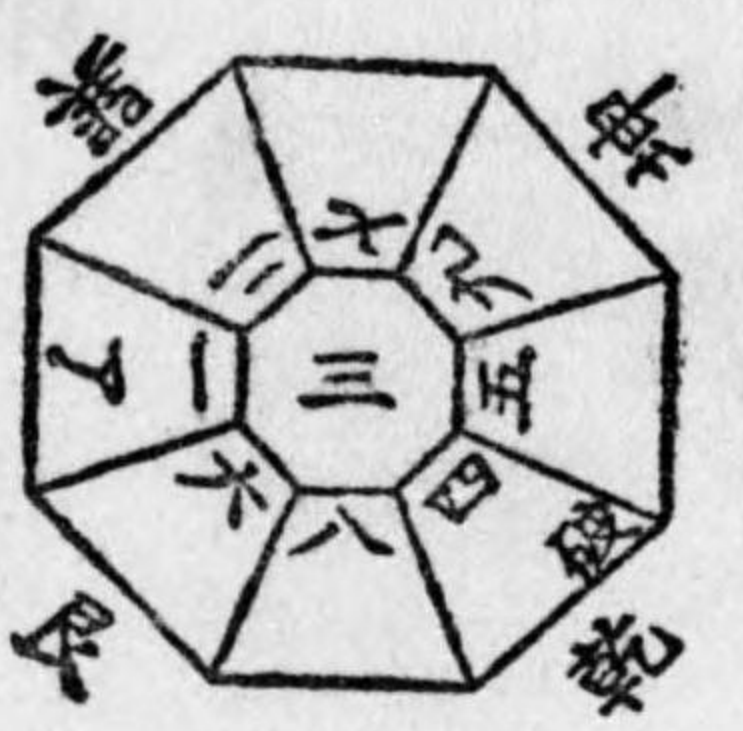
同 同
六 己丑



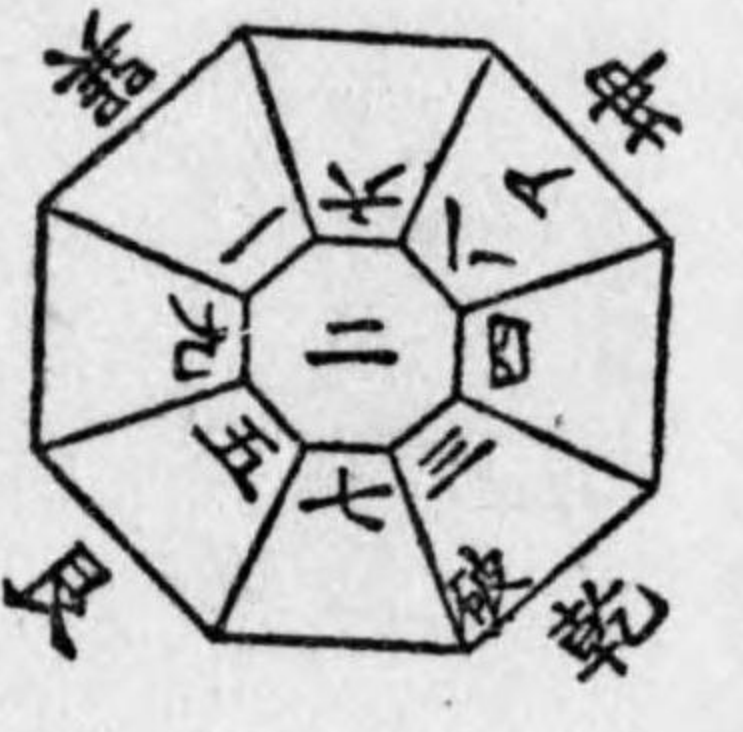
同 同
七 庚寅



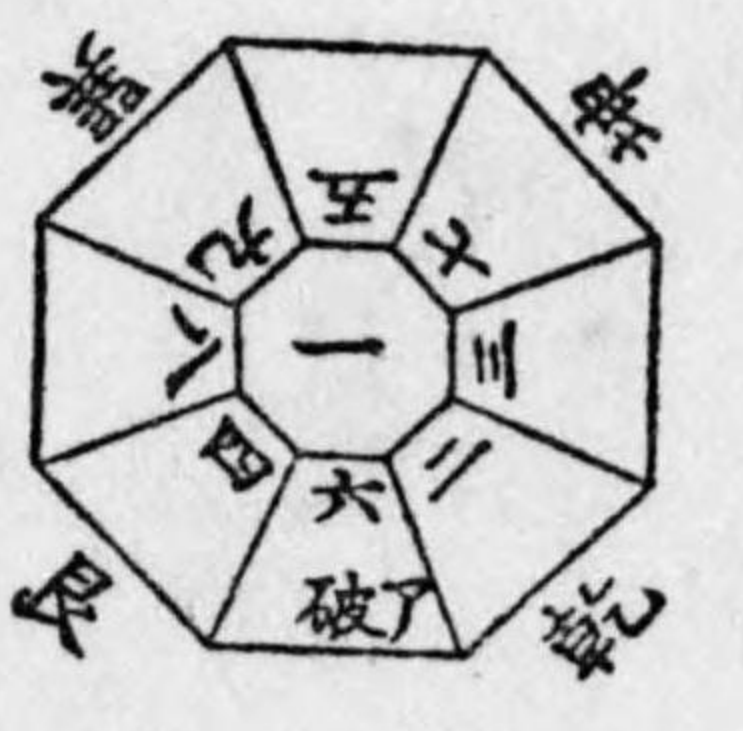
同 同
八 辛卯



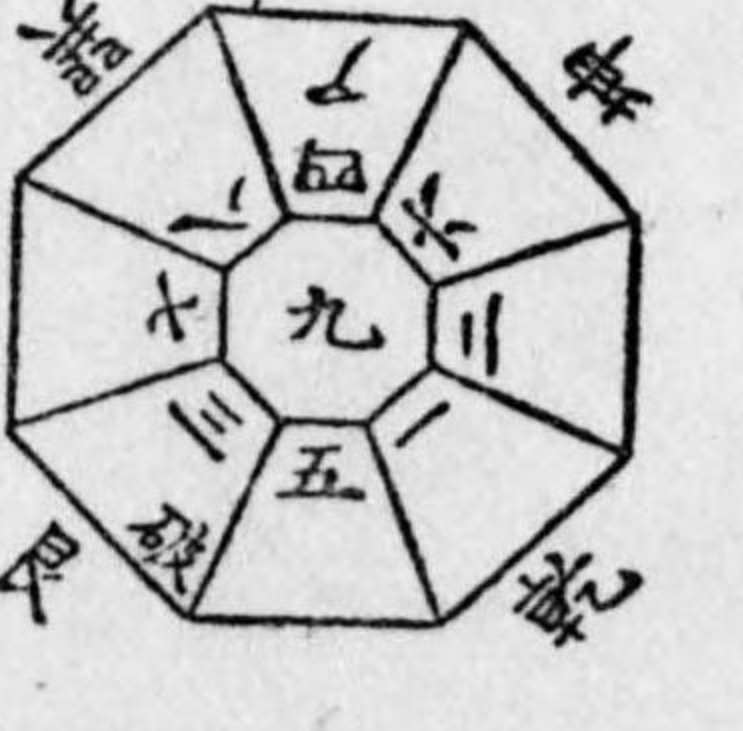
同安永 元 壬辰



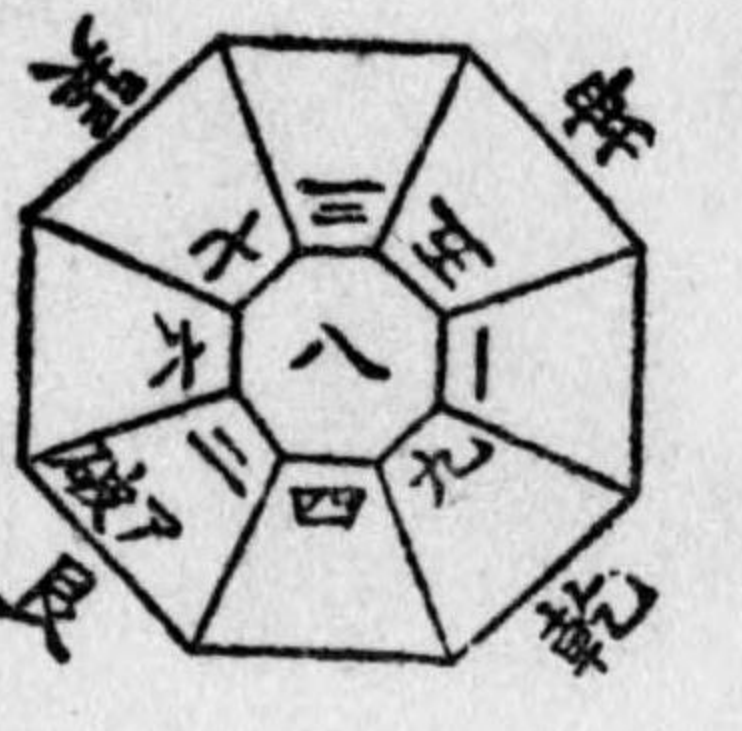
同同 二 癸巳



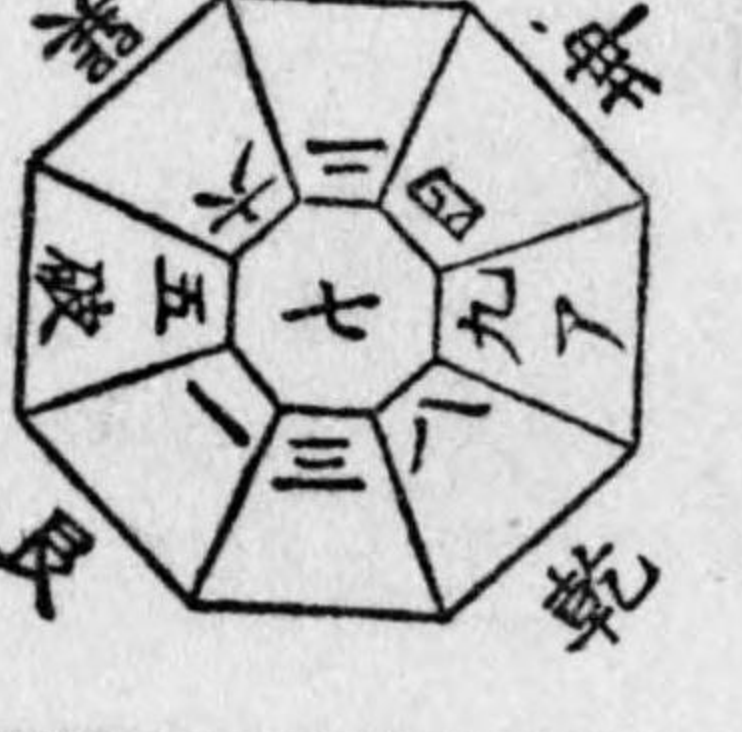
同同 三 甲午



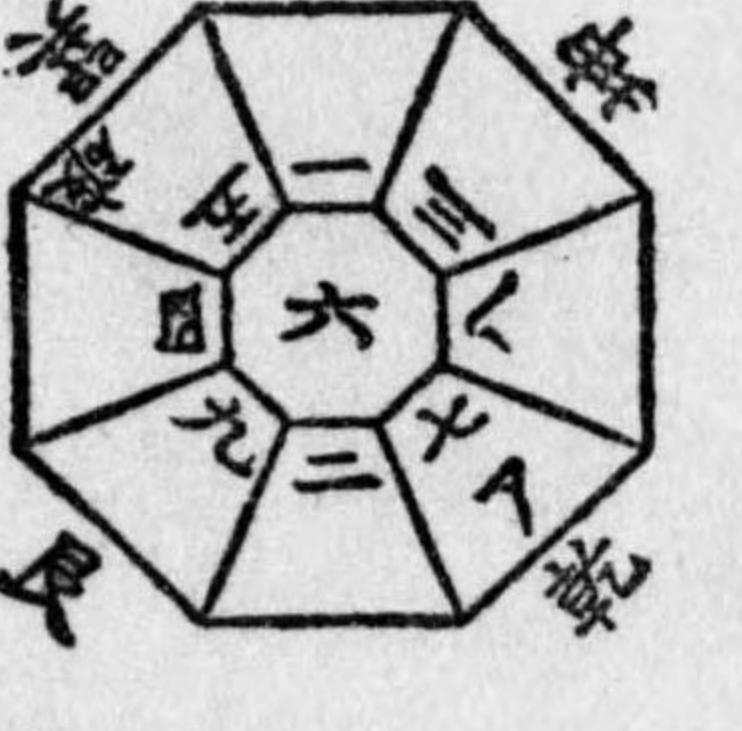
同同 四 乙未



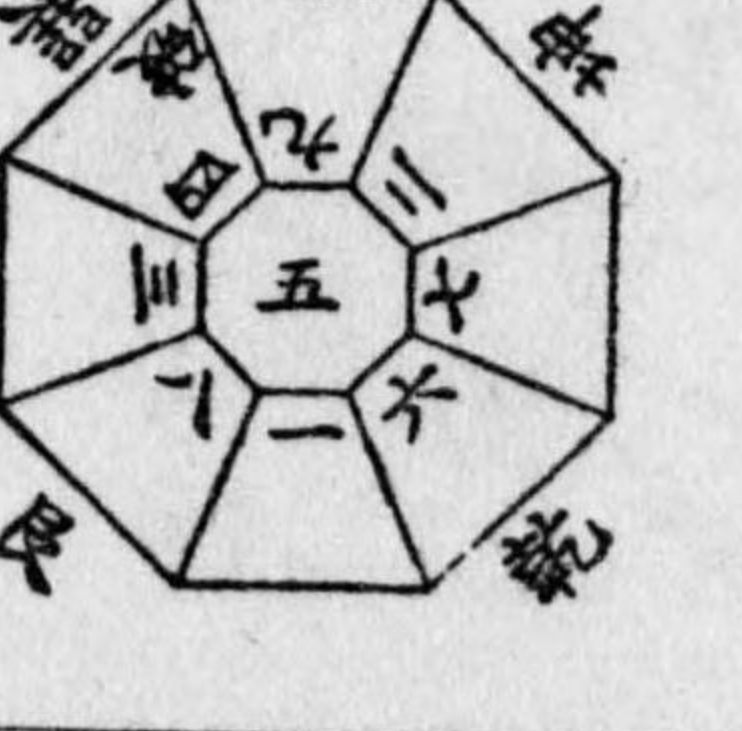
同同 五 丙申



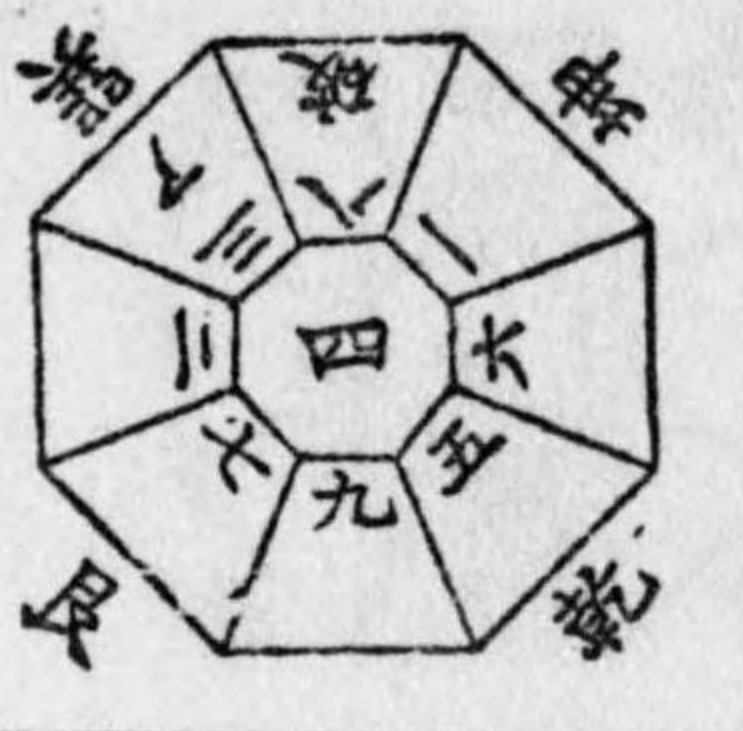
同同 六 丁酉



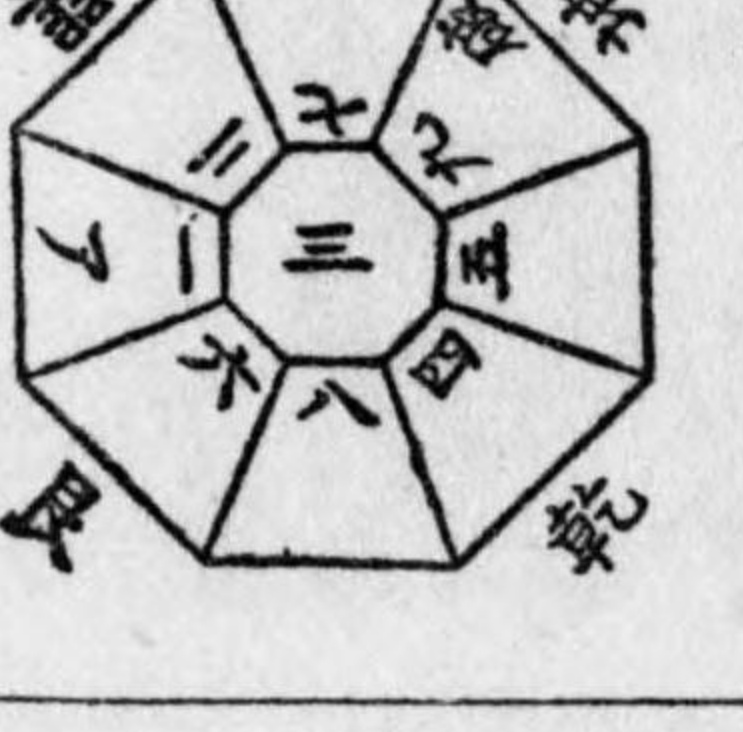
同同 七 戊戌



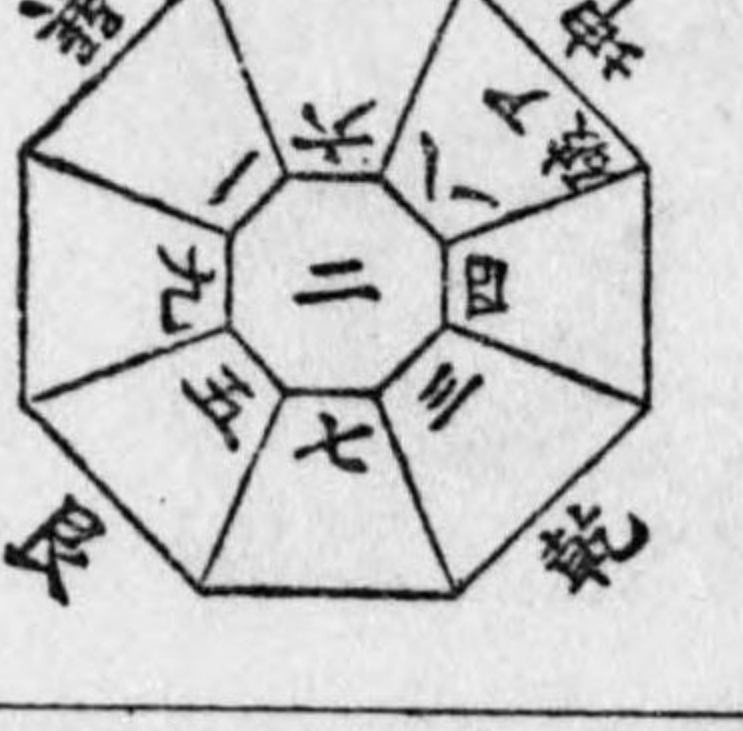
同同 八 己亥



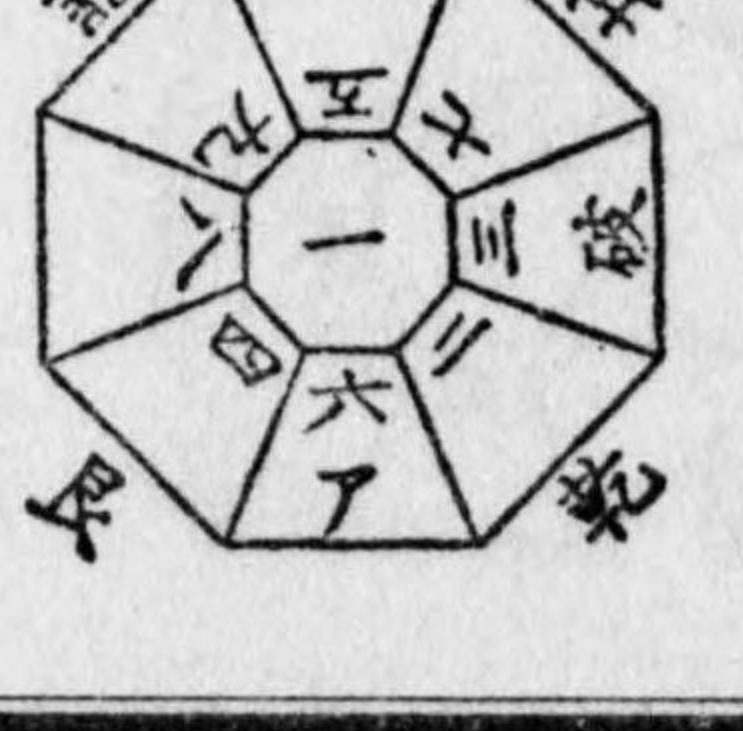
同同 九 庚子



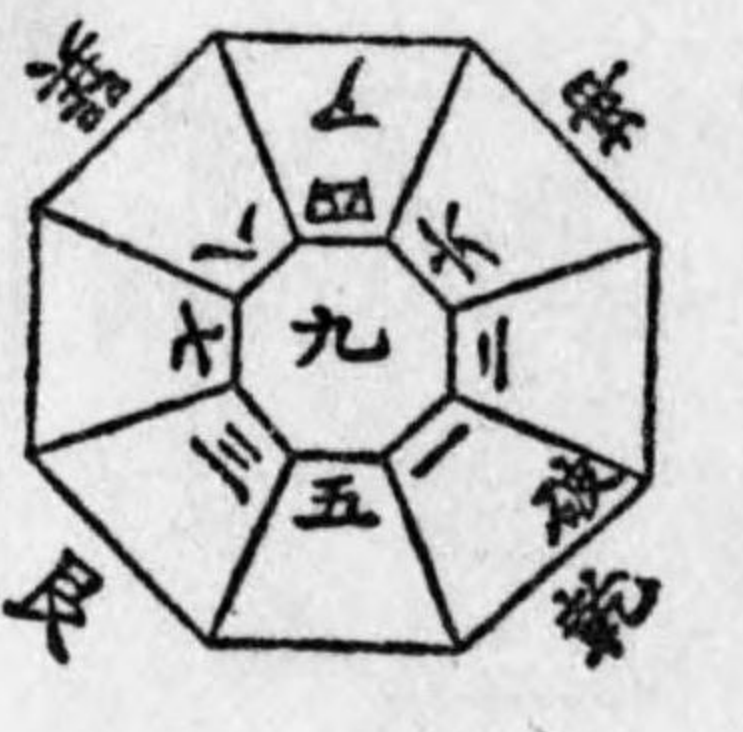
同天明 元 辛丑



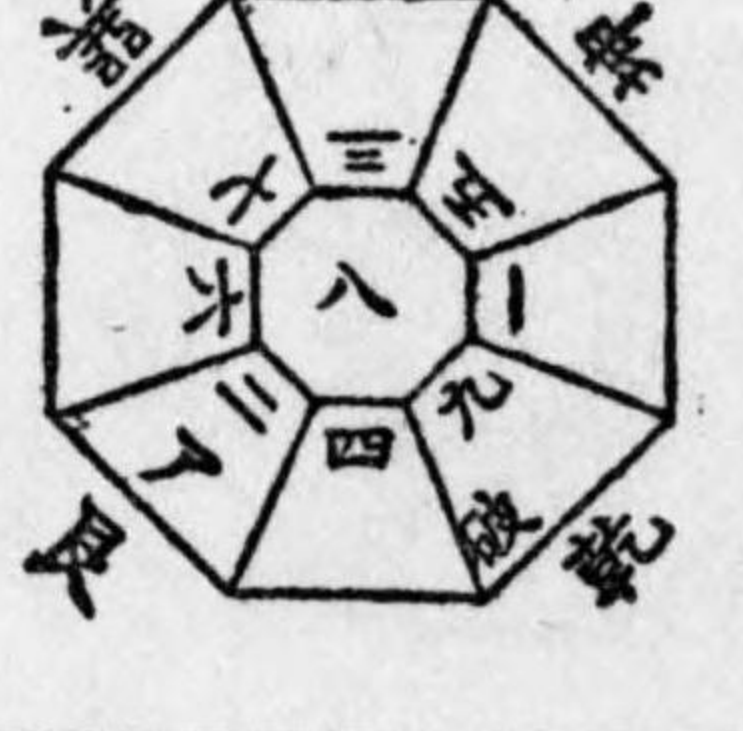
同同 二 壬寅



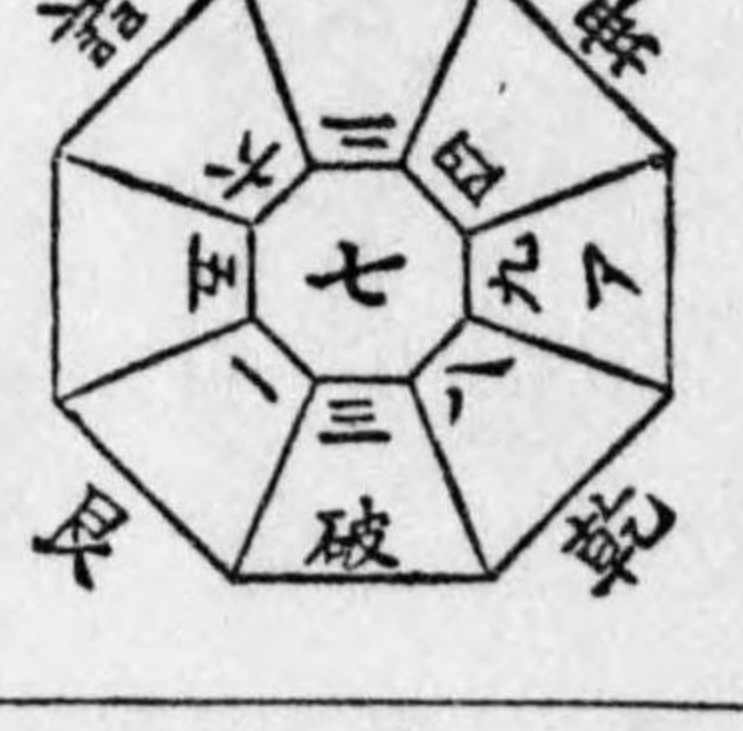
同同 三 癸卯



同同 四 甲辰



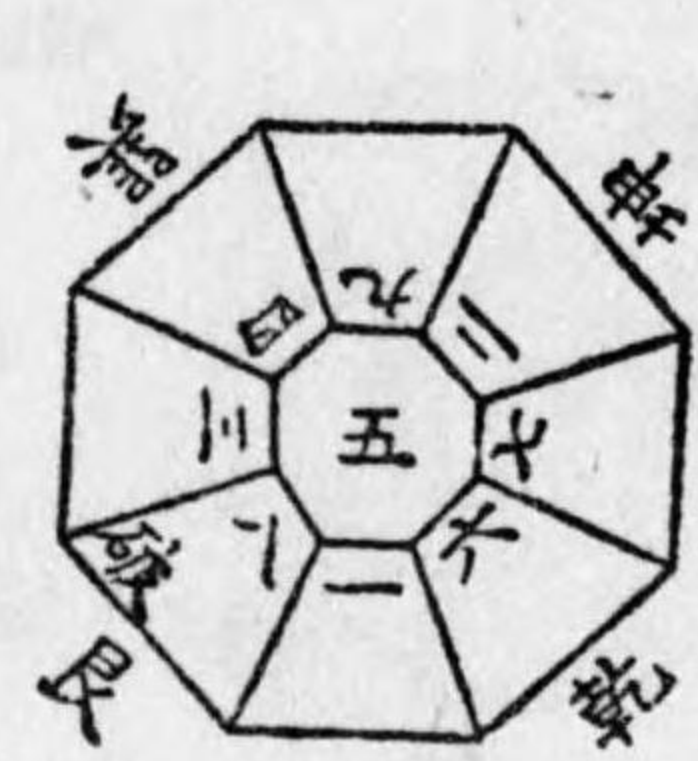
同同 五 乙巳



同同 六 丙午



同同 七 丁未



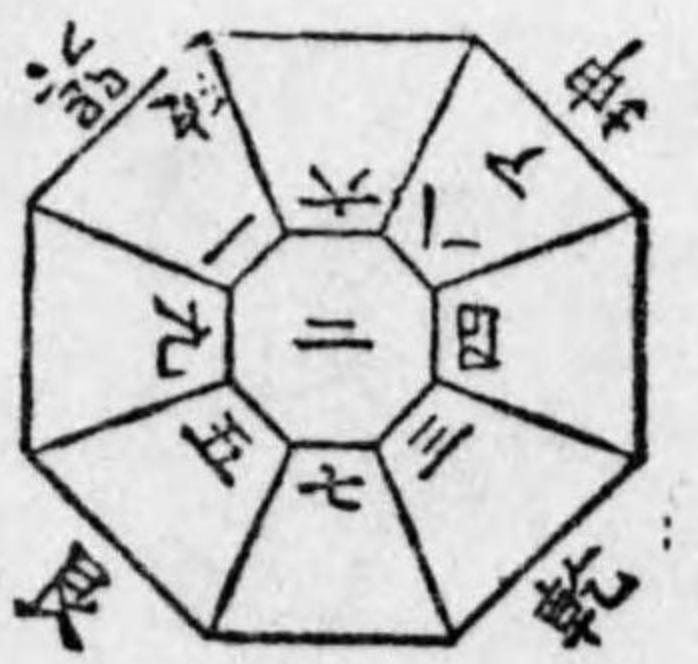
同天明 八 戊申



同寬政 元 己酉



同同 二 庚戌



同同 三 辛亥



同同 四 壬子



同同 五 癸丑



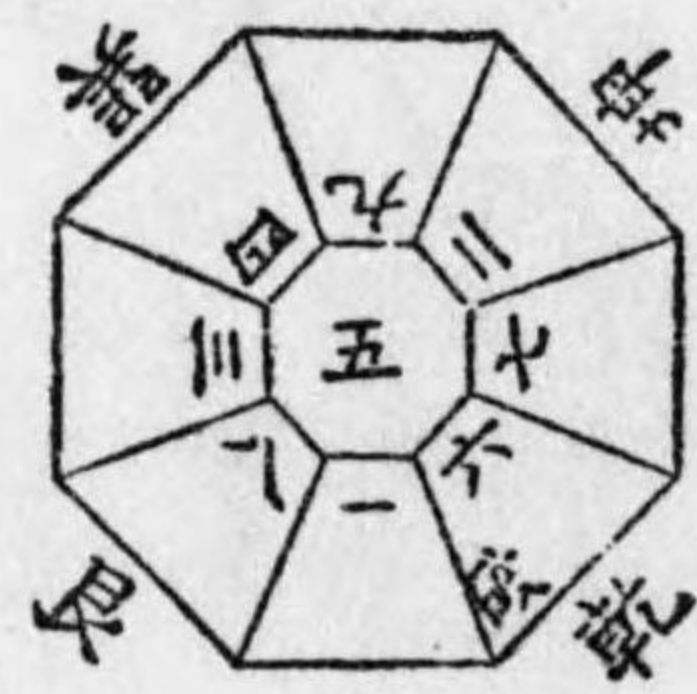
同同 六 甲寅



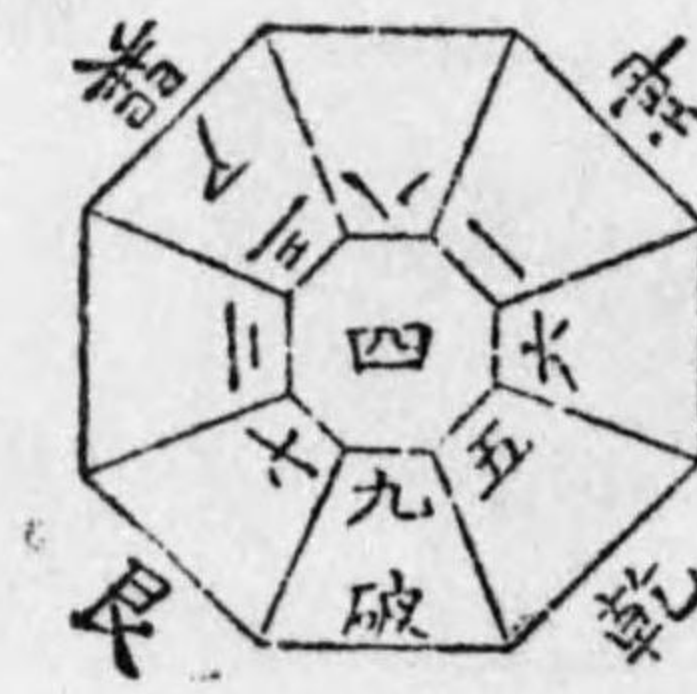
同同 七 乙卯



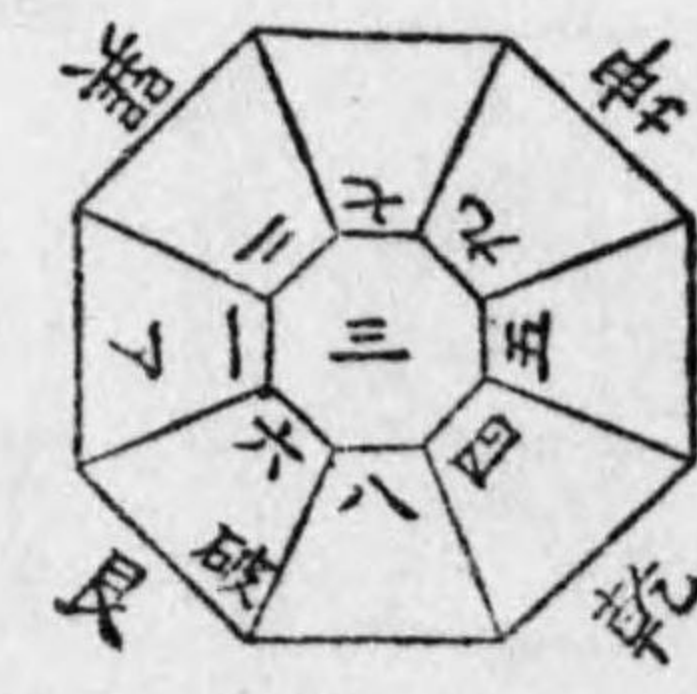
同同 八 丙辰



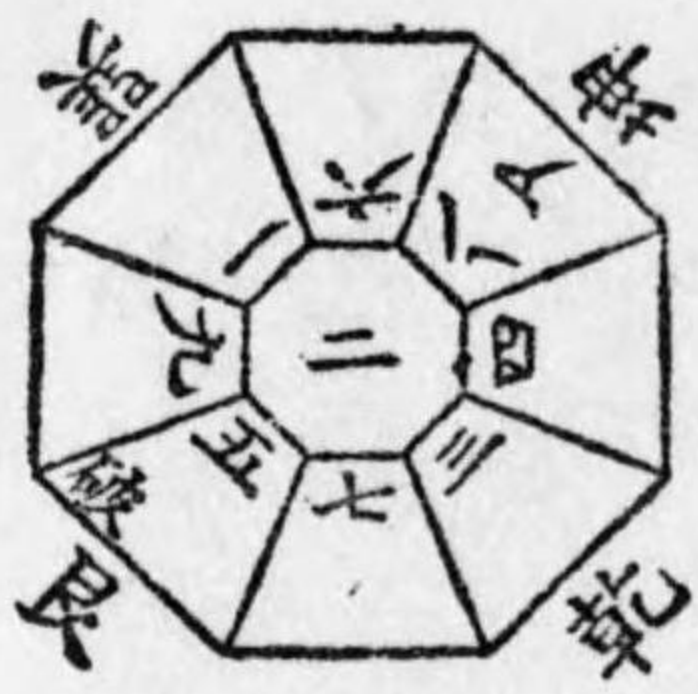
同同 九 丁巳



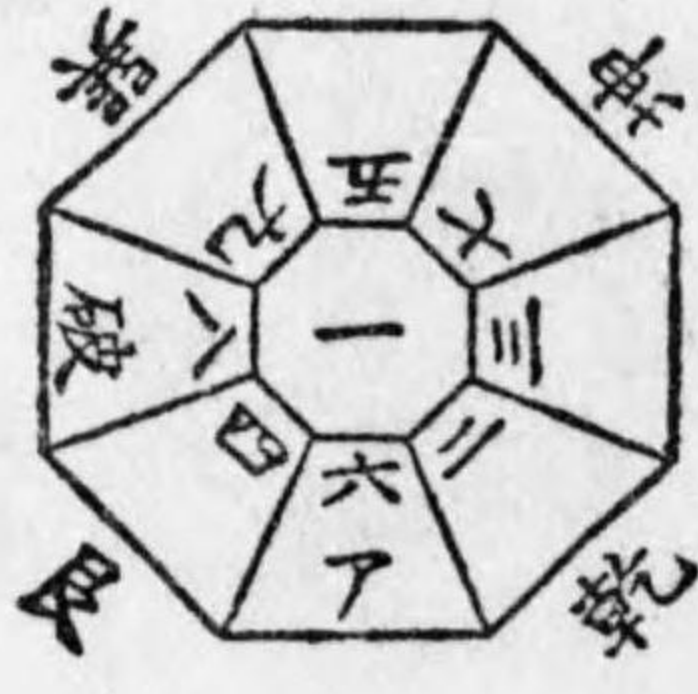
同同 十 戊午



同同 十一 己未



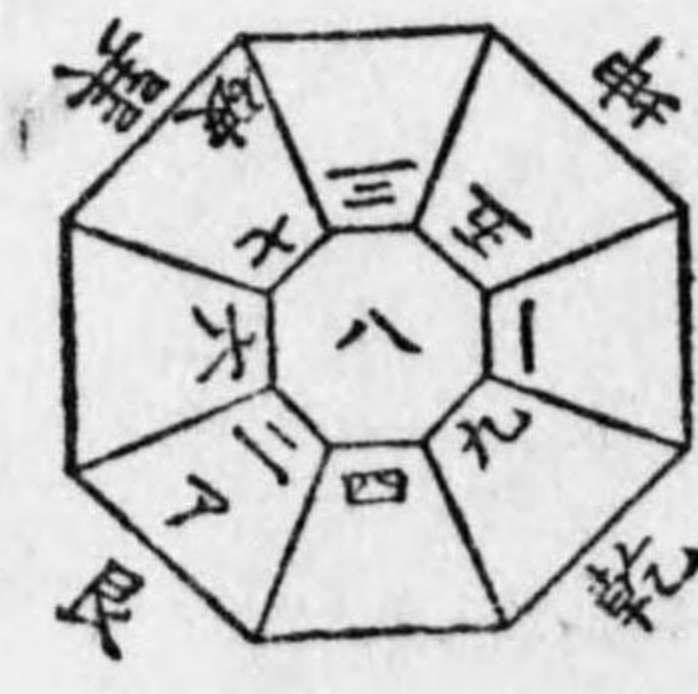
同同 十二 庚申



同享和 元 辛酉



同同 二 壬戌



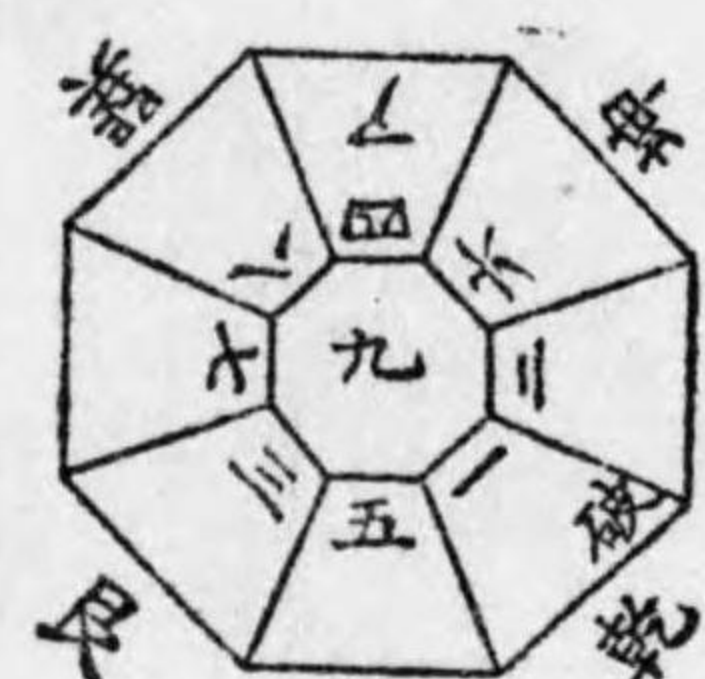
同同 三 癸亥

<p>同同 十三 丙子</p>	<p>同同 九 壬申</p>
<p>同同 十四 丁丑</p>	<p>同同 十 癸酉</p>
<p>同文政 元 戊寅</p>	<p>同同 十一 甲戌</p>
<p>同同 二 己卯</p>	<p>同同 十二 乙亥</p>

始元下

<p>同同 五 戊辰</p>	<p>文化 元 甲子</p>
<p>同同 六 己巳</p>	<p>同同 二 乙丑</p>
<p>同同 七 庚午</p>	<p>同同 三 丙寅</p>
<p>同同 八 辛未</p>	<p>同同 四 丁卯</p>

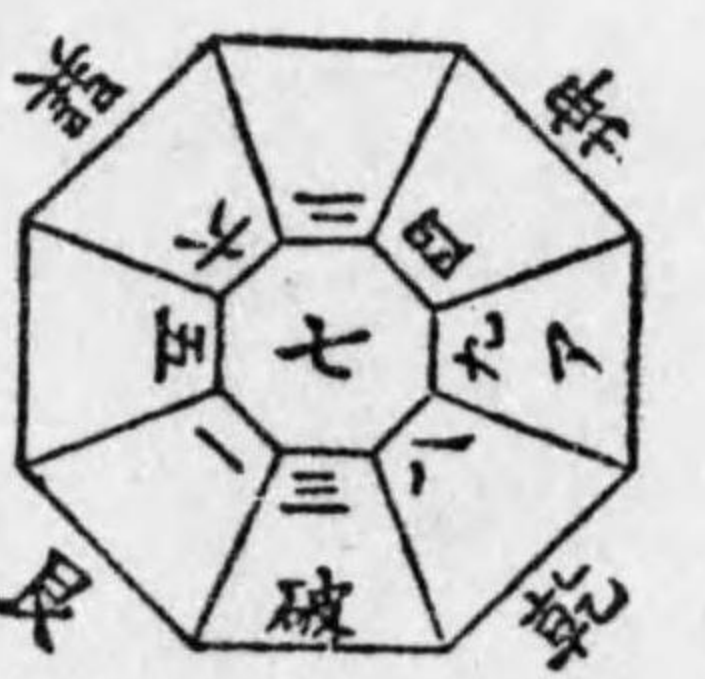
同文政 三庚辰



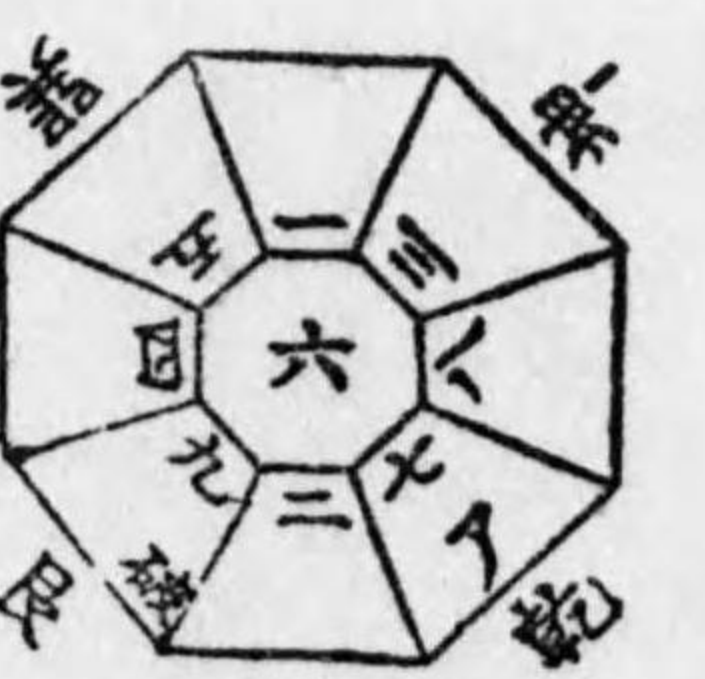
同同 四辛巳



同同 五壬午



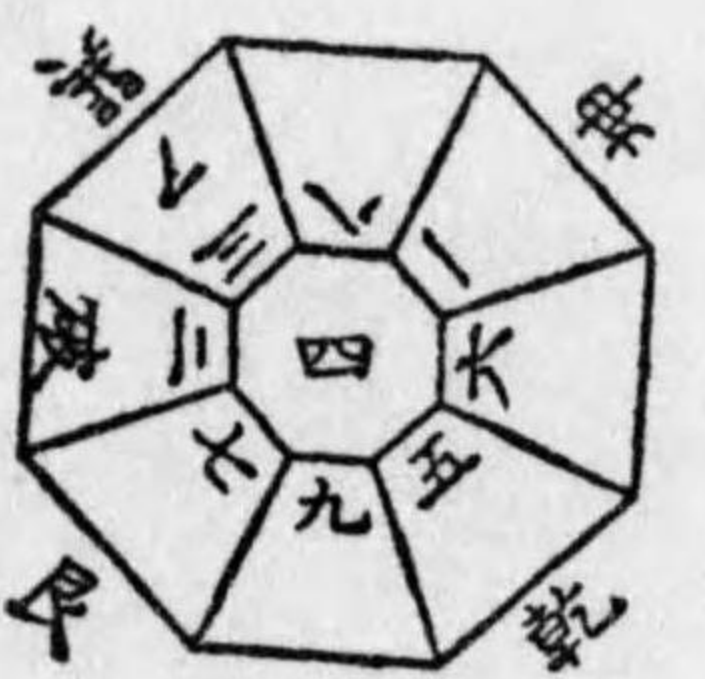
同同 六癸未



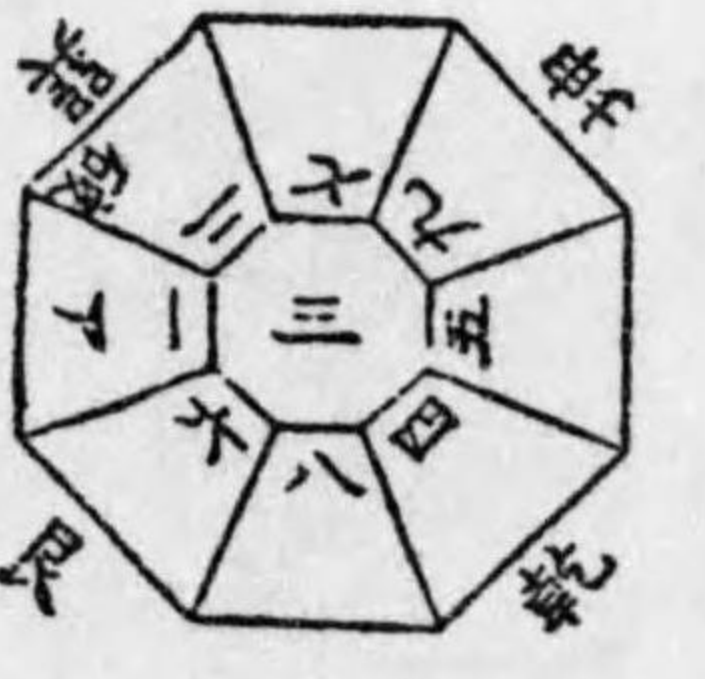
同同 七甲申



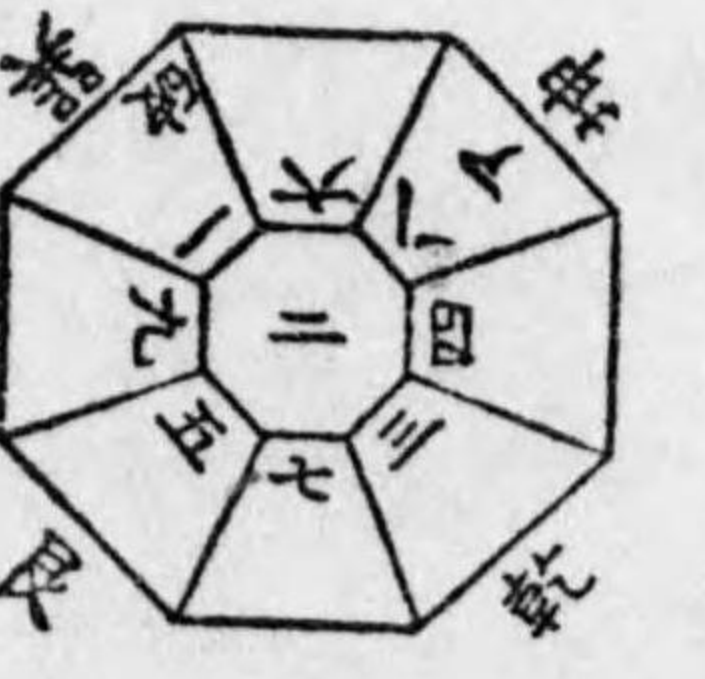
同同 八乙酉



同同 九丙戌



同同 十丁亥



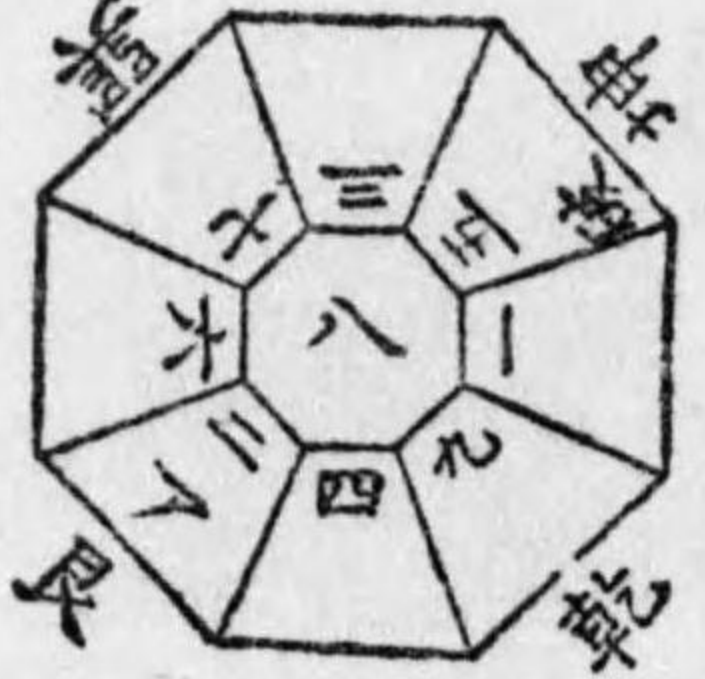
同同 十一戊子



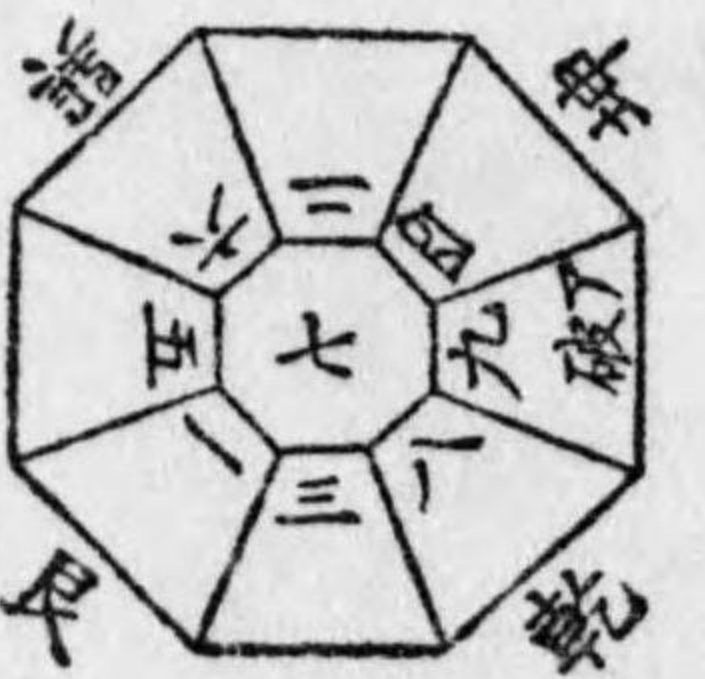
同同 十二己丑



同天保 元庚寅



同同 二辛卯



同同 三壬辰



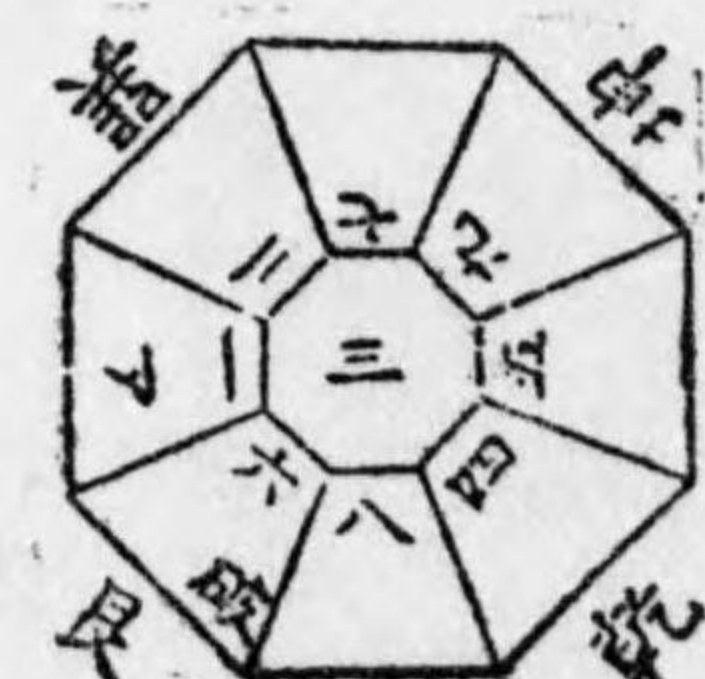
同同 四癸巳

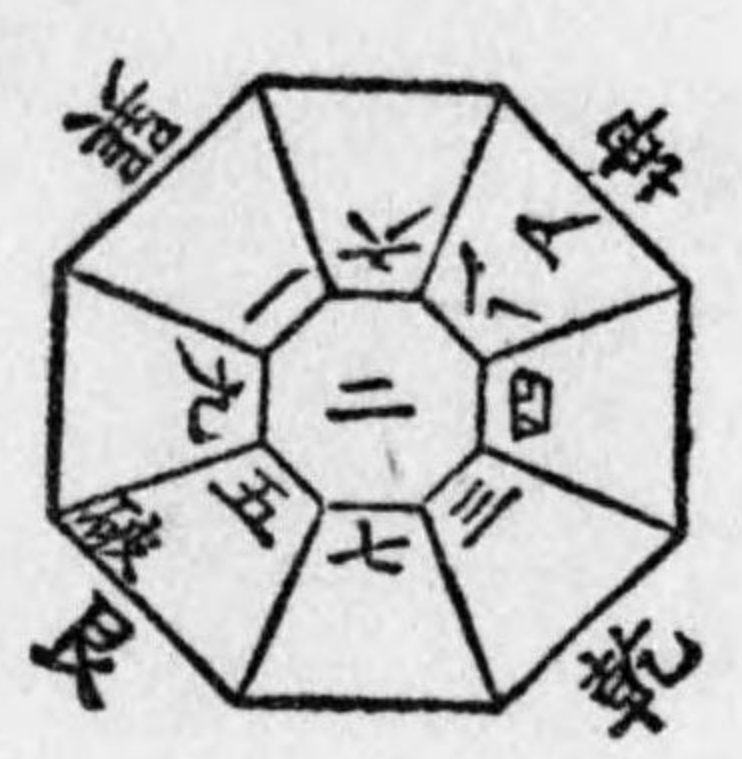


同同 五甲午

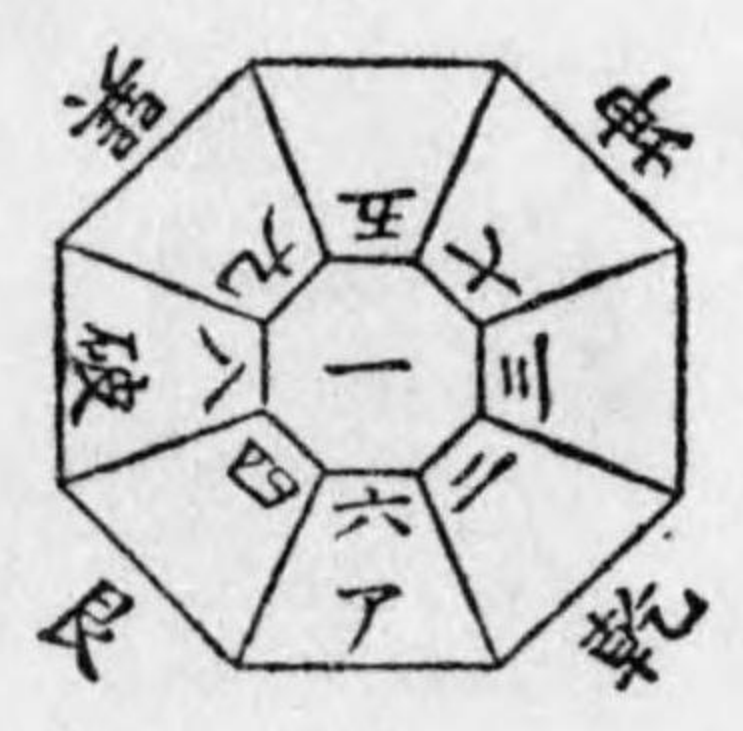


同同 六乙未

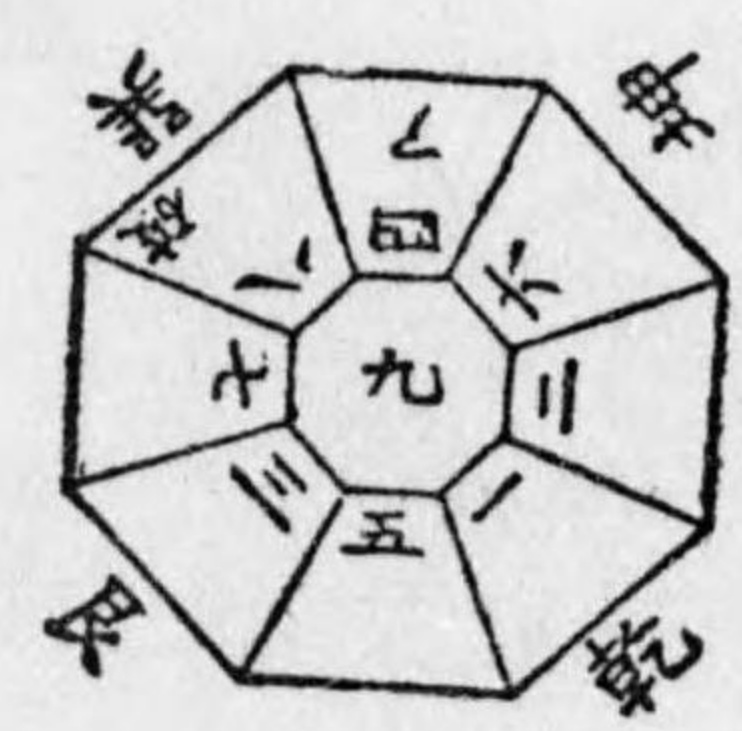




同天保 七 丙申



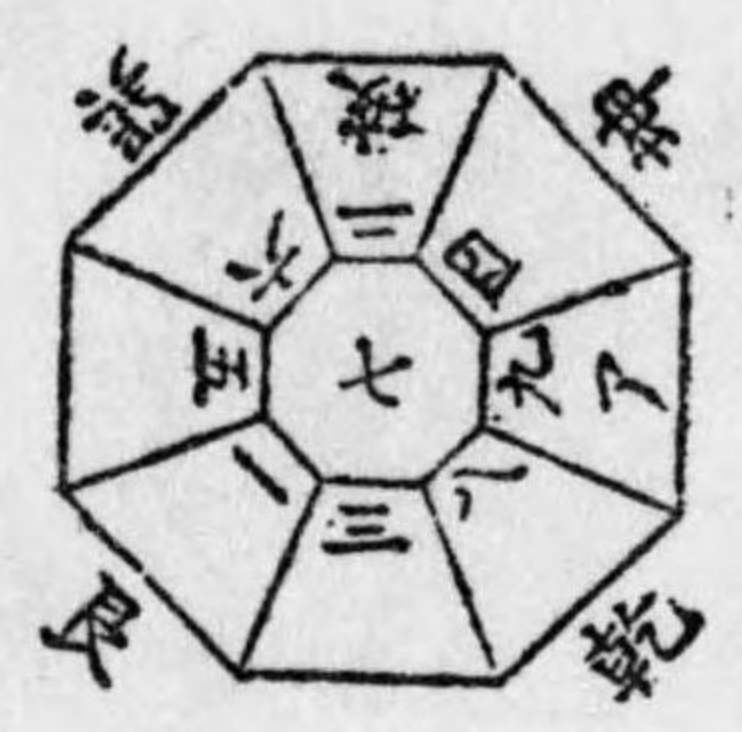
同同 八 丁酉



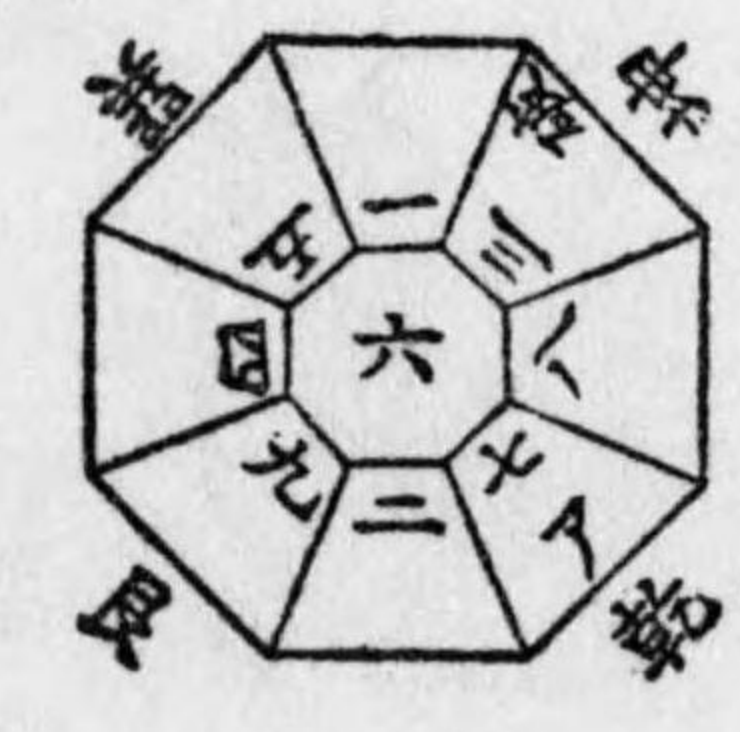
同同 九 戊戌



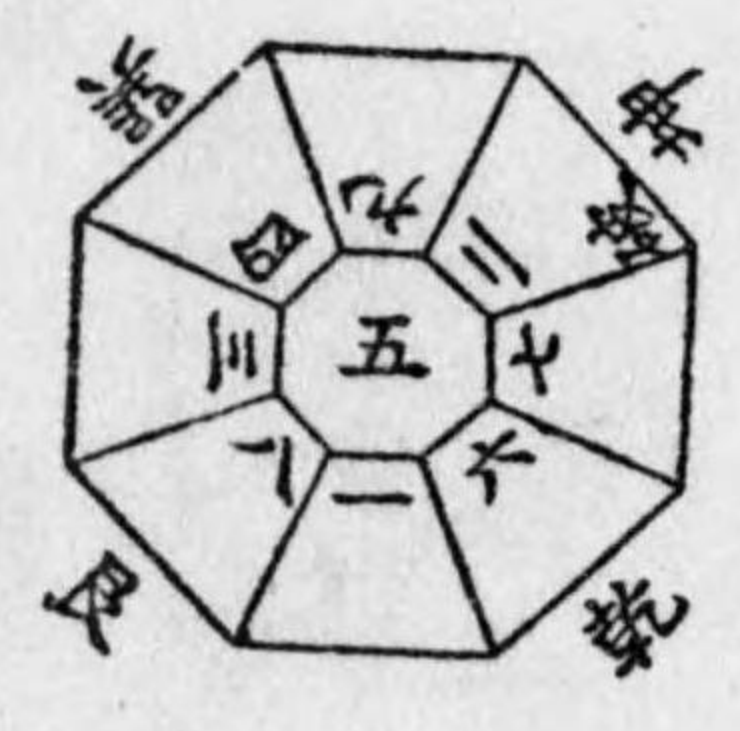
同同 十 己亥



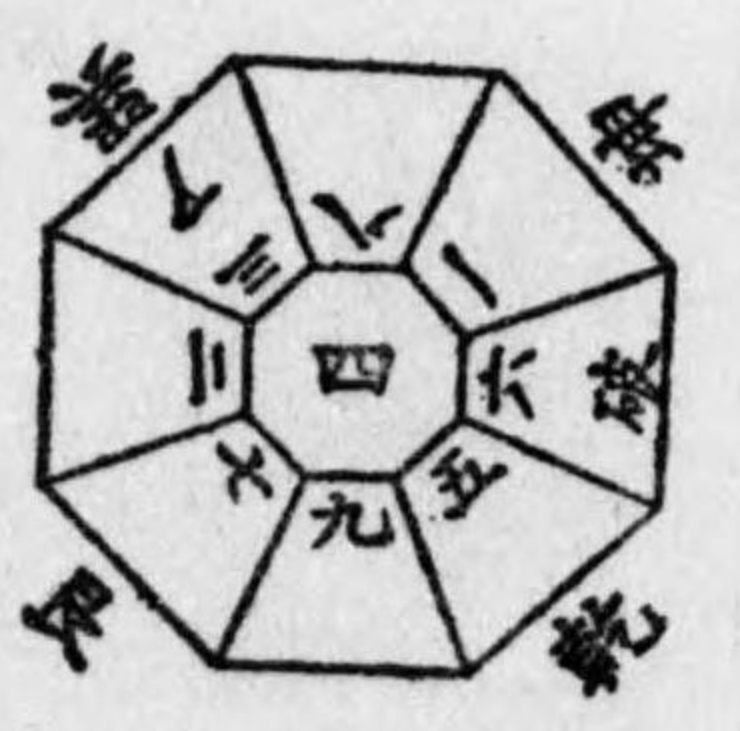
同同 十一 庚子



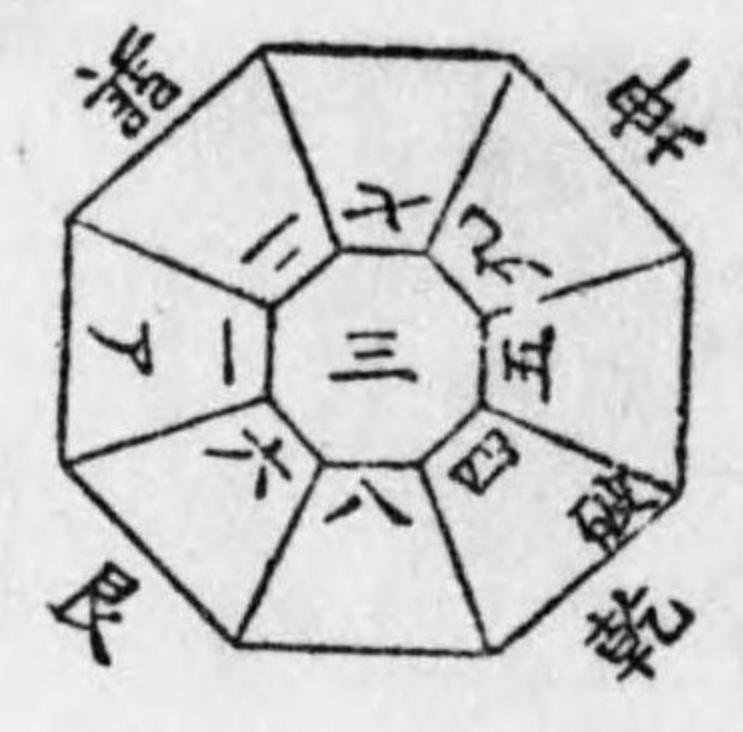
同同 十二 辛丑



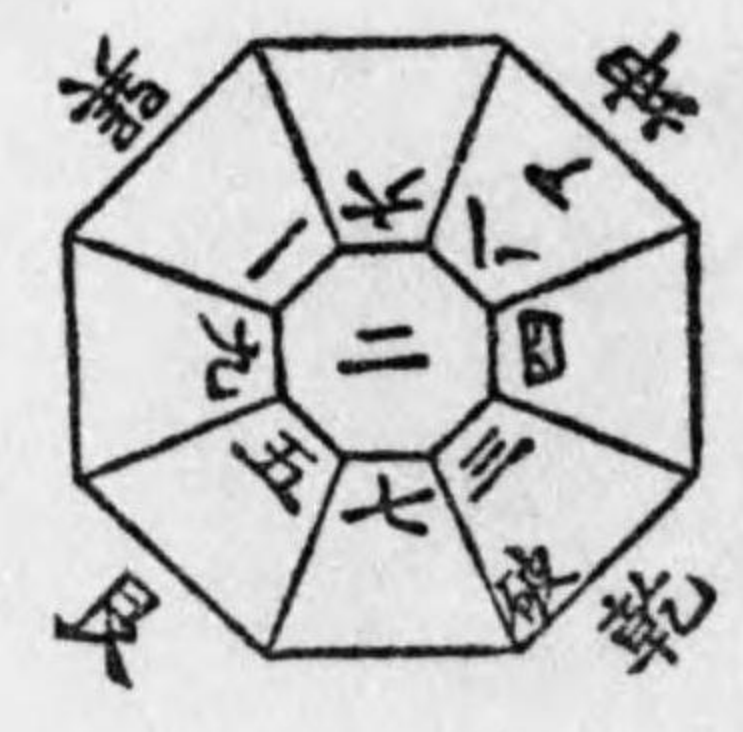
同同 十三 壬寅



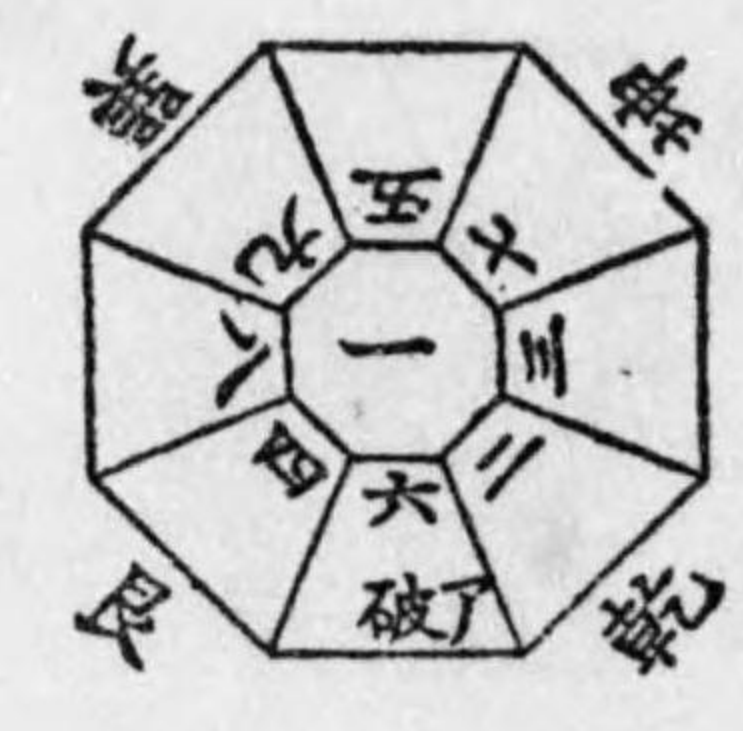
同同 十四 癸卯



同弘化 元 甲辰



同同 二 乙巳



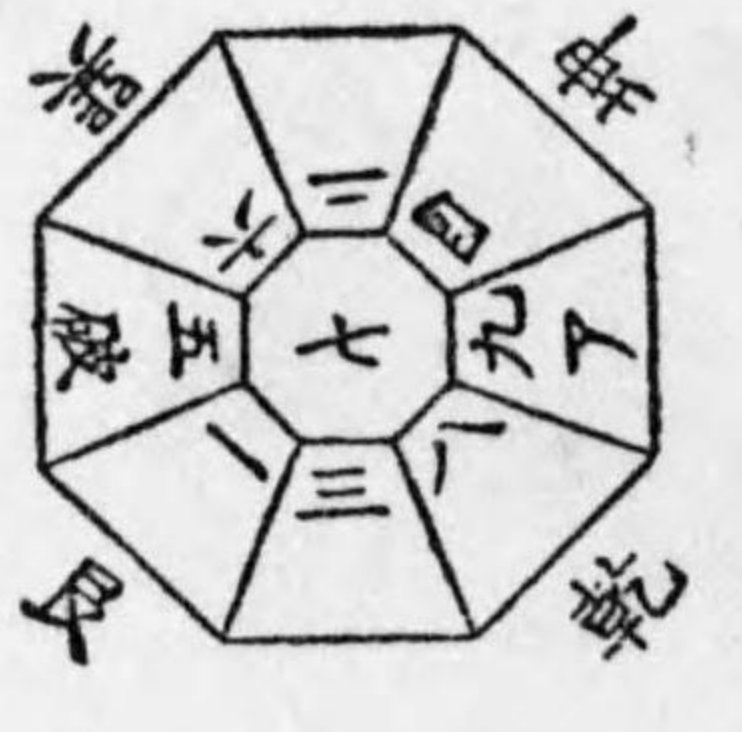
同同 三 丙午



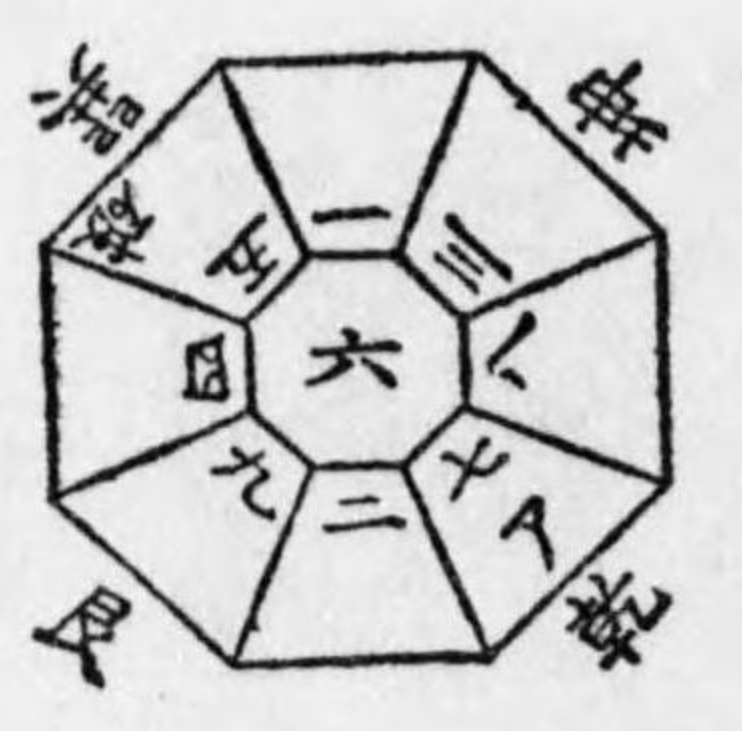
同同 四 丁未



同嘉永 元 戊申



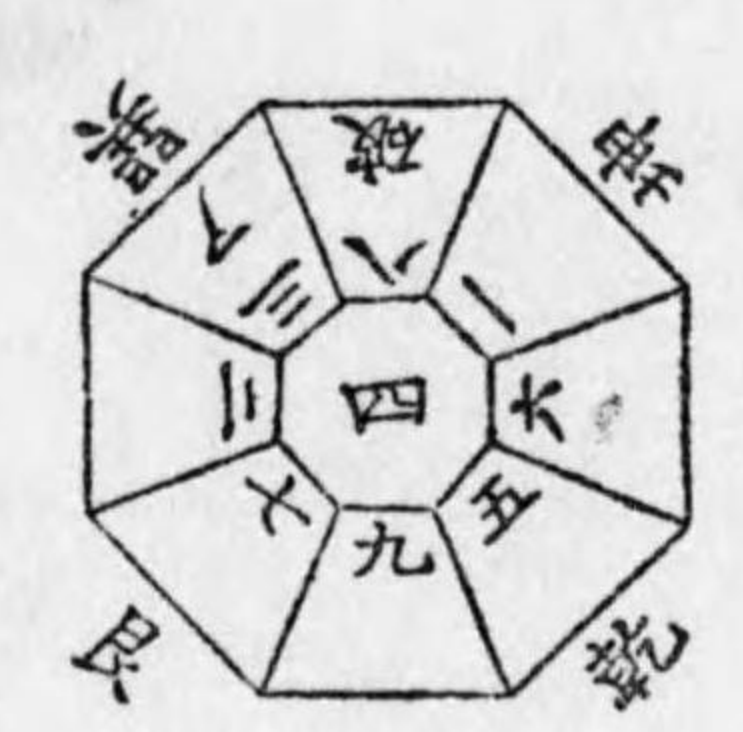
同同 二 己酉



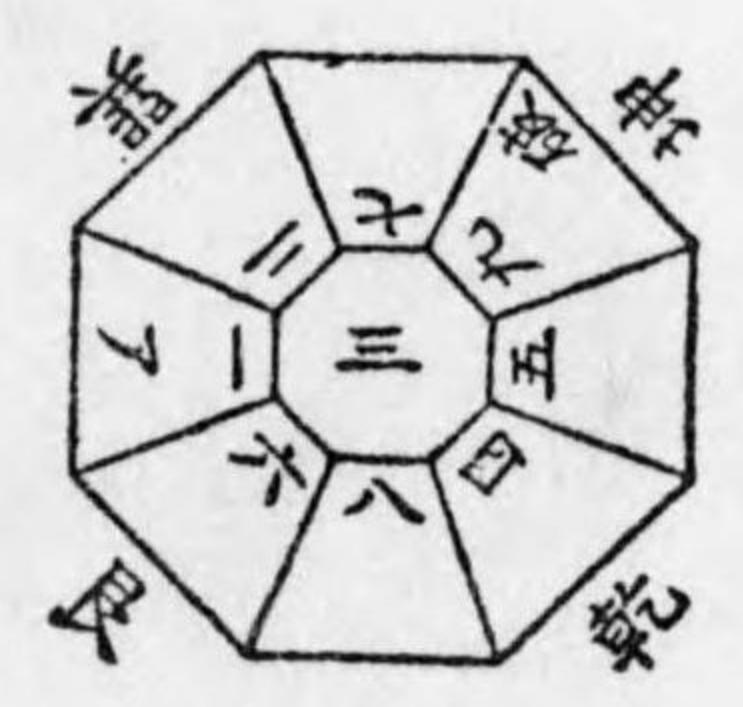
同同 三 庚戌



同同 四 辛亥



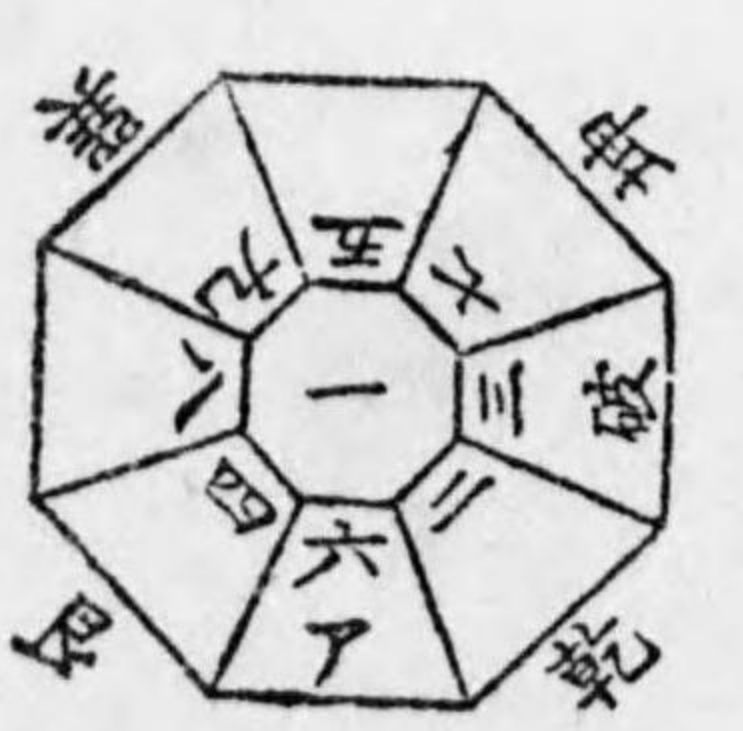
同嘉永 五 壬子



同同 六 癸丑



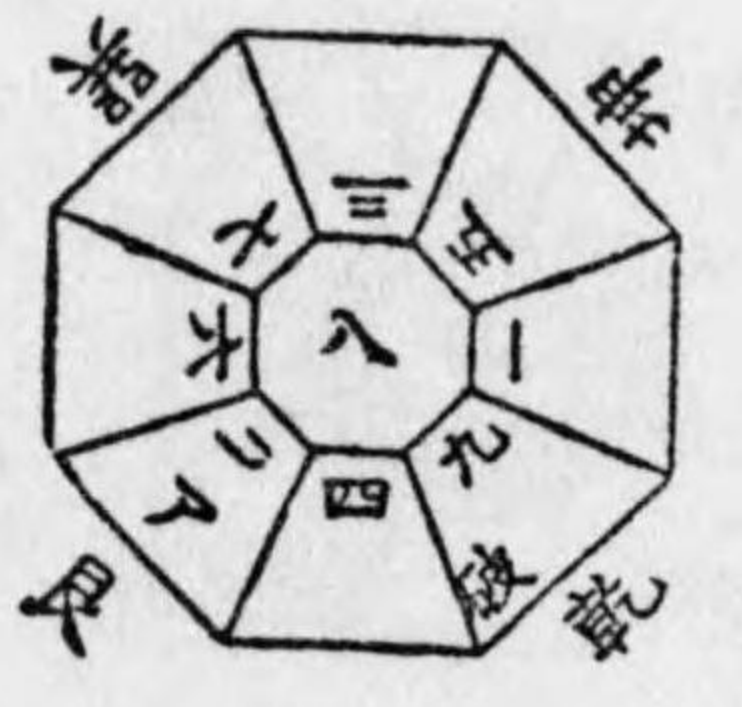
同安政 元 甲寅



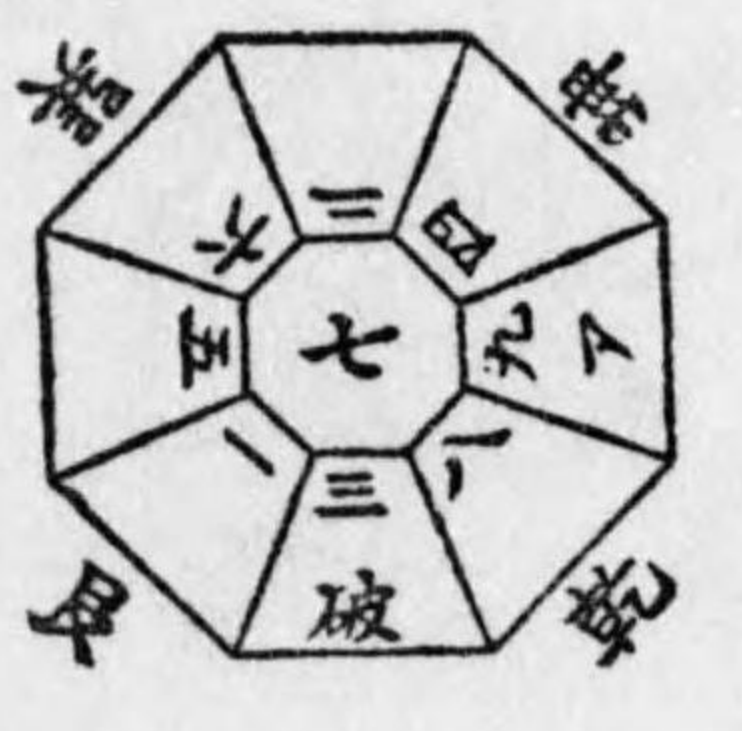
同同 二 乙卯



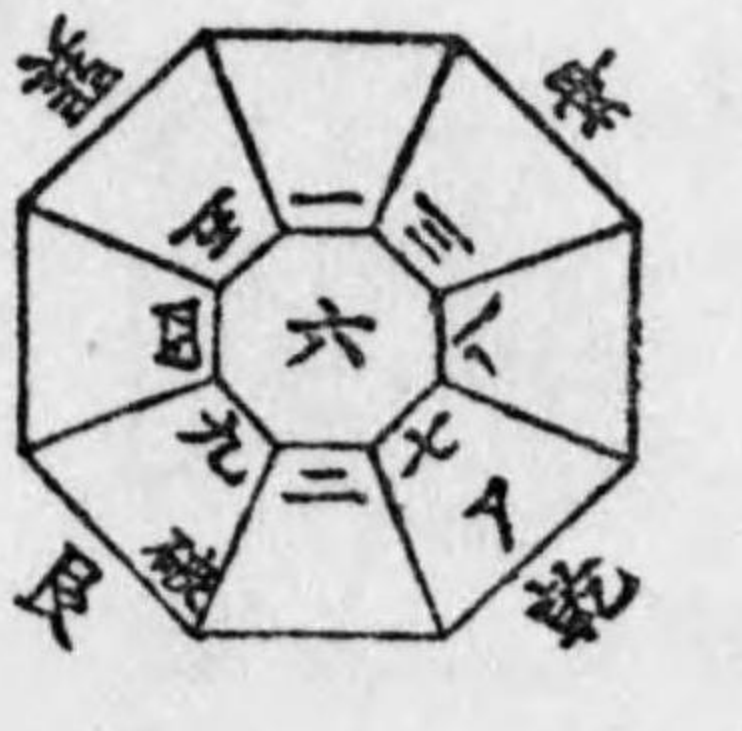
同同 三 丙辰



同同 四 丁巳



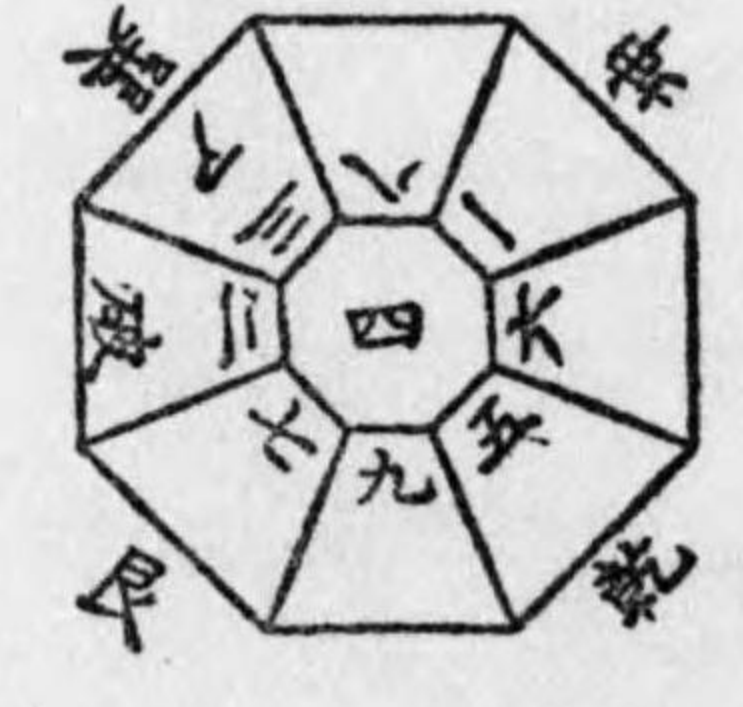
同同 五 戊午



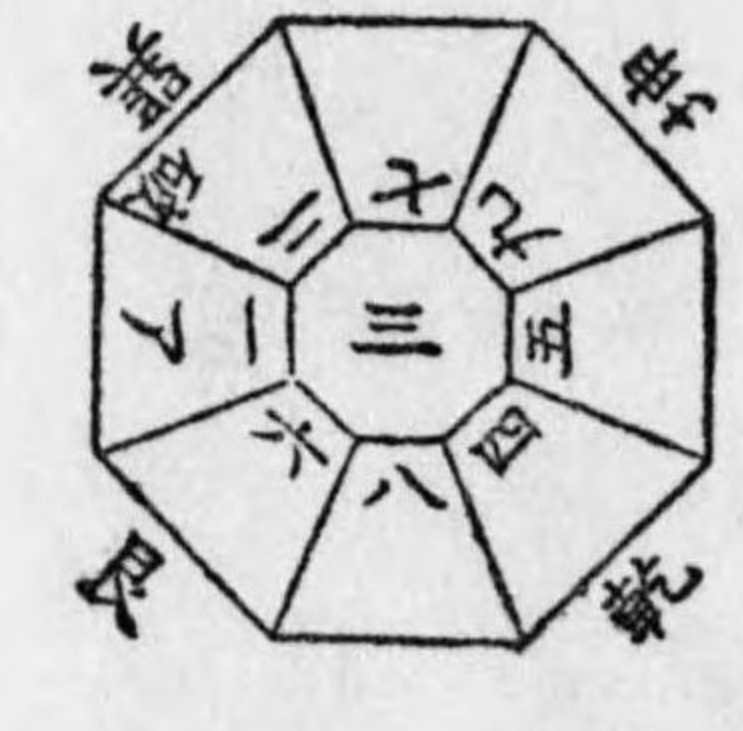
同同 六 己未



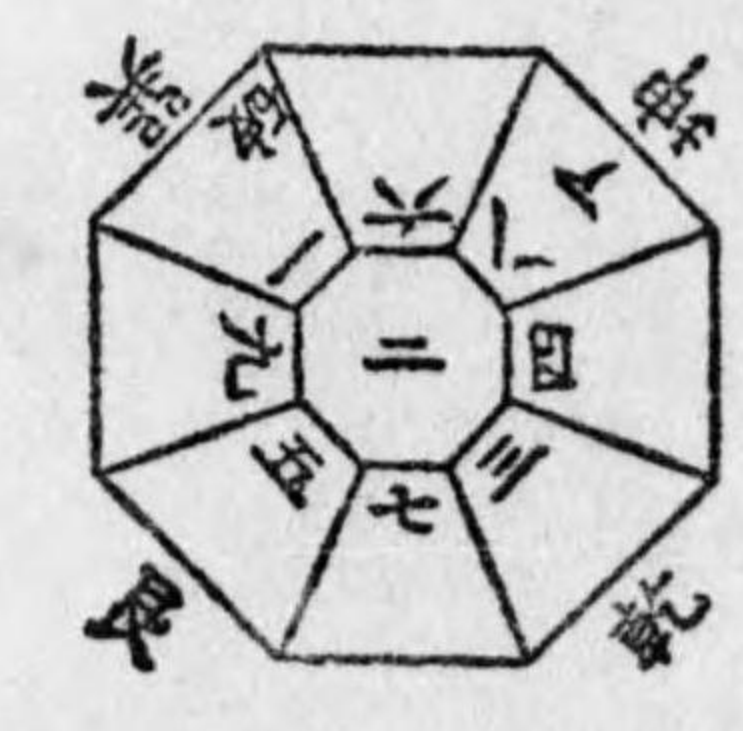
同萬延 元 庚申



同文久 元 辛酉



同同 二 壬戌



同同 三 癸亥

◎月盤

略號

ア	破	空	合	月	天	道	生
.....
暗	月	月	天	月	天	天	生
.....
殺	破	空	合	德	德	導	炁

年酉午卯子

氣學入門

氣學入門

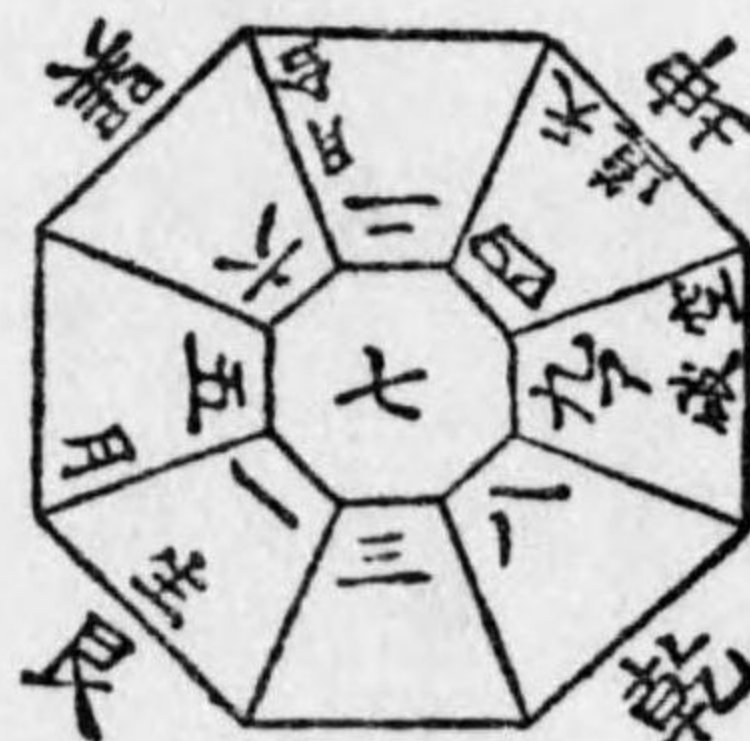
水雨春立

正月節 寅



分春 蟄啓

二月節 卯



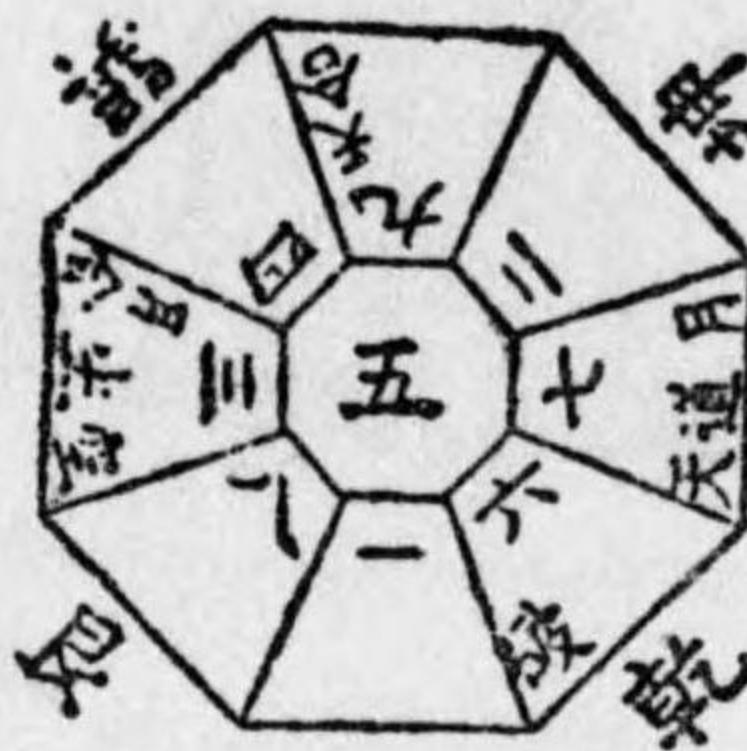
雨穀明清

三月節 辰



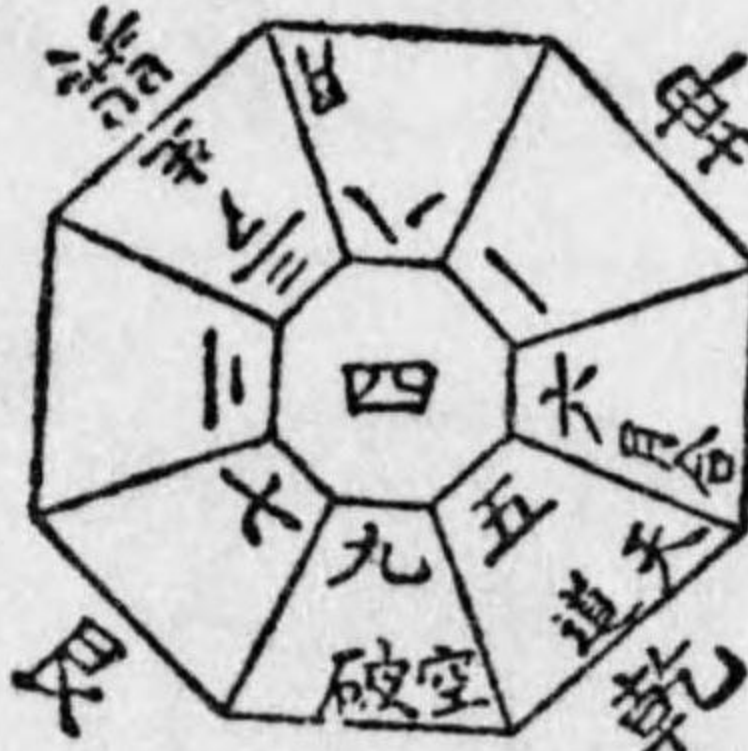
四月節 巳

滿小夏立



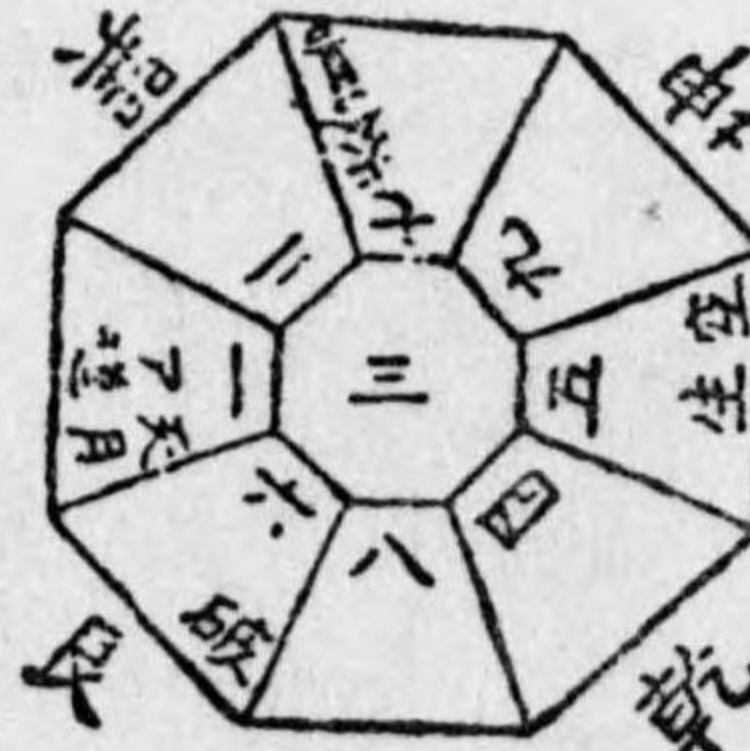
五月節 午

至夏種芒



六月節 未

暑大暑小



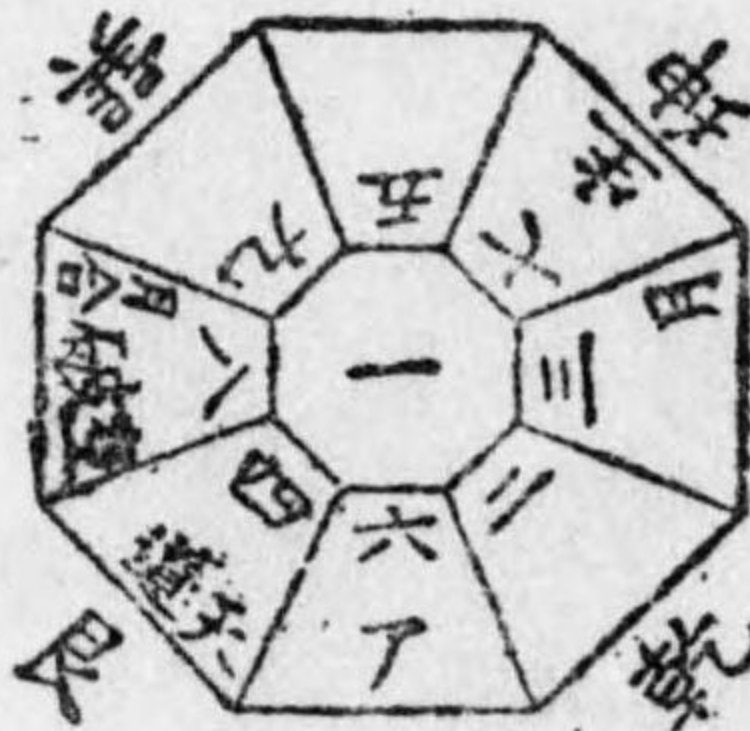
七月節 申

暑處秋立



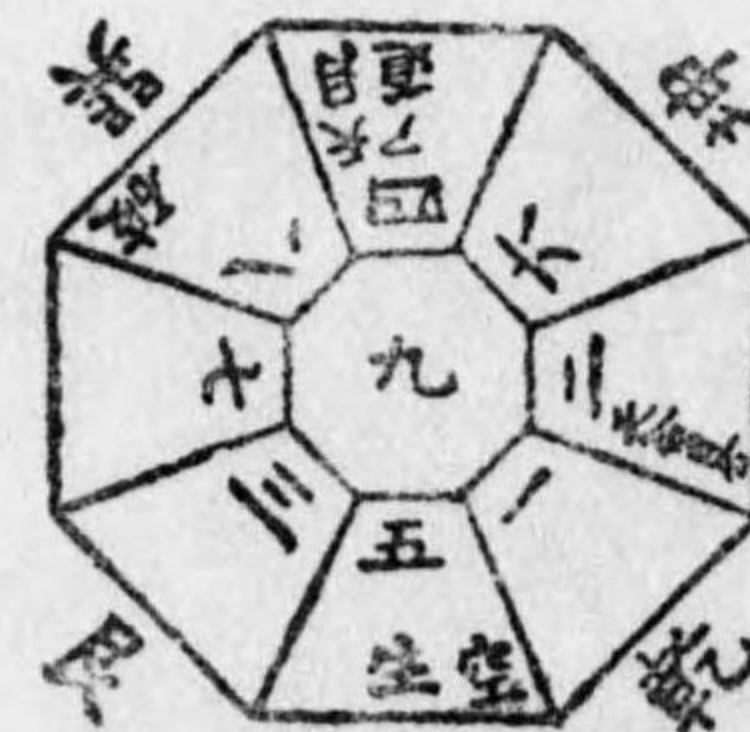
八月節 酉

分秋露白



九月節 戌

降霜露寒



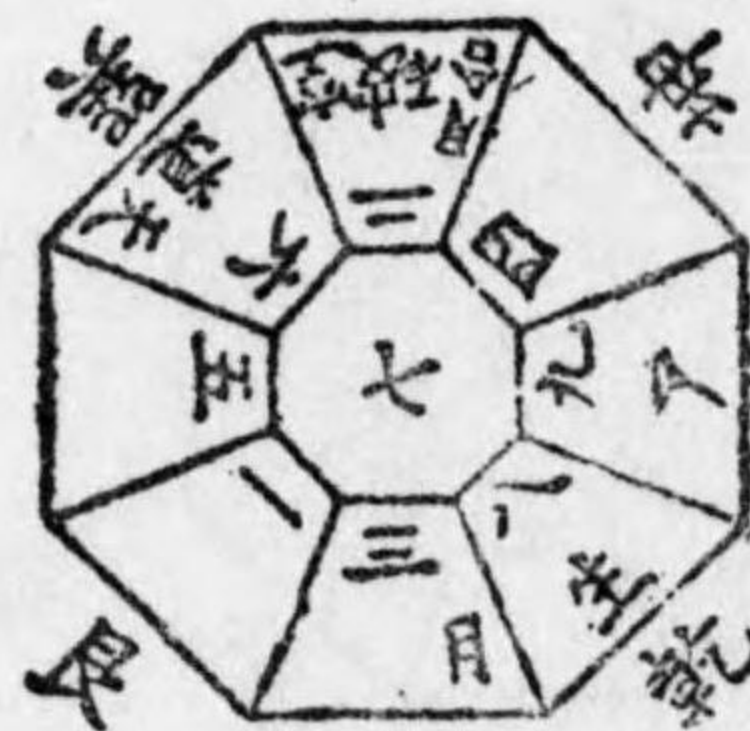
十月節 亥

雪小冬立



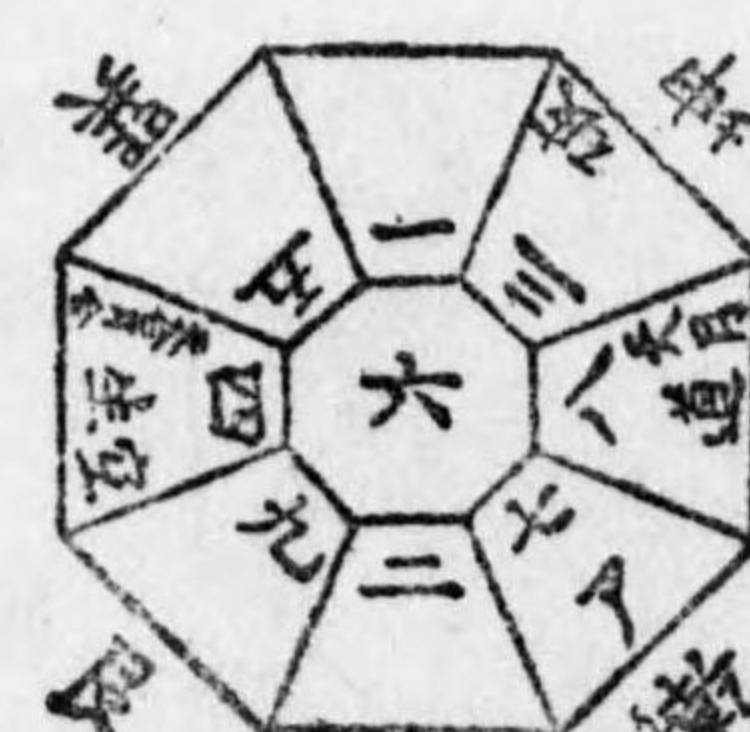
十一月節 子

至冬雪大



十二月節 丑

寒大寒小



氣學入門

氣學入門

年未辰丑戊

立 春 雨 水

正月節 寅

啓 蟄 春 分

二月節 卯

清 明 穀 雨

三月節 辰

四月節 巳

立 夏 小 滿

五月節 午

芒 種 夏 至

六月節 未

小 暑 大 暑

七月節 申

立 秋 處 暑

八月節 酉

白 露 秋 分

九月節 戌

寒 露 霜 降

十月節 亥

立 冬 小 雪

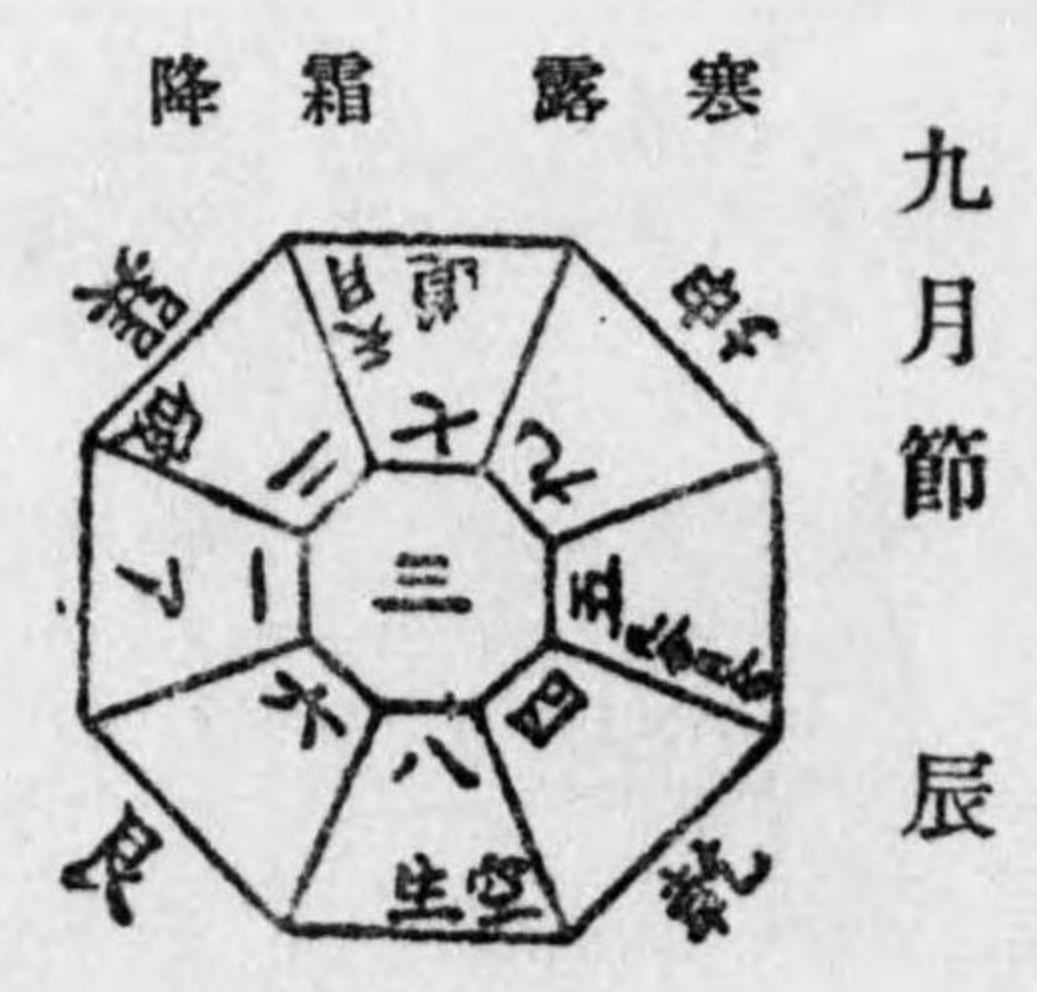
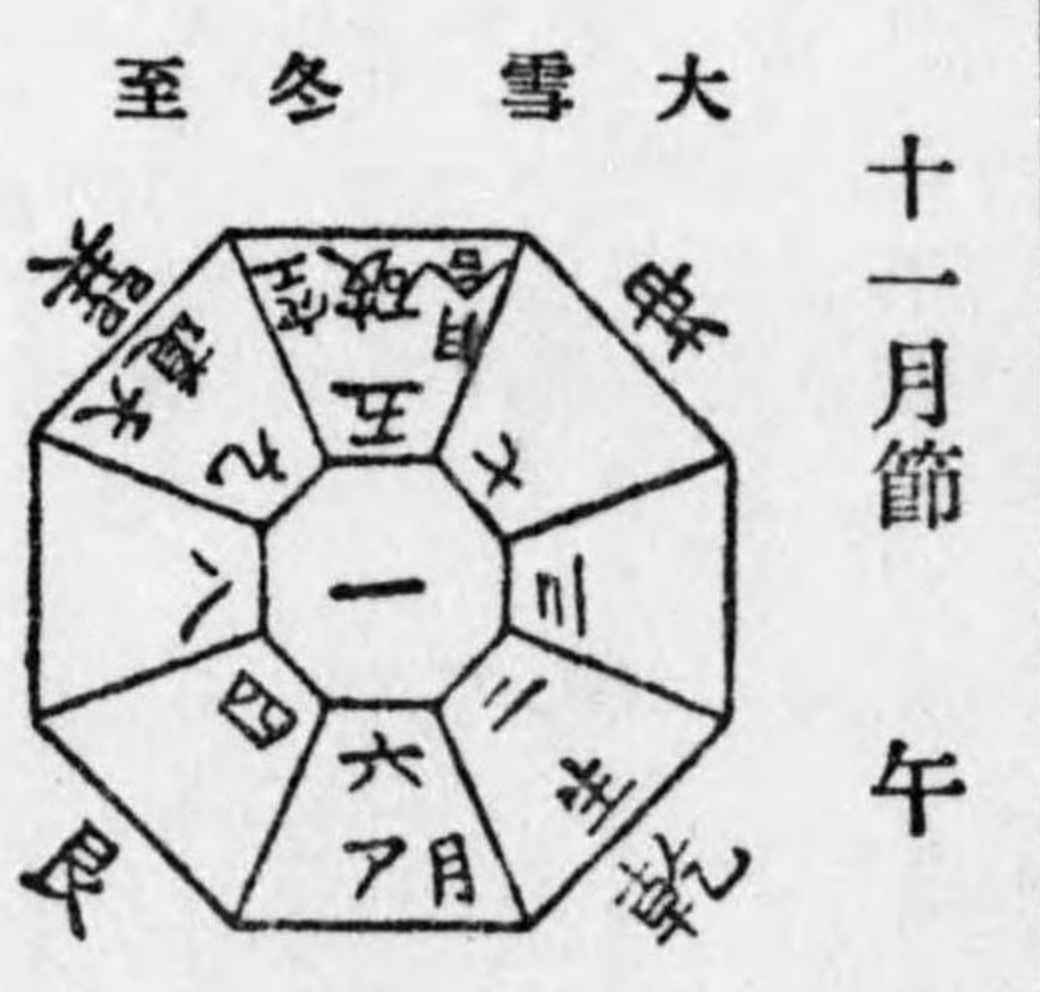
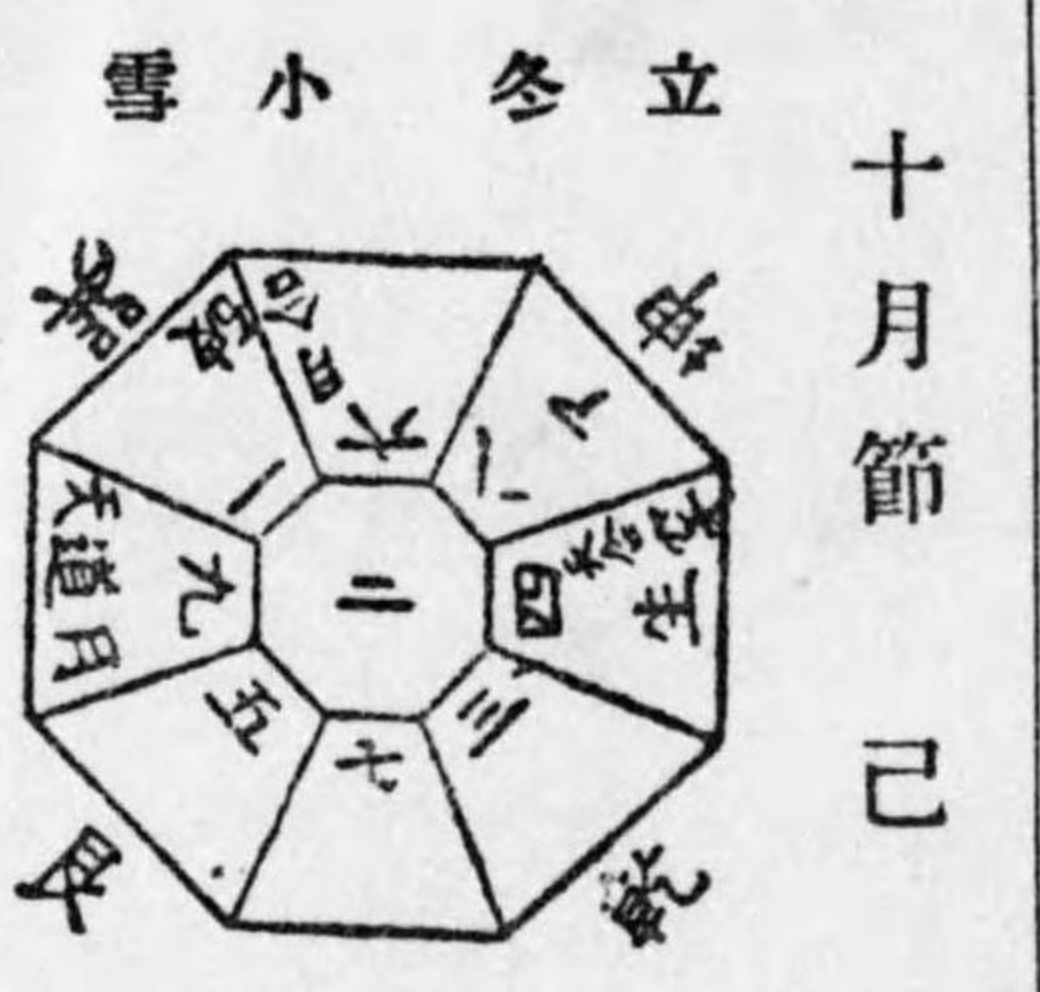
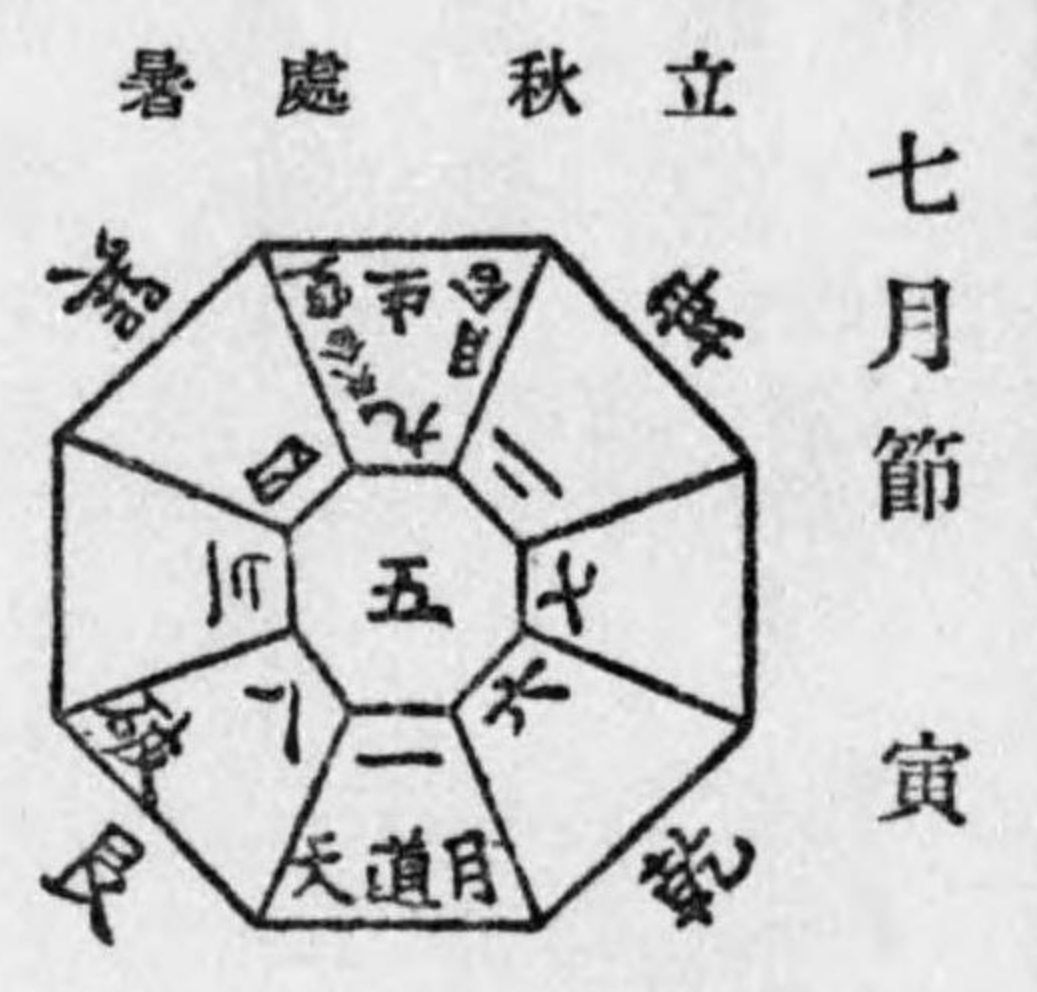
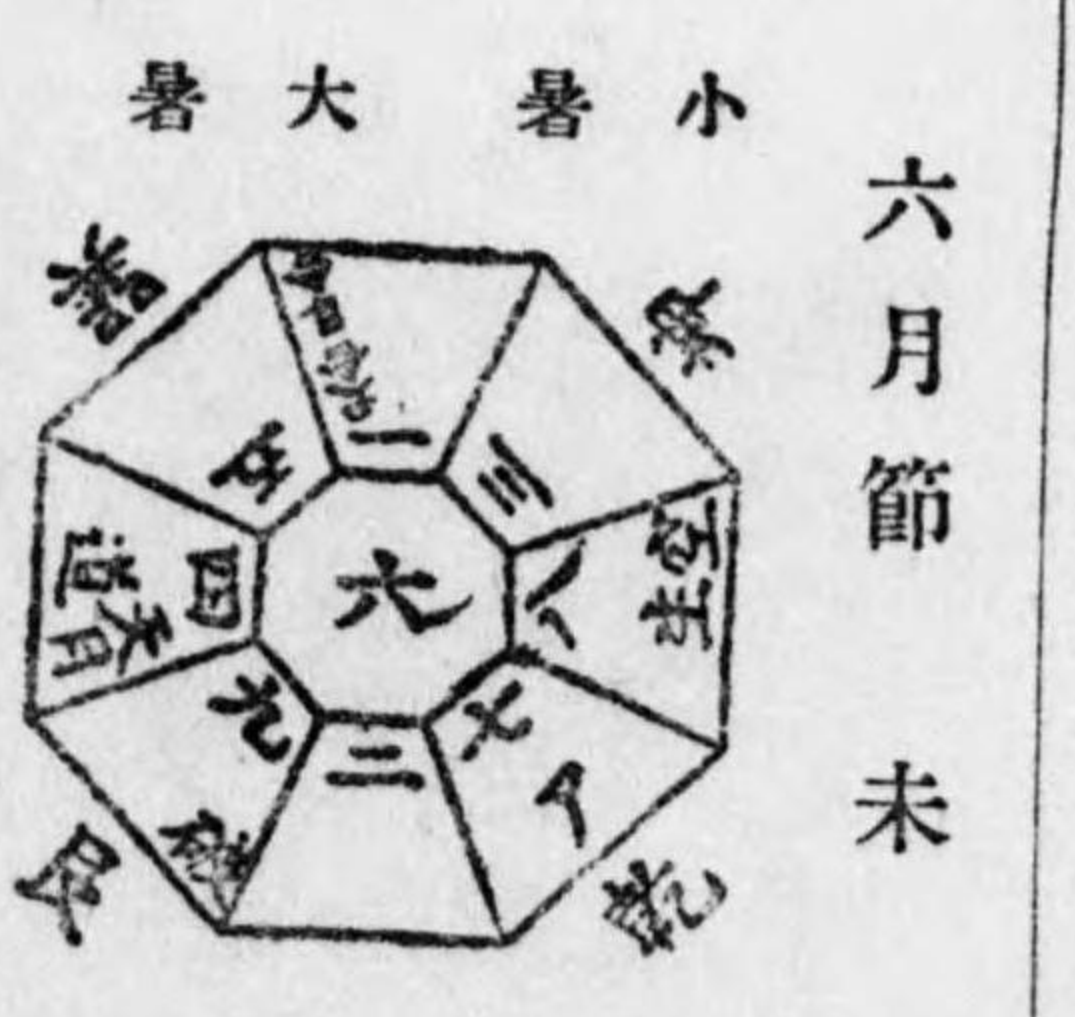
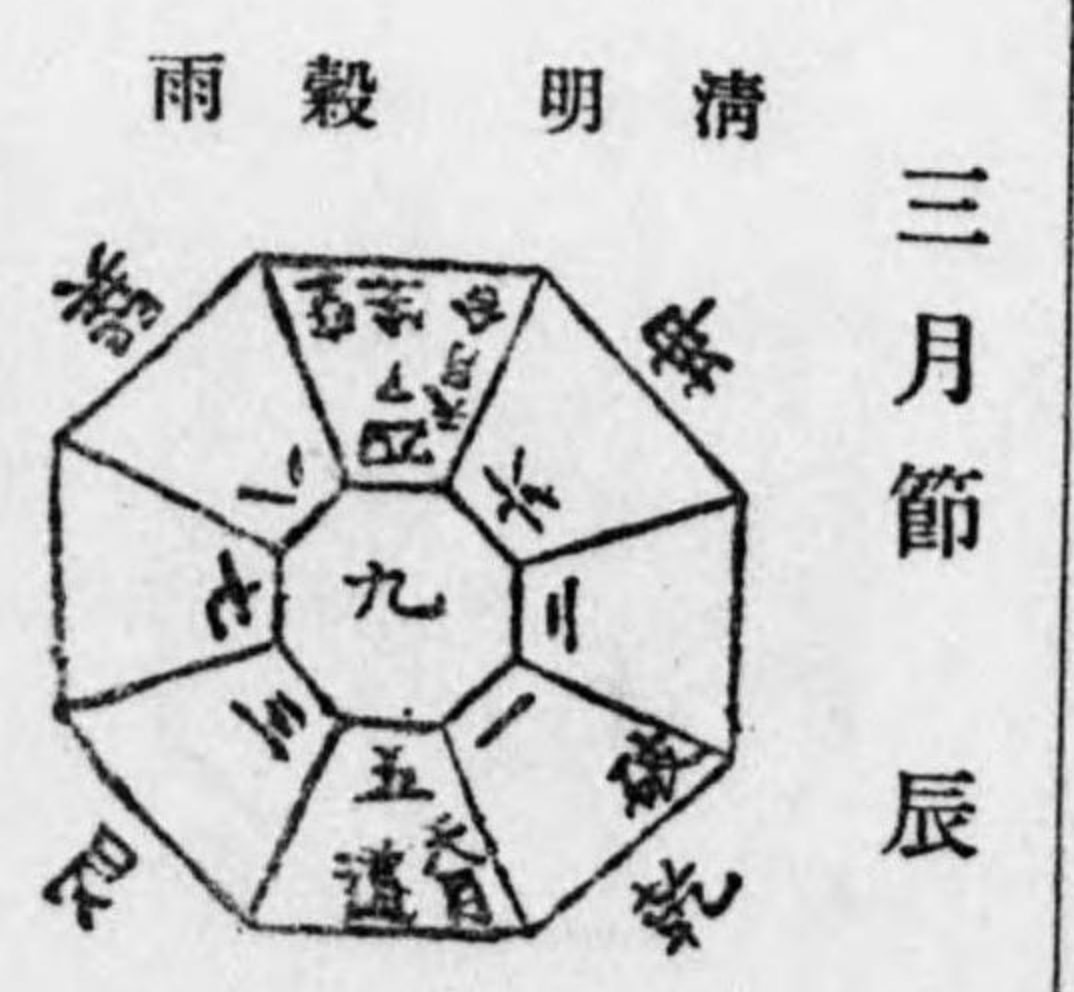
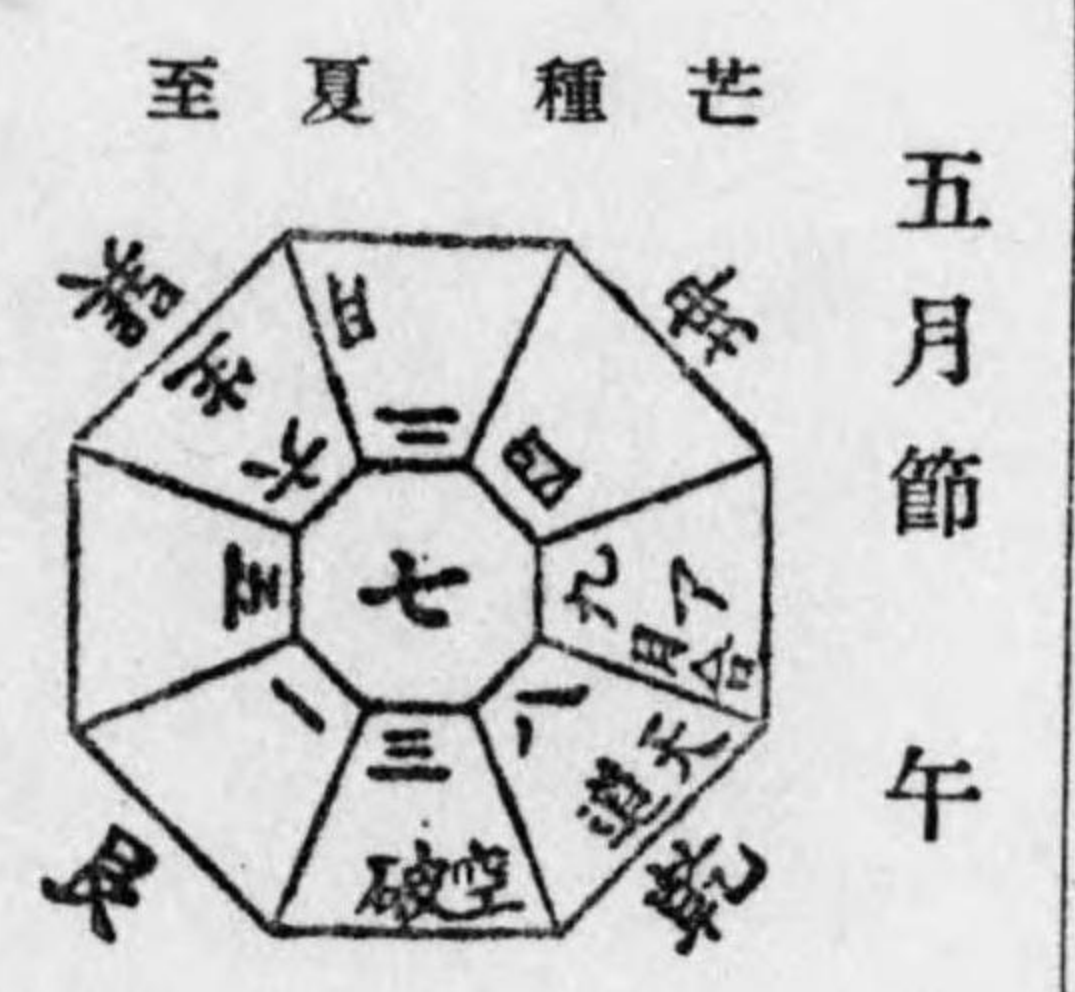
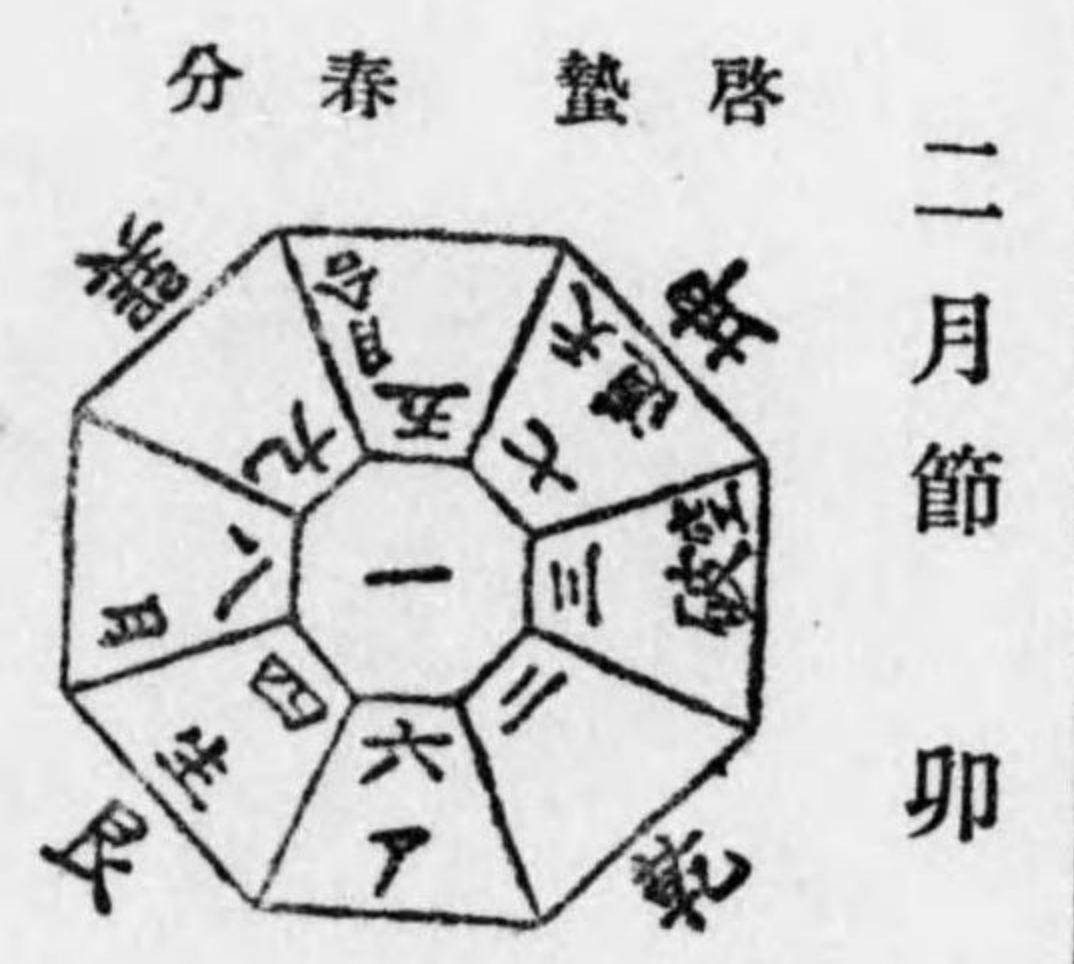
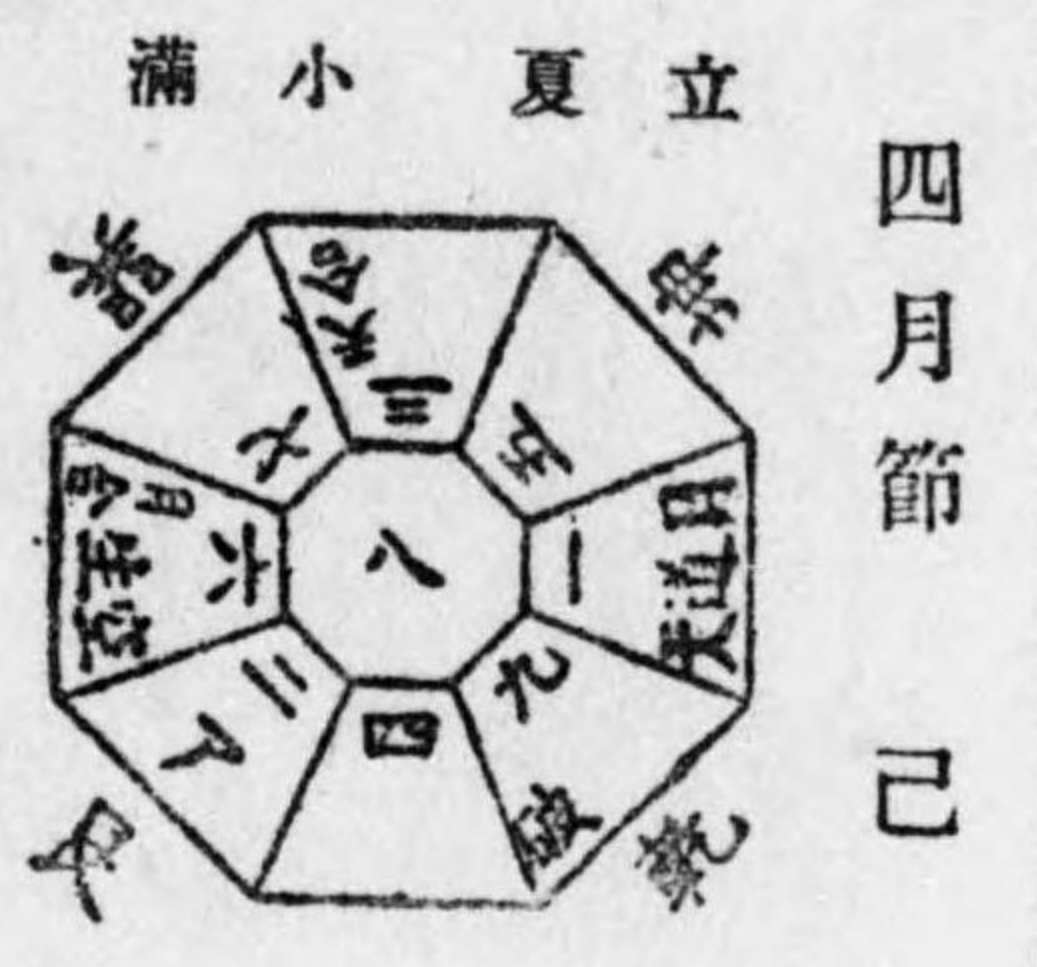
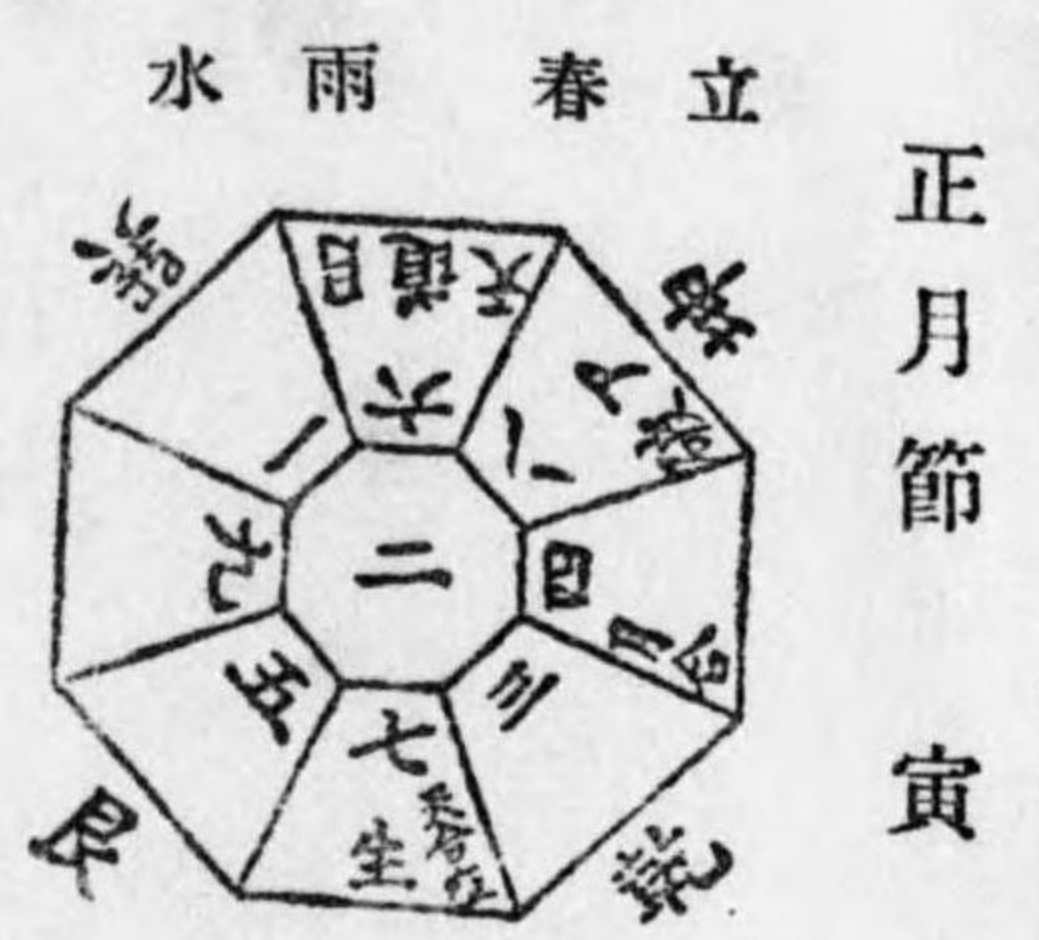
十一月節 子

大 雪 冬 至

十二月節 丑

小 寒 大 寒

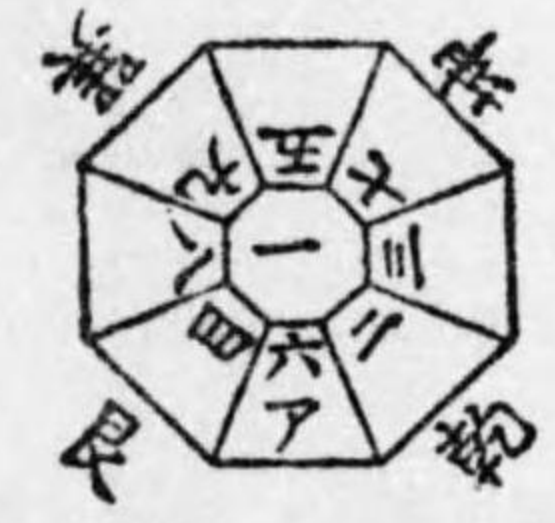
年寅亥申己



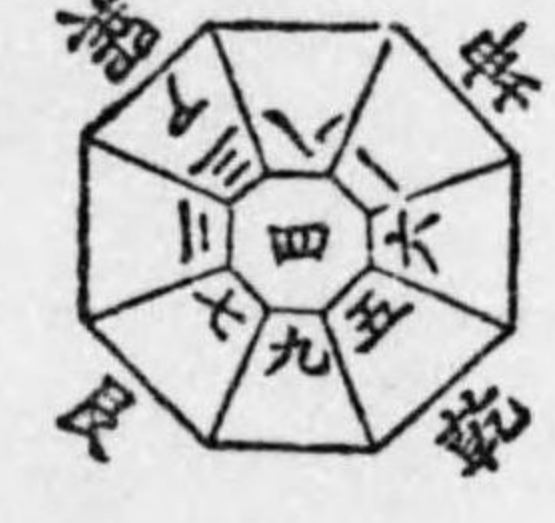
◎日盤

陽遁 上元 順行 冬至 小寒 大寒 立春 節

甲子 壬午 庚子 戊午 日 /



乙酉 丁卯 癸酉 辛卯 日 /



丙午 戊子 己卯 庚午 日 /



甲戌 乙未 丙辰 丁丑 日 /



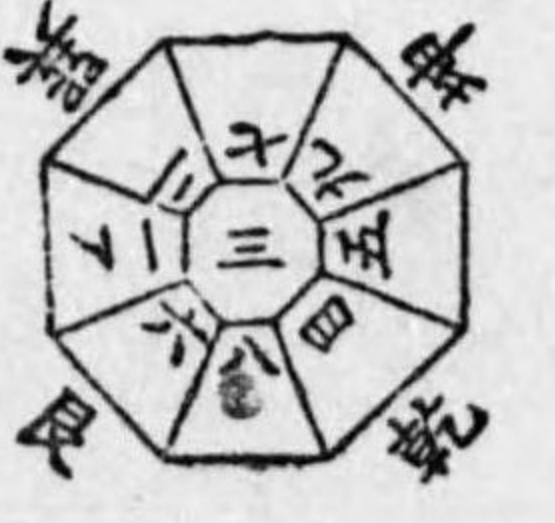
乙酉 丙辰 丁未 戊戌 日 /



丙午 丁丑 戊辰 己未 日 /



甲寅 乙卯 丙辰 丁巳 日 /



乙卯 丙辰 丁巳 戊午 日 /

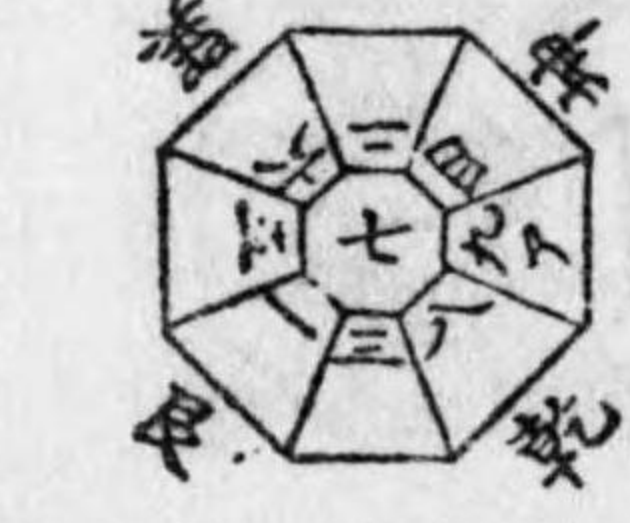


丙辰 丁巳 戊午 己未 日 /

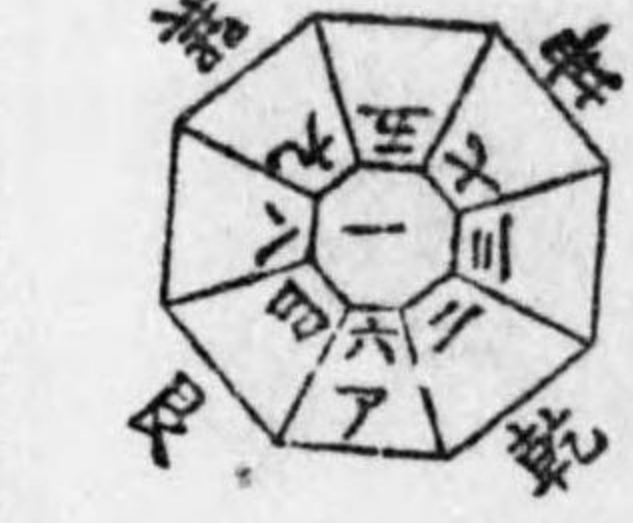


陽遁 中元 順行 雨水 啓蟄 春分 清明 節

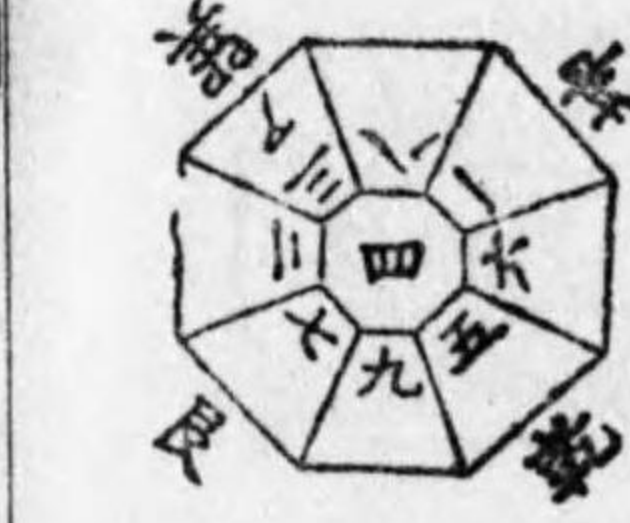
甲子 壬午 庚子 戊午 日 /



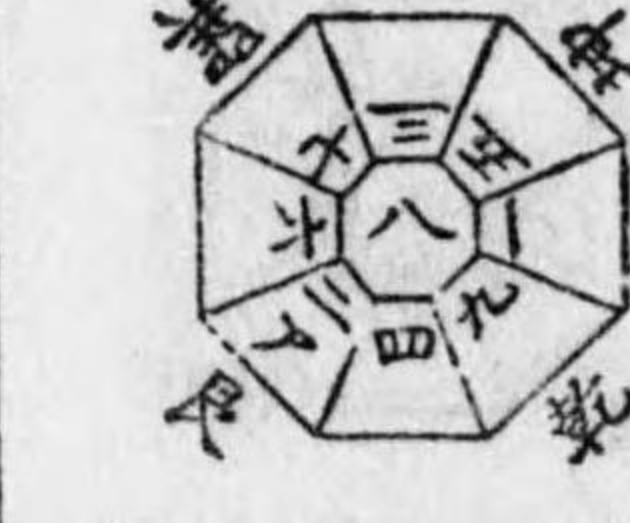
乙酉 丙辰 丁未 戊戌 日 /



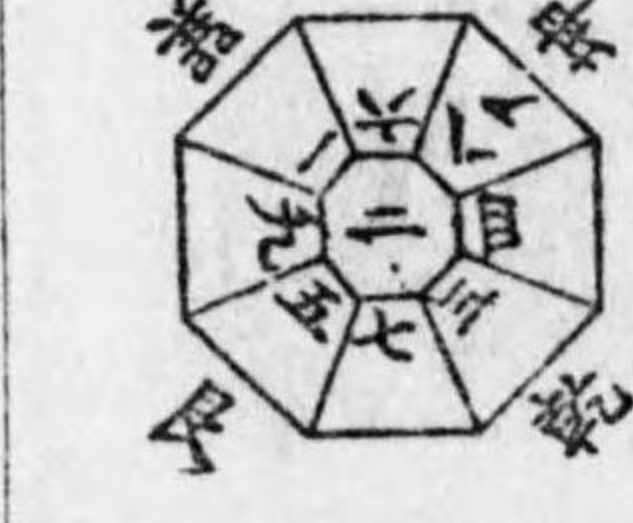
丙午 丁丑 戊辰 己未 日 /



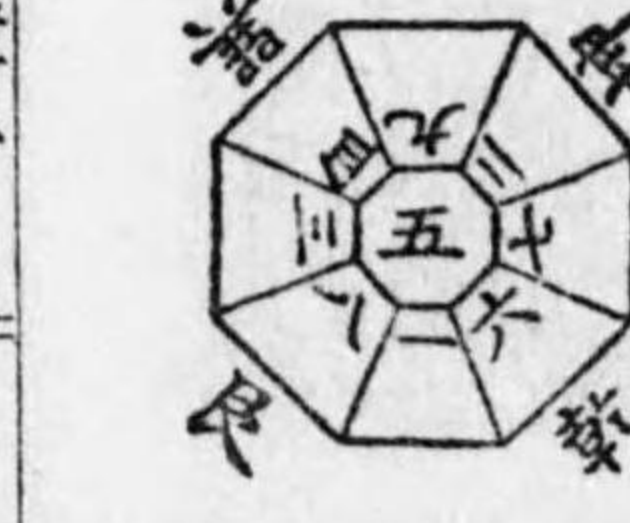
甲戌 乙未 丙辰 丁丑 日 /



乙酉 丙辰 丁未 戊戌 日 /



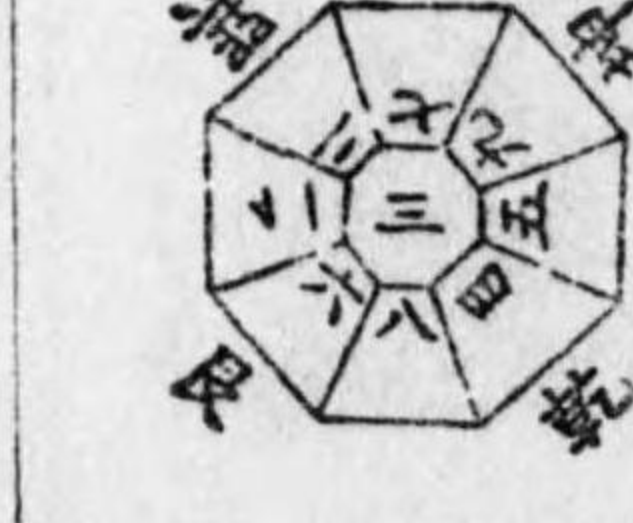
丙午 丁丑 戊辰 己未 日 /



甲寅 乙卯 丙辰 丁巳 日 /



乙卯 丙辰 丁巳 戊午 日 /



丙辰 丁巳 戊午 己未 日 /




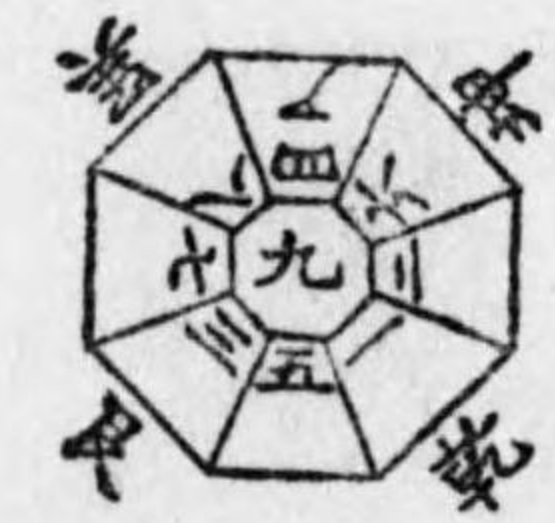






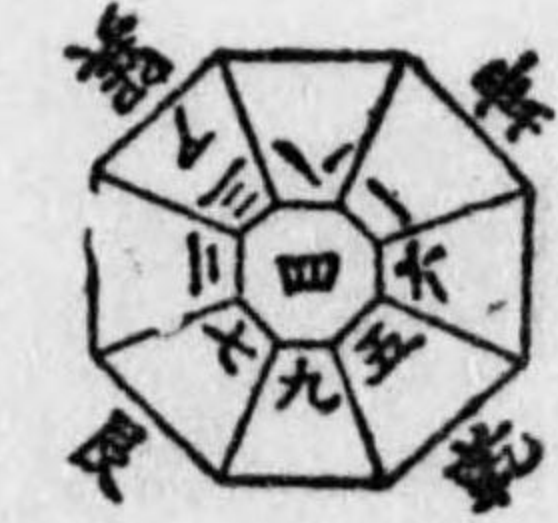
節芒小立穀順下陽
種滿夏雨行元遁

乙卯 丙午 丁酉 戊子 己卯 庚午 日 /	辛酉 壬子 癸卯 甲午 乙酉 丙子 丁卯 日 /	戊午 己酉 庚子 辛卯 壬午 癸酉 甲子 日 /
丙辰 丁未 戊戌 己丑 庚辰 辛未 日 /	壬戌 癸丑 甲辰 乙未 丙戌 丁丑 戊辰 日 /	己未 庚戌 辛丑 壬辰 癸未 甲戌 乙丑 日 /
丁巳 戊申 己亥 庚寅 辛巳 壬申 日 /	癸亥 甲寅 乙巳 丙申 丁亥 戊寅 己巳 日 /	庚申 辛亥 壬寅 癸巳 甲申 乙亥 丙寅 日 /

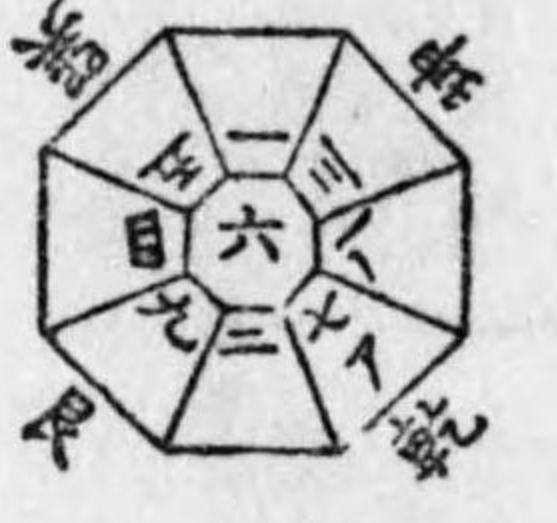
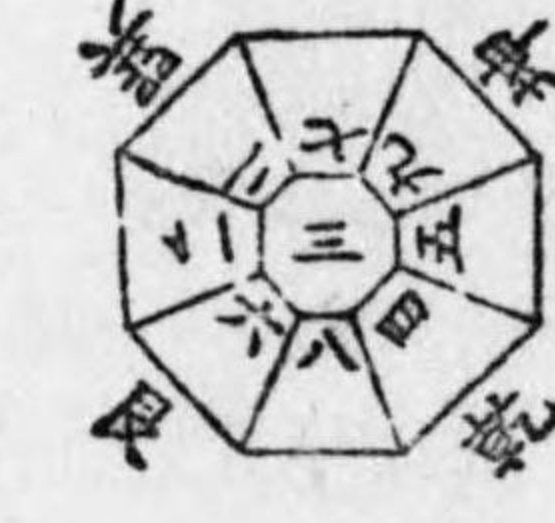
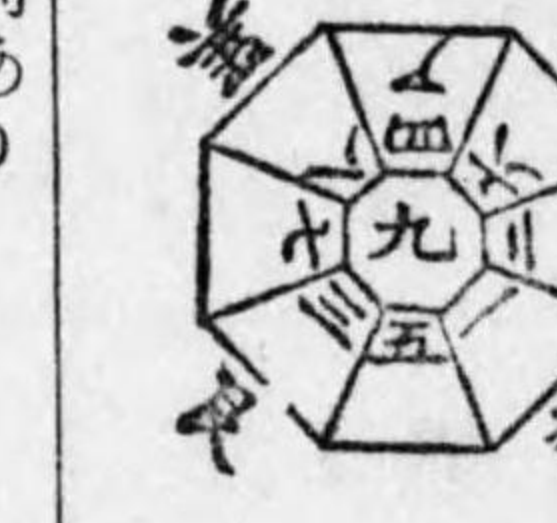

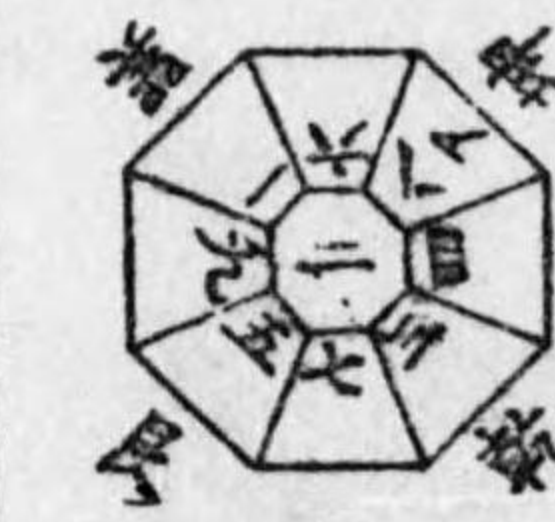


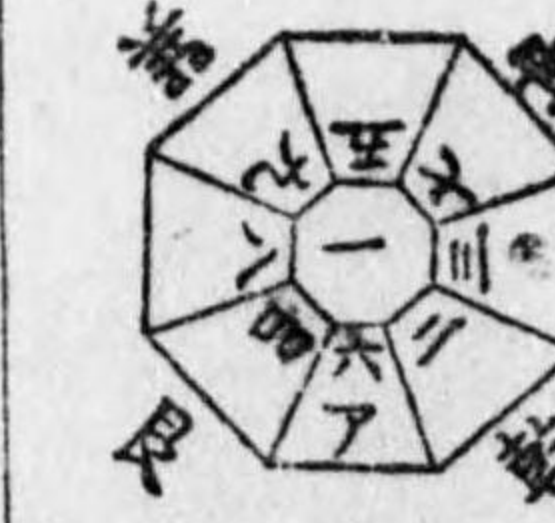
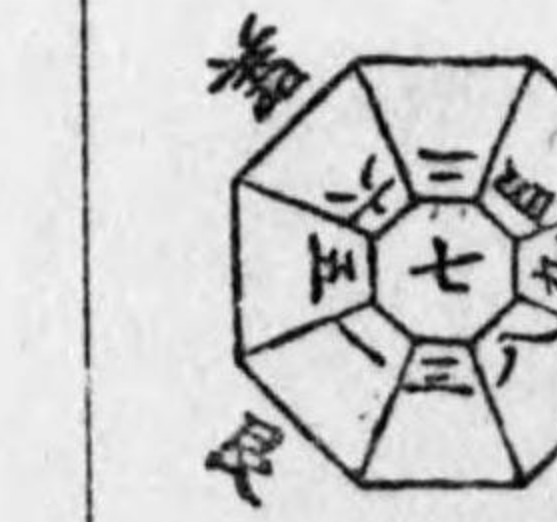
節立大 小 夏 逆 上 陰
秋 暑 暑 至 行 元 遁

乙卯 丙午 丁酉 戊子 己卯 庚午 日 /	辛酉 壬子 癸卯 甲午 乙酉 丙子 丁卯 日 /	戊午 己酉 庚子 辛卯 壬午 癸酉 甲子 日 /
丙辰 丁未 戊戌 己丑 庚辰 辛未 日 /	壬戌 癸丑 甲辰 乙未 丙戌 丁丑 戊辰 日 /	己未 庚戌 辛丑 壬辰 癸未 甲戌 乙丑 日 /
丁巳 戊申 己亥 庚寅 辛巳 壬申 日 /	癸亥 甲寅 乙巳 丙申 丁亥 戊寅 己巳 日 /	庚申 辛亥 壬寅 癸巳 甲申 乙亥 丙寅 日 /

陰遁中元逆行處暑白露秋分寒露節

<p>甲子 癸酉 壬午 辛卯 庚子 己酉 戊午 丁卯 丙子 乙酉 甲午 辛酉</p> <p>日 /</p> 	<p>甲子 癸酉 壬午 辛卯 庚子 己酉 戊午 丁卯 丙子 乙酉 甲午 辛酉</p> <p>日 /</p> 	<p>甲子 癸酉 壬午 辛卯 庚子 己酉 戊午 丁卯 丙子 乙酉 甲午 辛酉</p> <p>日 /</p> 
<p>乙丑 甲辰 癸丑 壬戌 辛未 庚辰 己丑 戊戌 丁未 丙辰 乙丑 甲辰 癸丑</p> <p>日 /</p> 	<p>乙丑 甲辰 癸丑 壬戌 辛未 庚辰 己丑 戊戌 丁未 丙辰 乙丑 甲辰 癸丑</p> <p>日 /</p> 	<p>乙丑 甲辰 癸丑 壬戌 辛未 庚辰 己丑 戊戌 丁未 丙辰 乙丑 甲辰 癸丑</p> <p>日 /</p> 
<p>丙寅 乙巳 甲申 癸亥 壬辰 辛丑 庚戌 己未 戊寅 丁巳 丙申 乙巳 甲申 癸亥</p> <p>日 /</p> 	<p>丙寅 乙巳 甲申 癸亥 壬辰 辛丑 庚戌 己未 戊寅 丁巳 丙申 乙巳 甲申 癸亥</p> <p>日 /</p> 	<p>丙寅 乙巳 甲申 癸亥 壬辰 辛丑 庚戌 己未 戊寅 丁巳 丙申 乙巳 甲申 癸亥</p> <p>日 /</p> 

陰遁下元逆行霜降立冬小雪大雪節

<p>甲子 癸酉 壬午 辛卯 庚子 己酉 戊午 丁卯 丙子 乙酉 甲午 辛酉</p> <p>日 /</p> 	<p>甲子 癸酉 壬午 辛卯 庚子 己酉 戊午 丁卯 丙子 乙酉 甲午 辛酉</p> <p>日 /</p> 	<p>甲子 癸酉 壬午 辛卯 庚子 己酉 戊午 丁卯 丙子 乙酉 甲午 辛酉</p> <p>日 /</p> 
<p>乙丑 甲辰 癸丑 壬戌 辛未 庚辰 己丑 戊戌 丁未 丙辰 乙丑 甲辰 癸丑</p> <p>日 /</p> 	<p>乙丑 甲辰 癸丑 壬戌 辛未 庚辰 己丑 戊戌 丁未 丙辰 乙丑 甲辰 癸丑</p> <p>日 /</p> 	<p>乙丑 甲辰 癸丑 壬戌 辛未 庚辰 己丑 戊戌 丁未 丙辰 乙丑 甲辰 癸丑</p> <p>日 /</p> 
<p>丙寅 乙巳 甲申 癸亥 壬辰 辛丑 庚戌 己未 戊寅 丁巳 丙申 乙巳 甲申 癸亥</p> <p>日 /</p> 	<p>丙寅 乙巳 甲申 癸亥 壬辰 辛丑 庚戌 己未 戊寅 丁巳 丙申 乙巳 甲申 癸亥</p> <p>日 /</p> 	<p>丙寅 乙巳 甲申 癸亥 壬辰 辛丑 庚戌 己未 戊寅 丁巳 丙申 乙巳 甲申 癸亥</p> <p>日 /</p> 

日に陽遁及陰遁の別あり
冬至節甲子の日より九氣順行陽遁とし夏至節甲子の日より九氣逆行陰遁とす。

◎時盤

盤	陽遁	子卯	午酉	辰	時
申	子	辰	申	酉	申
酉	丑	巳	酉	申	酉
戌	寅	午	戌	酉	戌
亥	卯	未	亥	酉	亥

盤	陽遁	戊丑	辰未	辰	時
申	子	辰	申	酉	申
酉	丑	巳	酉	申	酉
戌	寅	午	戌	酉	戌
亥	卯	未	亥	酉	亥

四十一

盤	ノ時	ノ日	亥寅	巳申	陽遁
申		辰		子	
酉		巳		丑	
戌		午		寅	
亥		未		卯	

盤	ノ時	ノ日	午酉	子卯	陰遁
申		辰		子	
酉		巳		丑	
戌		午		寅	
亥		未		卯	

陰遁	戊丑	辰未	ノ日	ノ時	盤
子	辰	申			
丑	巳	酉			
寅	午	戌			
卯	未	亥			

陰遁	巳申	亥寅	ノ日	ノ時	盤
子	辰	申			
丑	巳	酉			
寅	午	戌			
卯	未	亥			

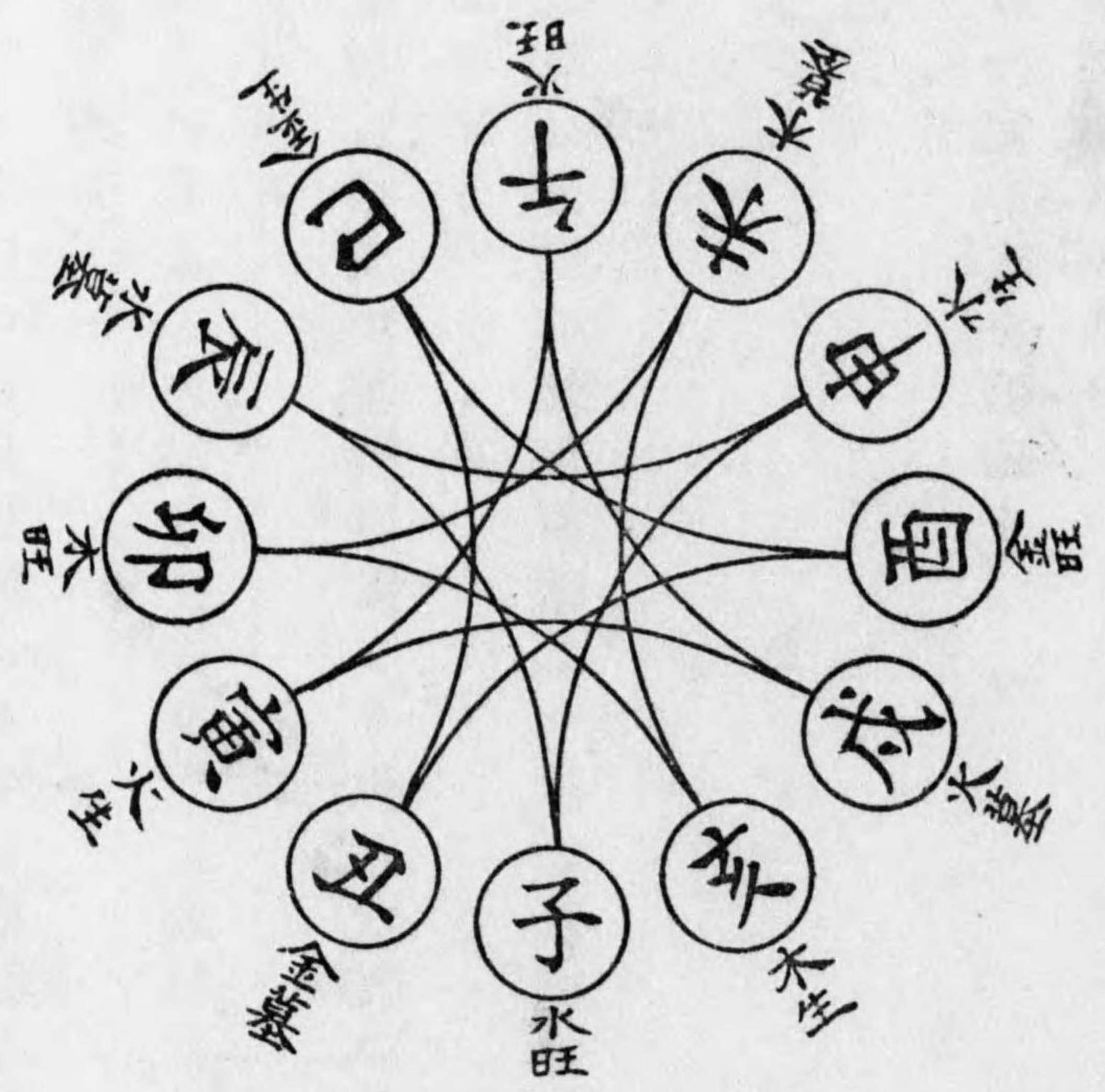
三合

○始まつて盛んになつて終る。
之を生旺墓の三合と爲す。

○三合とは十二支の五つ目にして生々不止の作用を謂ふ。

墓氣	旺氣	生氣	三合
辰	子	申	十二支
未	卯	亥	
戌	午	寅	
丑	酉	巳	

三合之圖



子 水旺	申 水旺	辰 土旺	卯 木旺	亥 木旺	未 土旺	午 火旺	寅 火旺	戌 火旺	酉 金旺	巳 金旺	丑 土旺
子の三合	申の三合	辰の三合	卯の三合	亥の三合	未の三合	午の三合	寅の三合	戌の三合	酉の三合	巳の三合	丑の三合
水	水	土	木	木	土	火	火	火	金	金	土
旺	旺	旺	旺	旺	旺	旺	旺	旺	旺	旺	旺
氣	氣	氣	氣	氣	氣	氣	氣	氣	氣	氣	氣

○酉の財寶は辰巳の信用世間より生じ辰巳の信用世間は子の親交より來る。

○子の親交は未申の忠誠奉仕より生じ未申の忠誠奉仕は卯の發展より來る。

○卯の發展は戌亥の後援剛毅より生じ戌亥の後援剛毅は午の先見より來る。

○午の先見は丑寅の新舊蓄積より生じ丑寅の新舊蓄積は酉の實體より來る。

線路

○大氣は一定の軌を波動す。

○大氣の波動に節あり。

之を線路と稱す。

○線路に左の四種あり。

- 四線幾 (四つ目)
- 七線象 (七つ目)
- 十線形 (十目)
- 十二線歸 (十二目)

○九氣、十二支の線路次の如し。

線			九氣	十二支
一	四	七		
子	卯	午	酉	
九	六	三		
丑	辰	未	戌	
二	五	八		
寅	巳	申	亥	

○線路は氣より象を爲り形を爲る現象生成の過程と時期を指示す。

○氣より象を生み形を生む作用を妙と謂ふ。則ち日蓮上人の説ける處なり。

○現象生成に關する詳述は拙者九氣現象學初梯に收む。

四淨土

○三合の四旺子卯午酉を四淨土と謂ふ。

○淨土とは地理的場處を指すに非ず。

天地の恵に浴し

神佛の加護慈悲を稟くる軌を指す。

則ち

○淨土の實在は人身の保有する大氣原子の劃分を強保するに存す。

弘法大師の唱導せる即身即佛とは蓋し之を謂ふ。

○卯は東方 生伸發展を司り

午は南方 叡智名譽を司り

酉は西方 財寶形體を司り

子は北方 親愛潛交を司る。

○東方は 動の淨土

西方は 靜の淨土

南方は 表の淨土

北方は 裏の淨土 たり。

○生ける人類の希求は、西方淨土に非ずして東方淨土とす。

○氣學は此の東方淨土を提唱、獎勵する所以也。

子謂子產

有君子之道四焉

(論語公治長)

四海皆歸妙法

(日蓮)

附月及時の十二支配別表

時刻	月	十二支
自午前一時 至午前三時	正月	丑
自午前三時 至午前五時	二月	寅
自午前五時 至午前七時	三月	卯
自午前七時 至午前九時	四月	辰
自午前九時 至午前十一時	五月	巳
自午前十一時 至午後一時	六月	午
自午後一時 至午後三時	七月	未
自午後三時 至午後五時	八月	申
自午後五時 至午後七時	九月	酉
自午後七時 至午後九時	十月	戌
自午後九時 至午後十一時	十一月	亥
自午後十一時 至午前一時	十二月	子

月の十幹撰知表

年の十幹					舊正月
甲	乙	丙	丁	戊	
巳	庚	辛	壬	癸	丙
丙	戊	庚	壬	甲	

氣學入門終

昭和四年五月十日印刷
昭和四年五月二十日發行
昭和十二年十一月十七日再版發行

定價金貳圓



著者 田中登美男
東京市杉並區善福寺町四〇番地

發行者 田中登美男
東京市右京區嵯峨小倉山町三番地

印刷者 小野原三郎
東京市下京區猪熊通九條南入

印刷所 小原野印刷所
東京市下京區猪熊通九條南入

京都市嵯峨小倉山

發行所 氣學講堂

電話嵯峨四二五番
番替京都二〇二九番

377
446

終